

昭和60年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

**三尻遺跡群　若松遺跡・黒沢遺跡・東遺跡**

1986

埼玉県熊谷市教育委員会

## 序 文

熊谷市は埼玉県北部の中心であり、歴史的にもゆかりの深い地域であります。三尻地区は、市域の西部にあたり、大字三ヶ尻・拾六間・新堀新田の3地域を合わせた旧三尻村であり、縄文時代から歴史時代にわたる集落跡、多くの古墳、中世の黒沢館跡、寺院跡などの存在が知られています。

三尻地区には、市指定文化財の名勝である觀音山があり、孤立した丘陵で、松林におおわれています。この觀音山の北側には三ヶ尻古墳群があり、24基の古墳が確認されている中で5基が調査され、多くの遺物が発見されています。

当地区では、昭和56年度から県営ほ場整備事業が継続して実施されています。本市教育委員会では、この事業に伴い、発掘調査を実施し、記録保存に努めています。

本書は、昭和59年度に実施された若松遺跡・黒沢遺跡・東遺跡の発掘調査の成果をまとめて報告するものです。

遺跡は、貴重な文化遺産として、後世に残すことが第一に計られるべきですが、工事の性格上やむをえず、記録保存の方策をとることとなりました。

発掘調査によって得られた資料は、貴重な文化遺産として、学術研究、学校や社会教育に資するものであると考えます。こうした、調査・報告を契機として、多くの市民の方々が、埋蔵文化財保護について、より一層のご理解とご協力くださることを願ってやみません。

最後になりましたが、県文化財保護課、深谷土地改良事務所、熊谷西部土地改良事務所、地元三尻地区住民の方々からご指導・ご協力いただきましたことに、深く感謝の意を表します。

昭和61年3月

熊谷市教育委員会

教育長 関根幸夫

## 例　　言

1. 本書は、埼玉県熊谷市大字三ヶ尻字若松・黒沢・東に所在する若松遺跡・黒沢遺跡・東遺跡の発掘調査報告書である。

2. 本調査は、県営ほ場整備事業（熊谷西部地区）に伴う事前記録保存の為の発掘調査である。

3. 若松遺跡は、国庫・県費補助事業により、黒沢遺跡・東遺跡は、深谷土地改良事務所の委託事業により、それぞれ調査を実施した。

4. 発掘調査期間は下記のとおりである。

若松遺跡 昭和59年7月23日～8月9日、12月4日～昭和60年2月17日

黒沢遺跡・東遺跡 昭和59年8月10日～12月3日

5. 発掘調査の担当、本書の執筆・編集は金子正之が行った。

6. 発掘調査の組織は次のとおりである。

調査主体者	熊谷市教育委員会教育長	関根幸夫
調査担当者	社会教育課主事	金子正之
事務局	課長	岡田 詮
	課長補佐	茂木 優
	係長	北 俊明
	主査	山川 建
	主事	寺社下博
	〃	米澤ひろみ

7. 人骨鑑定は、早稲田大学考古学研究室金子浩昌氏にお願いし、放射性炭素年代測定は、学習院大学教授木越邦彦氏にお願いし、それぞれ玉積をいただいた。

8. 陶磁器については、浅野晴樹氏に御教授を受けた。記して感謝いたします。

9. Ⅲ. 遺跡の立地と環境は、太田博之が執筆した。

10. 若松遺跡の基準点の座標は、No.1はX=17544.910m、Y=-45226.337m、No.2はX=17483.229m、Y=-45277.282mである。

11. 黒沢遺跡の基準点の座標は、No.1はX=17530m、Y=-44930m、No.2はX=17495m、Y=-44930m、No.3はX=17510、Y=-44940mである。

12. 遺構図の中で、土器片はT、川原石はS、焼土ブロックはF、ロームブロックはR、炭化物はC、鉄器片は乙と記号化した。

13. 遺物の写真図版の個々の番号は、挿図番号を示す。例えば、1—2は第1図の2の遺物をさす。

14. 遺構平面図の中で、配石遺構と竪穴状遺構は建物ということでH、土塀はD、集石遺構はS、溝はM、ピットはPと記号化した。

## 目 次

序文	I
例言	II
目次	III
挿図目次	IV
図版目次	V
表目次	V
I. 発掘調査に至るまでの経過	1
II. 発掘調査の経過	1
III. 遺跡の立地と選境	3
IV. 若松遺跡	9
1. 遺跡の概観	9
2. 遺構と遺物	10
V. 黒沢遺跡	41
1. 遺跡の概観	41
2. 遺構と遺物	42
VI. 東遺跡	68
1. 遺跡の概観	68
2. 遺構と遺物	71
VII. 若松遺跡及び黒沢遺跡出土の火葬・土葬の骨について	75
早稲田大学考古学研究室 金子浩昌	
VIII. 若松遺跡出土木炭の放射性炭素年代測定結果	76
学習院大学教授 木越邦彦	
IX. まとめ	77

## 挿 図 目 次

- |                    |                          |
|--------------------|--------------------------|
| 第1図 遺跡分布図          | 第37図 15号火葬墓              |
| 第2図 遺跡位置図          | 第38図 16号火葬墓              |
| 第3図 若松遺跡全測図        | 第39図 16号火葬墓出土遺物          |
| 第4図 1号集石遺構         | 第40図 17号火葬墓              |
| 第5図 2号集石遺構         | 第41図 18号火葬墓              |
| 第6図 1号配石遺構         | 第42図 19号火葬墓              |
| 第7図 2号配石遺構         | 第43図 19号火葬墓出土遺物          |
| 第8図 3号集石遺構         | 第44図 1~5号ピット             |
| 第9図 4号集石遺構         | 第45図 1号溝跡                |
| 第10図 5号集石遺構        | 第46図 グリッド出土遺物(1)         |
| 第11図 6号集石遺構        | 第47図 グリッド出土遺物(2)         |
| 第12図 7号集石遺構        | 第48図 グリッド出土遺物(3)         |
| 第13図 8号集石遺構        | 第49図 グリッド出土遺物(4)         |
| 第14図 9号集石遺構        | 第50図 黒沢遺跡トレンチ配置図         |
| 第15図 10号集石遺構       | 第51図 黒沢遺跡I区全測図           |
| 第16図 11号集石遺構       | 第52図 I区土層断面図             |
| 第17図 12号集石遺構       | 第53図 1~23号ピット            |
| 第18図 14号集石遺構       | 第54図 24~54号ピット           |
| 第19図 13号集石遺構       | 第55図 55~79号ピット           |
| 第20図 15号集石遺構       | 第56図 80~105号ピット          |
| 第21図 16号集石遺構       | 第57図 1~9号土塀              |
| 第22図 17号集石遺構       | 第58図 10~15号土塀            |
| 第23図 18号集石遺構       | 第59図 16~18号土塀            |
| 第24図 1号土葬墓         | 第60図 19~23号土塀            |
| 第25図 大棗            | 第61図 24~29号土塀            |
| 第26図 1号火葬墓         | 第62図 30~35号土塀            |
| 第27図 2号火葬墓         | 第63図 36号土塀・1~3号溝・1号竪穴状遺構 |
| 第28図 3+4+6号火葬墓出土遺物 | 第64図 I区出土遺物              |
| 第29図 3+4号火葬墓       | 第65図 3トレンチ土層断面図          |
| 第30図 5+6+7号火葬墓     | 第66図 4トレンチ遺構平面図          |
| 第31図 8号火葬墓         | 第67図 1号土塀                |
| 第32図 9号火葬墓         | 第68図 1号土塀出土遺物            |
| 第33図 10号火葬墓        | 第69図 4+8トレンチ出土遺物         |
| 第34図 11号火葬墓        | 第70図 1号火葬墓               |
| 第35図 12+14号火葬墓     | 第71図 1~11号ピット            |
| 第36図 13号火葬墓        | 第72図 深地跡                 |

第73図	5トレンチ集石遺構	第79図	1号集石遺構
第74図	7トレンチ土層断面図	第80図	1号集石遺構
第75図	8トレンチ土層断面図	第81図	2号集石遺構
第76図	土葬骨出土状態	第82図	1号竪穴状遺構
第77図	9トレンチ土層断面図	第83図	1号竪穴状遺構出土遺物
第78図	東遺跡トレンチ配置図	第84図	2号集石遺構・1号竪穴状遺構出土遺物

## 図版目次

図版1	若松遺跡航空写真	図版5-5	2号配石遺構出土土器(47-6)
2-1	若松遺跡遠景(発掘調査前)	6	D-15区出土馬齒
2	2号配石遺構	6	黒沢遺跡航空写真
3	集石遺構群遠景	7-1	黒沢遺跡、土城・ピット群
4	5号集石遺構	2	I区、4号土塁
5	8号集石遺構	3	I区、20号土塁
6	14号集石遺構	4	I区、20号土塁
3-1	18号集石遺構	5	I区、18号土塁・65号ピット
2	1号火葬墓	6	28・29号土塁、93号ピット
3	3・4号火葬墓	8-1	I区、30号土塁
4	5・6号火葬墓	2	1号竪穴、7号土塁、12・13号ピット
5	8号火葬墓	3	4トレンチ、1号土塁
6	9号火葬墓	4	4トレンチ、1号土塁遺物出土状態
4-1	10号火葬墓	5	8トレンチ、土葬骨出土状態
2	12・13・14号火葬墓	6	東遺跡、1号集石遺構
3	13号火葬墓	9	1号土葬墓、若松グリッド出土遺物
4	13号火葬墓	10	3・4・6・16号火葬墓、若松グリッド
5	15号火葬墓	11	若松グリッド
6	16号火葬墓	12	若松グリッド、黒沢I区・4トレンチ
5-1	19号火葬墓	1号土塁	
2	1号土葬墓	13	黒沢4・8トレンチ、東1・2号集石・ 1号竪穴状遺構
3	2号配石遺構板碑出土状態		
4	2号配石遺構出土土器(47-5)		

## 表目次

表1	pit一覧表(1)	表3	pit一覧表(3)
2	pit一覧表(2)	4	土塁一覧表

## I. 発掘調査に至るまでの経過

熊谷市は、既に中条地区、万古地区において、農業構造改善事業が実施され、埋蔵文化財を記録保存する為、発掘調査が行われている。三尻地区でも、昭和56年度から埼玉県営は場整備事業が実施され、継続的に発掘調査を行っている。

昭和59年4月16日付深地第159号で埼玉県深谷土地改良事務所から、県営は場整備事業熊谷西部地区内にある埋蔵文化財の取り扱いについて協議文書が提出され、昭和59年7月16日付教文第291号において埼玉県教育委員会から、発掘調査を実施する旨回答がなされた。

これを受け熊谷市教育委員会が、国庫、県費補助金、農政負担金および市費をもって調査を実施することになった。

事業計画による工事は、微高地上にある桑畠の抜根整地、水田の整地および道水路のパイプ埋設工事であった。面的に削平される部分は、トレンチ調査によって土層堆積状態、遺跡範囲の確認をしてからグリッド方式で調査を行い。水路部分は、トレンチ調査により発掘を実施することにした。

発掘調査は、昭和59年7月23日から開始された。

## II. 発掘調査の経過

若松遺跡は、水田になるため面的に削平されるので、調査を実施した。まず土層堆積状態、遺跡範囲の確認のため、ほ場整備事業の道水路と平行になるようにトレンチ調査を行い、遺構を確認した。遺構確認面まで重機によって表土剥ぎを行い、1辺5mのグリッド方式を用いて調査を行った。南西隅をA-1として、北へ1、2、3…、東へA・B・C…とし、Aラインは、南から北へA-1、A-2、A-3…と呼称した。Bライン以東もAラインと同様に呼称してグリッド設定を行った。

遺構は集石遺構、配石遺構が多く検出されたので、重機による表土剥ぎの後にも、人力による表土剥ぎを行い、それらの遺構の確認をした。遺構確認面の精査を実施し、火葬墓、ピット、溝跡を確認した後、各遺構ごとに調査を実施した。

若松遺跡からは、配石遺構2基、集石遺構18基、火葬墓19基、土葬墓1基、ピット5個、溝跡1本が検出され、内耳土器、かわらけ、鉄釘、鉄滓、陶磁器片、板碑片、石臼片等が出土した。

黒沢遺跡は、昭和58年度調査を実施した黒沢館跡の南側に位置し、若松遺跡と同じにトレンチ調査を実施し、土層堆積状態を確認したのち、重機によって表土剥ぎを行った。トレンチは、9本配して、1、2トレンチから遺構が多く検出されたので拡張して、I区と呼称して調査を行った。I区は、1辺5mのグリッド方式を用いて調査を行うため、若松遺跡と同じ呼称の方法を用いてグリッド設定をした。遺構確認面の精査をして遺構の確認を行った後、各遺構ごとに調査を実施した。

黒沢遺跡I区から、土壙36基・ピット105個・溝跡3本・竪穴状遺構1軒が検出され、4トレンチから、土壙1基・ピット11個・火葬墓1基・窓地跡1本が検出された。8トレンチからは、土葬にされた骨が出土した。

東遺跡は、水路部分にトレンチを入れて調査を行い、遺構が検出された部分は拡張を行って調査を実施した。

東遺跡からは、集石遺構2基・竪穴状遺構1基が検出され、1号集石遺構は、多数の礫とともに、須恵器・土師器が混在した状態で出土した。本調査によって、平安時代、中世の遺構・遺物が検出され、昭和60年2月17日に調査は終了した。



- |            |             |             |                 |
|------------|-------------|-------------|-----------------|
| 1. 飯塚遺跡    | 12. 女塚1号墳   | 23. 上辻・下辻遺跡 | 34. 小敷田遺跡       |
| 2. 弥藤吾新田遺跡 | 13. 鰐塚古墳    | 24. 桶ノ上遺跡   | 35. 長野中学校校内遺跡   |
| 3. 木の本古墳群  | 14. 大塚古墳    | 25. 若松遺跡    | 36. 小見真觀寺古墳     |
| 4. 西別府廃寺   | 15. 中条古墳群   | 26. 黒沢遺跡    | 37. 小兒古墳群       |
| 5. 石田遺跡    | 16. 東沢遺跡    | 27. 東遺跡     | 38. 地蔵塚古墳       |
| 6. 入川遺跡    | 17. 酒巻古墳群   | 28. 宮塚古墳    | 39. 八幡山古墳       |
| 7. 深町遺跡    | 18. とやま古墳   | 29. 広瀬古墳群   | 40. 埼玉古墳群       |
| 8. 寺東遺跡    | 19. 大稻荷古墳群  | 30. 石原古墳群   | 41. 旧盛德寺        |
| 9. 別府古墳群   | 20. 三ヶ尻古墳群  | 31. 肥塚古墳群   | 42. 野合遺跡        |
| 10. 玉井古墳群  | 21. 三ヶ尻上古遺跡 | 32. 平戸遺跡    | 43. 渡柳陣場遺跡      |
| 11. 横塚山古墳  | 22. 三尻中学校遺跡 | 33. 池上遺跡    | 44. 鴻池・武良内・高畠遺跡 |
|            |             |             | 45. 袋・代遺跡       |

第1図 遺跡分布図

### III. 遺跡の立地と環境

若松遺跡、黒沢遺跡、および東遺跡は埼玉県熊谷市大字三ヶ尻2524番地ほかにあり、いずれも国鉄蘿原駅の南方約1.5km、利根川より南に約2.5km、荒川より北に約2.5km、荒川左岸の標高40m余りの自然堤防上に立地する。

熊谷市の存在する県北地方一帯の平野部は、以前より穀物、野菜、糞糸の生産を中心とする農村地帯であったが、近年、都市化の進展は著しく、市街地の拡大はめざましいものがある。また、一方では農業基盤の整備も着実に進行しており、これら一連の開発行為は、埋蔵文化財の保護という問題に関し、具体的現実的対応を迫るものであって、このような記録保存という措置も、それらへの対応の一環である。

熊谷市は現在大部分が平野部に立地しているが、当遺跡の存在する三ヶ尻地区には一部、觀音山、三ヶ尻台地など、櫛引台地東端部を含んでいる。櫛引台地は寄居付近を扇頂部とする荒川扇状地によって形成された台地であり、深谷市南西部から松久丘陵にかけての櫛引面と、荒川左岸から深谷市東部にかけての寄居面の二つの段丘に分れ、櫛引面は武藏野期、寄居面は立川期にそれぞれ対応する。

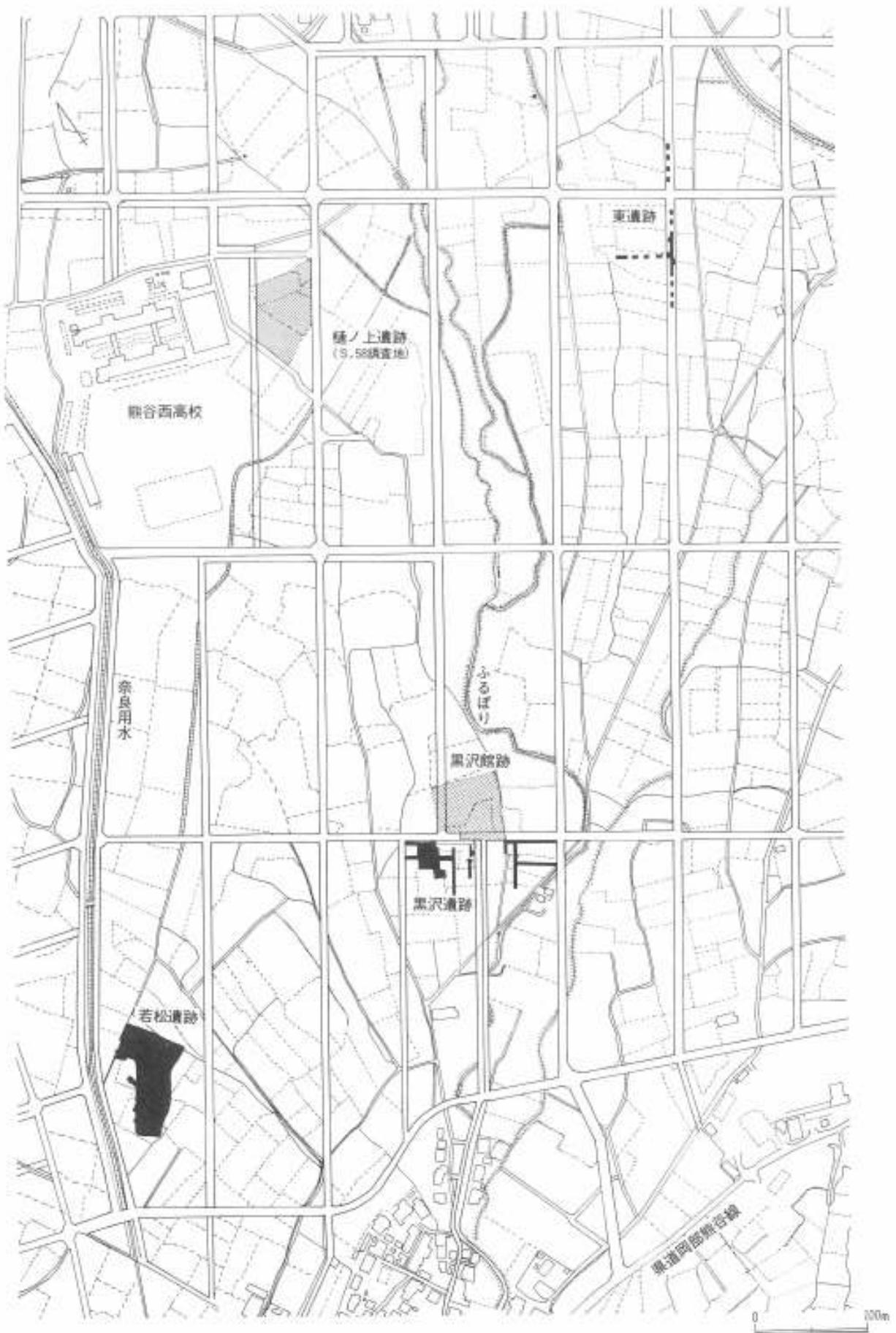
一方、櫛引台地の北方、深谷市北部から妻沼町、熊谷市、行田市にかけては、利根川、荒川両河川の乱流、氾濫によって、広大な平野が形成されている。この平野部は妻沼低地と称され、利根川沿いに加須低地、中川低地へと切れ目なく連続しているが、この地域一帯は所謂『関東造盆地運動』の中心地域であり、そのため行田市付近ではローム台地すらも現地表下に埋没している。また、これら低地部一帯は大小の河川によって形成された自然堤防が複雑に発達し、現に本遺跡も三ヶ尻台地から北あるいは東方へ延びる自然堤防上に立地する遺跡である。そこで、ここでは、主に妻沼低地に分布する遺跡を中心に、時代を追って簡単に触れていくことにしたい。

旧石器時代の遺跡は、行田市長野中学校校内遺跡<sup>(註1)</sup>が唯一知られている。校庭より、グレイバー、マイクロコアが表採されており、埋没ローム台地上に立地する遺跡と考えられる。縄文時代の遺跡は、埋没ローム台地上に、行田市渡柳陣場遺跡<sup>(註2)</sup>、同長野中学校校内遺跡<sup>(註3)</sup>が知られる。他には、熊谷市別府、上之等の自然堤防上に、遺物散布地が存在する程度で、現段階では明確に実態を把握することはできない。しかし、近年、熊谷市別府地内において、入川遺跡、深町遺跡、寺東遺跡、石田遺跡<sup>(註4)</sup>等、現水田下からの遺跡の発見が相次ぎ、従来この時期の遺跡の存在が知られていなかった低地帯にも、集落が形成されていたことが予想される。

弥生時代に至っても遺跡の分布に概して希薄である。弥生文化波及期の遺跡としては、櫛引台地西北端に位置する四十坂遺跡<sup>(註5)</sup>が著名であるが、妻沼低地においては、この時期の遺跡は知られていない。当地域における弥生時代の遺跡は四十坂期以後、須和田期の段階で確認される。櫛引台地東方の沖積地に深谷市上敷免遺跡<sup>(註6)</sup>、妻沼町飯塚遺跡<sup>(註7)</sup>、熊谷市石田遺跡<sup>(註8)</sup>、熊谷市東部、荒川扇状地東端付近に熊谷市平戸遺跡<sup>(註9)</sup>、同池上遺跡<sup>(註10)</sup>、同池上西遺跡<sup>(註11)</sup>、行田市小敷田遺跡<sup>(註12)</sup>、また、段丘上ではあるが、三ヶ尻上古遺跡<sup>(註13)</sup>等が知られている。このうち、池上遺跡、池上西遺跡、および小敷田遺跡は連続した遺跡と考えられ、『環濠』とされる人工の溝、方形周溝墓、埋没河川が確認され、集落はこの埋没河川に沿うかたちで形成されていると思われる。

上敷免遺跡では2基の再葬墓が検出され、壺型土器6個体が出土している。この遺跡ではほかにも20個体以上の壺型土器の存在が知られ、現在公表されている資料としては、池上遺跡と並んで最も豊富な内容を持っている。さらに飯塚、三ヶ尻上古遺跡出土の土器も再葬墓に伴うものとされているが、実態は不明である。

中期後葉～後期段階の遺跡は極端に少ない。その中で吹上町袋・代遺跡1号住居跡<sup>(註14)</sup>は唯一の調査例で、宮ノ台併行とされる土器とともに、口縁部に櫛描波状文、頸部に纏状文、ボタン状円文を貼付する広口壺が出土している。このような櫛描文系の土器は、従来比企・入間での丘陵地帯を中心とする分布が知られているが、熊谷市周辺の低地帯では他に例を見ない。



第2図 遺跡位置図

これに対し、古墳時代になると、集落の調査例は急激な増加を見せ、水稻耕作の定着が進展したことを見かがわせる。しかし、五領一和泉期段階の集落は、比較的小規模なものにとどまっている。妻沼町弥藤吾新田遺跡<sup>(II-1)</sup>では、五領期5軒、和泉期1軒の住居跡が検出されている。五領期の住居跡からは單口縁の台付壺、壺、高杯、小型壺、石田川式系統のS字状口縁台付壺、有段口縁壺のほか、くびれ部粘土帶にキザミを施され、肩部に櫛状工具による平行線文、鋸歯文、連弧文が描かれる。非在地系の壺が出土するなど、複雑な共伴関係を示している。また、和泉期の住居ではすでに、煙道を有さない初期的なカマドが出現し、当地が児玉地方とともに県内で最も初期にカマドを取り入れた地域として注目される。熊谷市東沢遺跡<sup>(II-2)</sup>では埋没小河川が検出され、覆土中より五領一和泉期の土器と多数の木器が出土している。東沢遺跡の土器群は、脚部に2段5個の穿孔を有し、脚部上位に沈線文帯を施す高杯や、受口、あるいはS字状を呈する口縁外面に貝殻腹縁による押圧がなされる變など、東海系の要素を持つ土器をはじめ、口縁にキザミを有する壺、S字状口縁台付壺、高杯、壺、壺、小型壺、手捏土器など多彩な内容を持っている。一方、木器も、歟、砧、叩台、フォーク状木器、スコップ状木器、擂り粉木状木器、槍状木器、角材板材、杭など、この時期の木製農工具の良好な資料となっている。さらに、行田市小敷田遺跡<sup>(II-3)</sup>では埋没河川より、東海系、畿内系の搬入品、あるいは在地模造品を含む多量の土器が出土し、住居跡は検出されていないものの、近くに大規模な集落の存在を予想させる。この他にも、熊谷市入川遺跡<sup>(II-4)</sup>、深町遺跡<sup>(II-5)</sup>、石田遺跡<sup>(II-6)</sup>、行田市鴻池遺跡<sup>(II-7)</sup>、武良内遺跡<sup>(II-8)</sup>、高畠遺跡<sup>(II-9)</sup>等において、五領期一和泉期の住居跡、祭祀遺構が検出されている。

鬼高期以降は、遺跡の数はさらに増加し、かつ大規模なものとなる。熊谷市三尻地区には、本遺跡の立地する自然堤防から段丘上にかけて、鬼高～真間、国分期の集落遺跡が集中する。樋上遺跡<sup>(III-1)</sup>は、県教育委員会、県埋文事業団、熊谷市教育教会によって、都合6次の調査がなされ、鬼高～国分期の住居跡70軒以上が検出されている。さらに上辻・下辻遺跡<sup>(III-2)</sup>、三尻中学校遺跡<sup>(III-3)</sup>、三ヶ尻天王遺跡<sup>(III-4)</sup>においても和泉末～国分期にかけての住居跡が多数検出され、また、付近の畠地では至る所で該期の土器片が表採されるなど、遺跡の範囲はさらに拡大する可能性がある。このほか、周辺地域では、深谷市上敷免遺跡<sup>(III-5)</sup>、熊谷市石田遺跡<sup>(III-6)</sup>、中島遺跡<sup>(III-7)</sup>、行田市小針遺跡<sup>(III-8)</sup>、野合遺跡<sup>(III-9)</sup>、高畠遺跡<sup>(III-10)</sup>、吹上町袋・代遺跡<sup>(III-11)</sup>等が知られている。

一方、古墳は、隣接する児玉・比企地方では五領期段階においてすでに成立を見るのに対し、妻沼低地では5世紀後半に至り、はじめて出現を見る。それ以前、弥生末～五領・和泉期前半の時期は、行田市鴻池遺跡<sup>(III-12)</sup>、武良内遺跡<sup>(III-13)</sup>、高畠遺跡<sup>(III-14)</sup>、渡柳陣場遺跡<sup>(III-15)</sup>、吹上町袋・代遺跡<sup>(III-16)</sup>において方形周溝墓が知られるのみで、このことは、当地において、該期の大規模な集落が発見されていないことと無関係ではあるまい。

現在までのところ、当地域で最古の古墳と考えられるのは、吹上町袋・代2号墳<sup>(III-17)</sup>である。

袋・代2号墳は墳丘を既に失い、周堀のみの調査であったが、和泉Ⅱ式に相当する壺、小型壺、高杯が出土している。埴輪は報告されておらず、5C後半の築造と考えられる。次段階、5C末葉から6C初頭には埼玉稻荷山古墳<sup>(III-18)</sup>が築造されるが、この他にも周辺にいくつかの古墳が出現する。熊谷市中奈良横塚山古墳<sup>(III-19)</sup>、同市上中条鎌塚古墳<sup>(III-20)</sup>、同女塚一号墳<sup>(III-21)</sup>、南河原村大塚とやま古墳<sup>(III-22)</sup>、行田市須加大稻荷1号墳<sup>(III-23)</sup>などがそれであり、いずれも自然堤防に立地している。横塚山古墳は全長約50mの帆立貝式古墳で、朝顔形円筒埴輪にB種ヨコハケが認められる。鎌塚古墳および女塚1号墳は、いずれも45m前後を測る帆立貝式古墳で、この時期の古墳としては比較的内容の明らかなものである。鎌塚古墳では、円筒埴輪列の内側二ヶ所に、須恵器高杯型器台、杯、高杯などで構成される、墓前祭祀跡と考えられる土器群が検出された。このうち須恵器高杯型器台は新羅焼的な大型なもので、墓前祭祀の中心をなすものである。この2つの土器群には若干の時間差の存在が指摘され<sup>(III-24)</sup>、祭祀が2次にわたったことをうかがわせる。また、周堀底より、若干の間層を挟んでFAが検出されている。

女塚1号墳からは、多くの円筒埴輪とともに、武人、琴、鼓等の多様な形象埴輪が出土し、当時の埴輪祭式を解明する上で貴重な資料である。また、円筒埴輪には一部にB種ヨコハケの存在が認められ、岡塚からは、鎧塚古墳同様、堀底近くにFAが検出されている。

この二古墳に横塚山古墳を加えた三基は、いずれも45~50mの帆立貝式古墳で、突出部を西に持つなど、墳形規模、方向等で多くの共通要素を有している。それにしても、埼玉稻山古墳の成立と同時、あるいは若干遅れる時期に、周辺部においてこのような規格性の強い古墳が出現するのは興味深い事実である。

とやま古墳は全長約69mの前方後円墳であり、墳丘裾部の葺石、円筒埴輪列が検出されている。また、表探資料として、B種ヨコハケを有する円筒埴輪片が一片存在すると言われている。

大稻荷1号墳は直径24mの円墳で、円筒埴輪列が確認されているのみであるが、埴輪の特徴からこの時期の築造とされている。

6世紀に至ると、多くの自然堤防上に古墳が築造されはじめ、数的には爆発的な増加を見せる。古墳群としては、深谷市木の本古墳群(註1)、熊谷市別府古墳群(註2)、玉井古墳群(註3)、肥塚古墳群(註4)、中条古墳群(註5)、広瀬古墳群(註6)、石原古墳群(註7)、行田市酒巻古墳群(註8)、斎条古墳群(註9)、大稻荷古墳群(註10)、小見古墳群(註11)などが、また台地上ではあるが、本遺跡近くに三ヶ尻古墳群(註12)が知られる。

6世紀末~7世紀初頭には、埼玉若王子古墳(註13)、小見真觀寺古墳(註14)を最後に前方後円墳の築造は終焉を迎える、埴輪もこの時期を最後に消滅するようである。そして、前方後円墳に続く首長層の古墳は熊谷市大塚古墳(註15)、行田市八幡山古墳(註16)等、複室構造の長大な横穴式石室を主体部に持つ大型の円墳や、熊谷市宮塚古墳(註17)、行田市地蔵塚古墳(註18)等の方形墳に変化していく。このうち、宮塚古墳は上円下方墳という希少な墳形でつとに知られるが、川越市山王塚古墳その他の例と比較しても円丘部が非常に小さく、また隣接する水田からは円筒埴輪片が表探されるなど、その墳形をも含めて終末期の古墳としては検討の余地を残している。

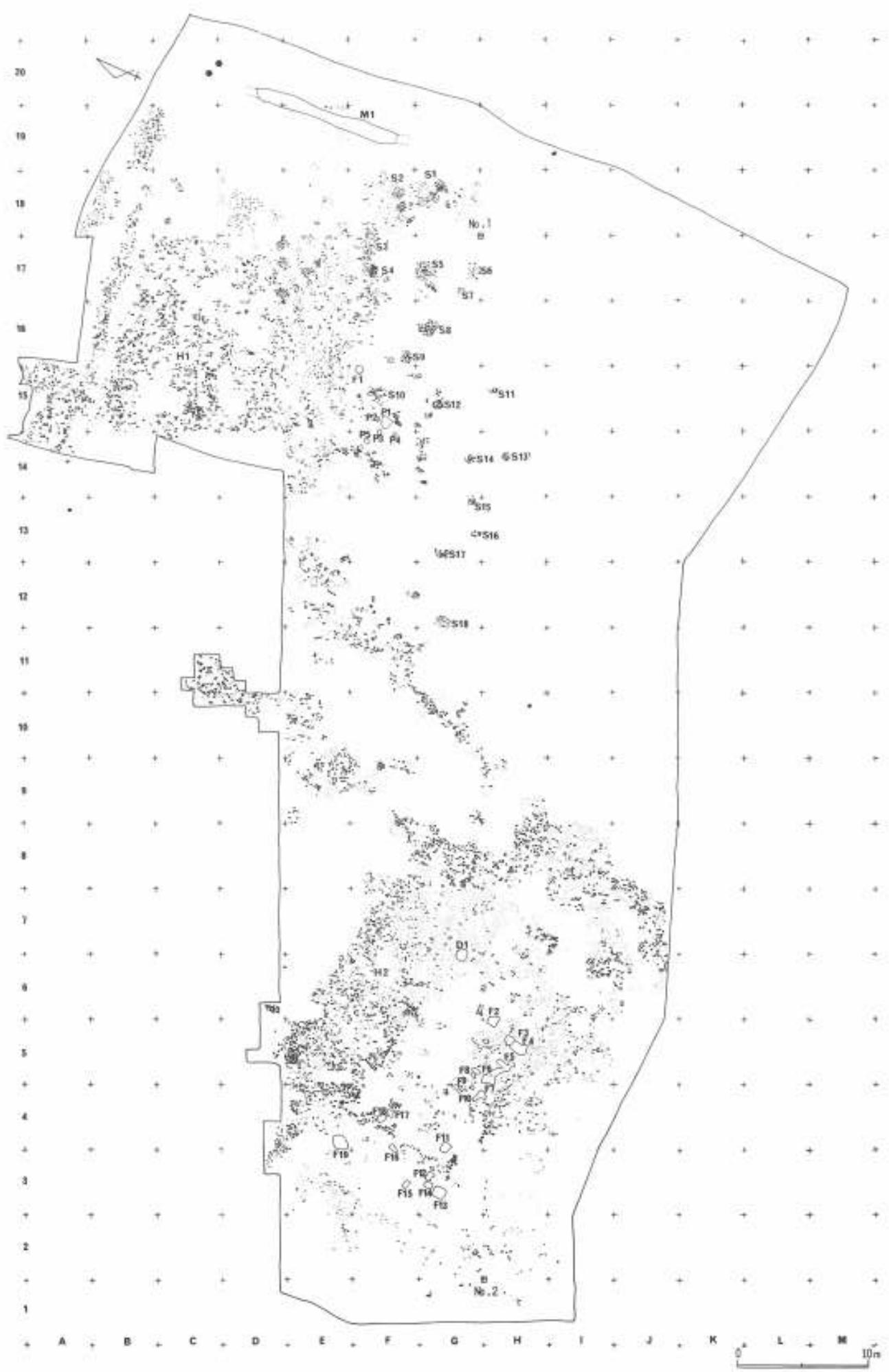
古代寺院跡としては、熊谷市西別府に西別府廃寺(註19)、埼玉古墳群東方に旧盛德寺(註20)が知られる。西別府廃寺は遺構は未確認であるものの、出土した三重弧文軒平瓦は7世紀第3四半期に位置づけられるものとされ、県内最古の滑川村寺谷廃寺に次ぐ時期のものである。旧盛德寺はこれまで数次にわたる調査がなされているが、出土した瓦はいずれも8世紀第4四半期以降のものであり、現段階で埼玉古墳群と関連づけて考へるのは困難である。

(太田博之)

#### 参考文献一覧

- 註1 葉原文藏「古代の行田」行田市郷土文化会 1958  
註2 註1と同じ  
註3 \*  
註4 寺東遺跡は昭和57年度、入川・深町遺跡は昭和59年度に、いずれも送電線鉄塔建設に伴い、また石田遺跡は昭和60年度に小学校建設用地造成工事に伴って熊谷市教育委員会が調査を実施している。  
註5 葉原文藏「四十坂遺跡の初期弥生土器」『上代文化』第30輯 国学院大学考古学会 1960  
註6 庄野靖寿・姫間真一「上敷免遺跡」深谷市教育委員会 1978  
註7 増田逸郎「坂塚遺跡」『埼玉県土器集成』4 埼玉考古学会 1976  
註8 註4と同じ  
註9 葉原文藏「平戸遺跡」「埼玉県土器集成」4 埼玉考古学会 1976  
註10 中島宏・他「池守・池上遺跡」埼玉県教育委員会 1984  
註11 宮昌之「池上西」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告 第21集 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1983  
註12 田中正夫・高峰光司「小敷田遺跡」「年報」4 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1984  
註13 滝野一重・田中正夫・吉田稔「小敷田遺跡」「年報」5 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1985  
註14 高山清司「三ヶ尻上古遺跡」「埼玉県土器集成」4 埼玉考古学会 1976  
註15 葉原文藏・田辺井功「弥藤新田遺跡発掘調査報告書」埼玉県遺跡調査会報告 第29集 埼玉県遺跡調査会 1976

- 註16 寺社下博「中条通路調査報告書」、熊谷市教育委員会 1977
- 註17 註12と同じ
- 註18 註4と同じ
- 註19 \*
- 註20 \*
- 註21 桑原文藏・田辺井功・金子真土「国道17号バイパス関係埋蔵文化財調査報告書、油池・武良内・高畠」埼玉県通路調査報告書 第11集 埼玉県教育委員会 1977
- 註22 註21と同じ
- 註23 \*
- 註24 佐藤忠雄「橋上遺跡」『埼玉県埋蔵文化財調査要覧』Ⅲ 埼玉県教育委員会 1981  
小川良祐・中島宏「橋上遺跡」『埼玉県埋蔵文化財調査要覧』Ⅳ 埼玉県教育委員会 1982  
小川良祐・金子真土「県立熊谷西高校(橋之上遺跡)体育館予定地の発掘調査及び校舎、管理棟、体育馆予定地出土遺物の整理」『資料館報』No.9 さきたま資料館 1978  
酒井清治・高崎光司「橋之上遺跡」『年報』5 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1985  
金子正之「三尻遺跡群 周辺遺跡、橋之上遺跡」熊谷市教育委員会 1985
- 註25 金子正之「三尻遺跡群 上辻・下辻遺跡」熊谷市教育委員会 1984
- 註26 寺社下博「三尻中学校遺跡」『埼玉県埋蔵文化財調査年報』昭和55年度 埼玉県教育委員会 1982
- 註27 小久保徹「三ヶ尻天王・三ヶ尻林1」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第23集 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1983
- 註28 註6と同じ
- 註29 註4と同じ
- 註30 寺社下博「中条通路群、中島通路」熊谷市教育委員会 1980
- 註31 中島利治「小針通路A地区」行田市文化財調査報告書 第3集 行田市教育委員会 1976  
斎藤国夫「小針通路発掘調査報告書B地区」行田市文化財調査報告書 第10集 行田市教育委員会 1980
- 註32 斎藤国夫「野合遺跡の調査」『野合遺跡・原第Ⅱ進跡発掘調査報告書』行田市文化財調査報告書 第5集 行田市教育委員会 1979
- 註33 註23と同じ
- 註34 註14と同じ
- 註35 註21と同じ
- 註36 註22と同じ
- 註37 註23と同じ
- 註38 桑原文藏「行田市陣場遺跡」『埼玉考古』第7号 埼玉考古学会 1966
- 註39 註14と同じ
- 註40 \*
- 註41 柳田敏司・他「埼玉編古墳古墳」埼玉県教育委員会 1990
- 註42 増田逸郎・他「横塚山古墳」埼玉県通路調査会報告 第9集 埼玉県通路調査会 1971  
菅谷浩之「横塚山古墳—埴丘掘部の調査—」熊谷市通路調査会 1977
- 註43 寺社下博「鶴塚古墳」熊谷市教育委員会 1981
- 註44 寺社下博「めづか」熊谷市教育委員会 1983
- 註45 柳田敏司「とよま古墳」埼玉県教育委員会 1987
- 註46 桑原文藏・小林重義「行田市須加、大福前古墳群について」『埼玉考古』第21号 埼玉考古学会 1974
- 註47 寺社下博「鶴塚古墳」「中条通路群」熊谷市教育委員会 1984
- 註48 「木の本古墳群」『新編 埼玉県史』資料編2 埼玉県 1982
- 註49 「熊谷市史」前編 熊谷市 1963
- 註50 註49と同じ
- 註51 \*
- 註52 註43と同じ
- 註53 註49と同じ
- 註54 \*
- 註55 蒲藤國夫「酒巻古墳群」『行田市北西通路群発掘調査報告書』行田市文化財調査報告 第14集 行田市教育委員会 1982
- 註56 桑原文藏・塙野博「斎条五号墳発掘調査報告書」行田市教育委員会 1954
- 註57 註46と同じ
- 註58 「行田市史」上巻 行田市 1964
- 註59 「三ヶ尻古墳群」『新編 埼玉県史』資料編2 埼玉県 1982
- 註60 田中正夫・小川良祐「特集 各地における最後の前方後円墳、埼玉県一埼玉古墳群周辺地域」『古代学研究』106 古代学研究会 1984
- 註61 註60と同じ
- 註62 註44と同じ
- 註63 小川良祐「八幡山古墳石室複元報告書」埼玉県教育委員会 1980
- 註64 「宮塚古墳」『新編 埼玉県史』資料編2 埼玉県 1982
- 註65 「地蔵塚古墳」 同上
- 註66 宮昌之「西別府廬寺」『埼玉県古代寺院跡調査報告書』埼玉県史編さん室 1982
- 註67 藤島玄治郎「盛徳寺とその遺跡」『行田市史』上巻 行田市 1963  
桑原文藏『旧盛徳寺址の発掘調査』行田市文化財調査報告 第2集 行田市教育委員会 1975  
桑原文藏・金子真土「旧盛徳寺址の発掘調査(第1次調査)」『資料館報』No.8 さきたま資料館 1977  
蒲藤國夫「旧盛徳寺址」『さきたま古墳群発掘調査報告書』行田市文化財調査報告 第13集 行田市教育委員会 1982



第3図 萩松遺跡全測図

## IV. 若松遺跡

### 1. 遺跡の概観

若松遺跡は、熊谷市の西部にある独立丘陵の觀音山から北東約1.5kmに位置し、荒川から北へ約2.5kmの所にある。標高は、42.4~42.5mを測る。

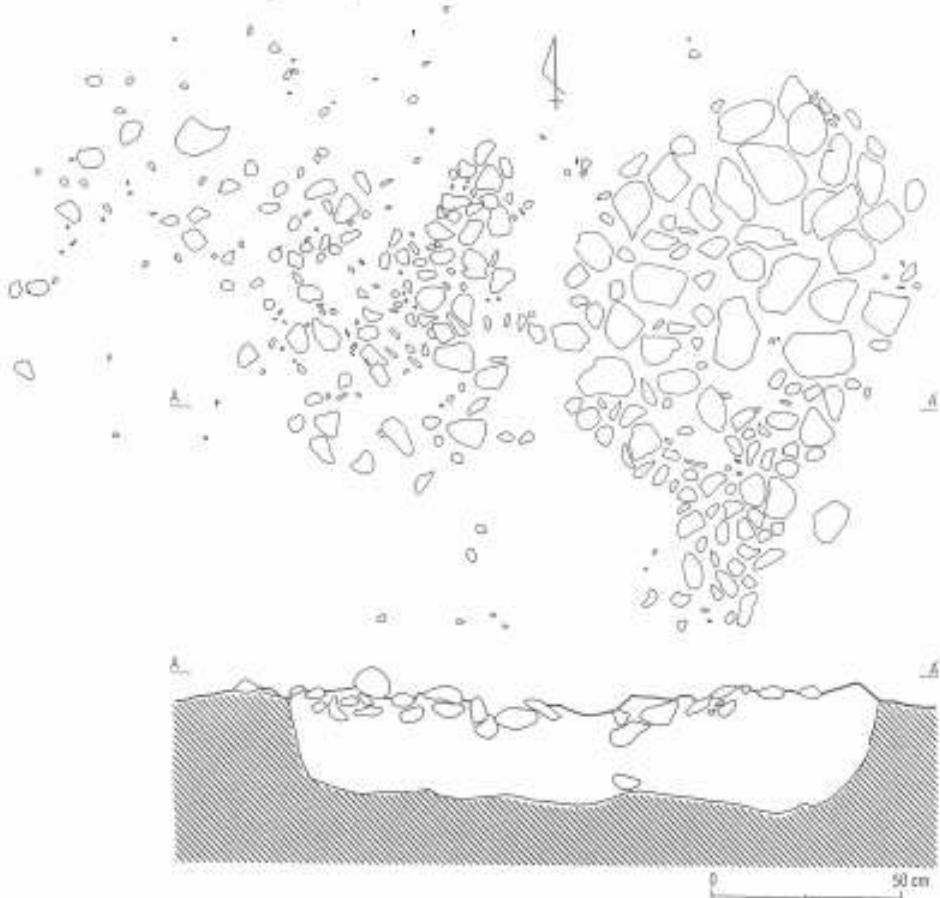
本遺跡は、地元で般若寺跡といわれており、調査を実施することにした。今回の調査により、配石遺構2基、集石遺構18基、火葬墓19基、土葬墓1基、ピット5個、溝跡1本が検出された。

配石遺構は、隣が1辺20m以上に広がりをみせて集石しているものとし、集石遺構は土地を伴わず、隣の広がりが10m以内のものとした。配石遺構は、調査区の北側と南側の2ヶ所に検出され、北側を1号、南側を2号と呼称した。集石遺構は、1号配石遺構の南側に検出され、6号~10号は東西方向に一列に並び、方向性がみられた。

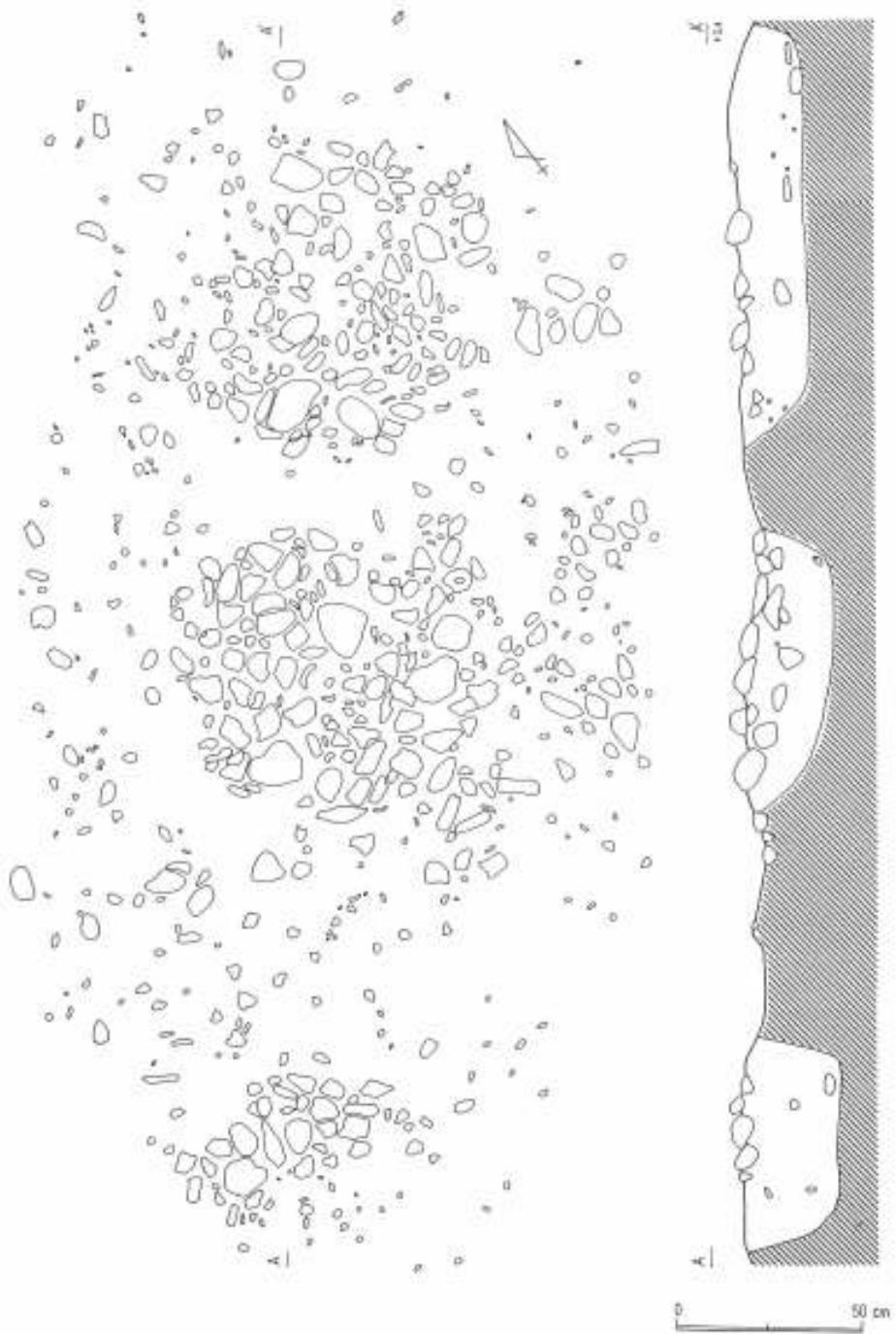
火葬墓は、2号配石遺構の南部に多く検出され、1号火葬墓だけは1号配石遺構の南側に検出され特異であった。土葬墓は、2号配石遺構の東部分に1基のみ検出され、直径50.6cm、高さ71.8cmの常滑の大甕を使用した埋甕であり、人骨は保存状態が悪く、歯だけが残存していた。

ピットは、1号配石遺構の南西側に5個検出され、地山の礫層まで掘り込んでなく、掘り方の浅いものであった。

溝跡は、調査区の西端に、南北方向に走っている状態で検出され、掘り方の浅いものであった。



第4図 1号集石遺構



第5図 2号集石造構

## 2. 遺構と遺物

### 1号配石遺構（第6図）

**位 置** 本遺構は、調査区の北側に検出され、北端 規 模  
**概 要 部**・中央部・南端部からなる。

北端部は、幅約1mで東西方向に24mの長さをもち、南端部は25mの長さで東西方向に走っている。中央部は、まばらな状態になつ

ていて、東側には9ヵ所の集石がみられる。

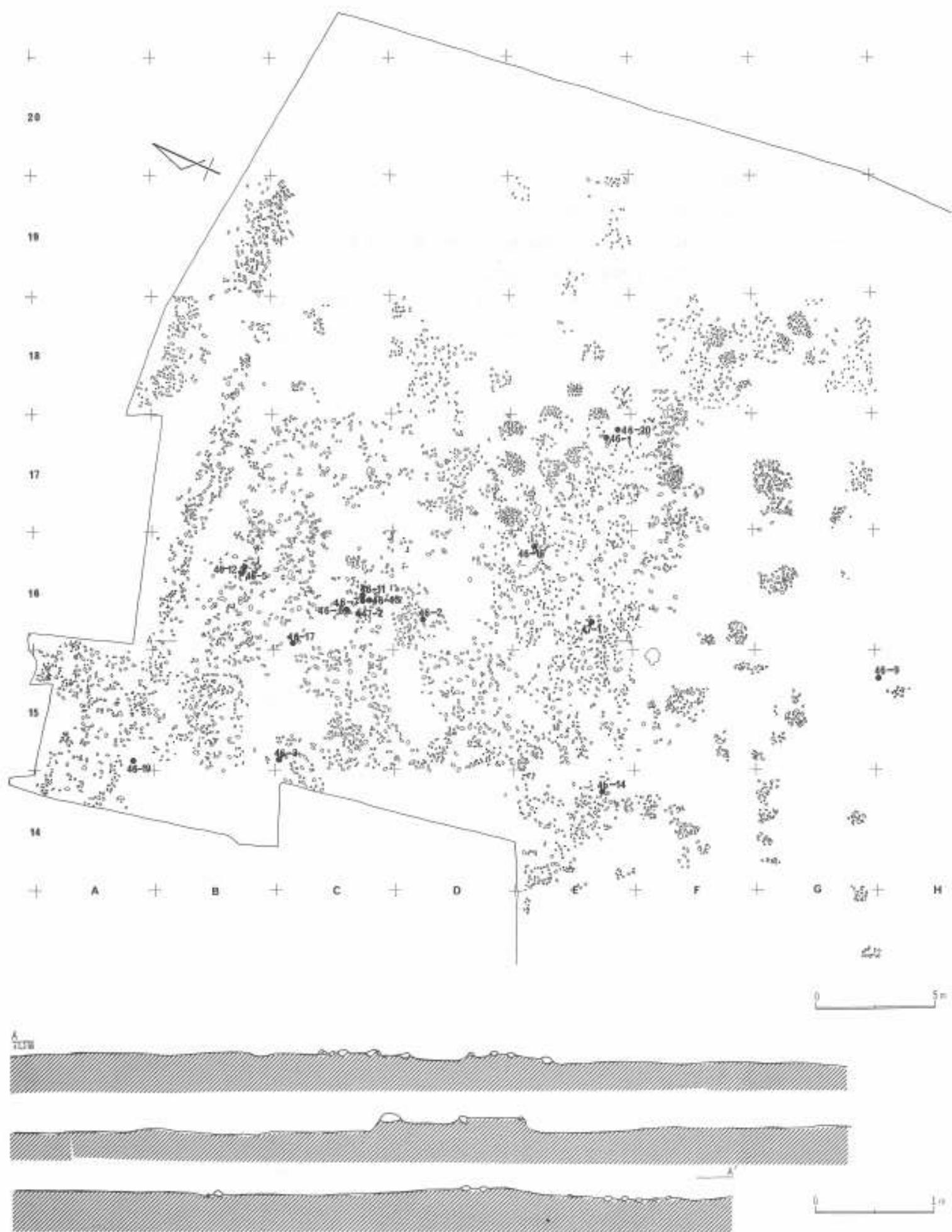
北端部—南北方向約1m、東西方向約24m

中央部—南北方向約15m、東西方向約20m

南端部—南北方向約1m、東西方向約26m

南北方向は、全体では約25mを測る。

青磁・白磁・常滑・かわらけ・擂鉢・内耳



第6図 1号配石遺構

土器・鉄滓・輪口等が、礫に混在して検出されたが、第46図、47図-1・2にグリッド出土遺物として図示した。

2号配石遺構（第7図、図版2-2、5-3・4・5）

位置 本遺構は、調査区の南側に検出され、長方 位 置  
概要 形の配石とそれを「コ」の字状に囲む配石と 概要  
からなる。前者は、長軸を東西方向にもち、  
後者は西辺が短く、東辺は2列になっている。

規模 長方形配石—南北方向約7.5m、東西方向  
23m、「コ」の字形配石—西辺約16m、南辺  
33m、東辺43m。

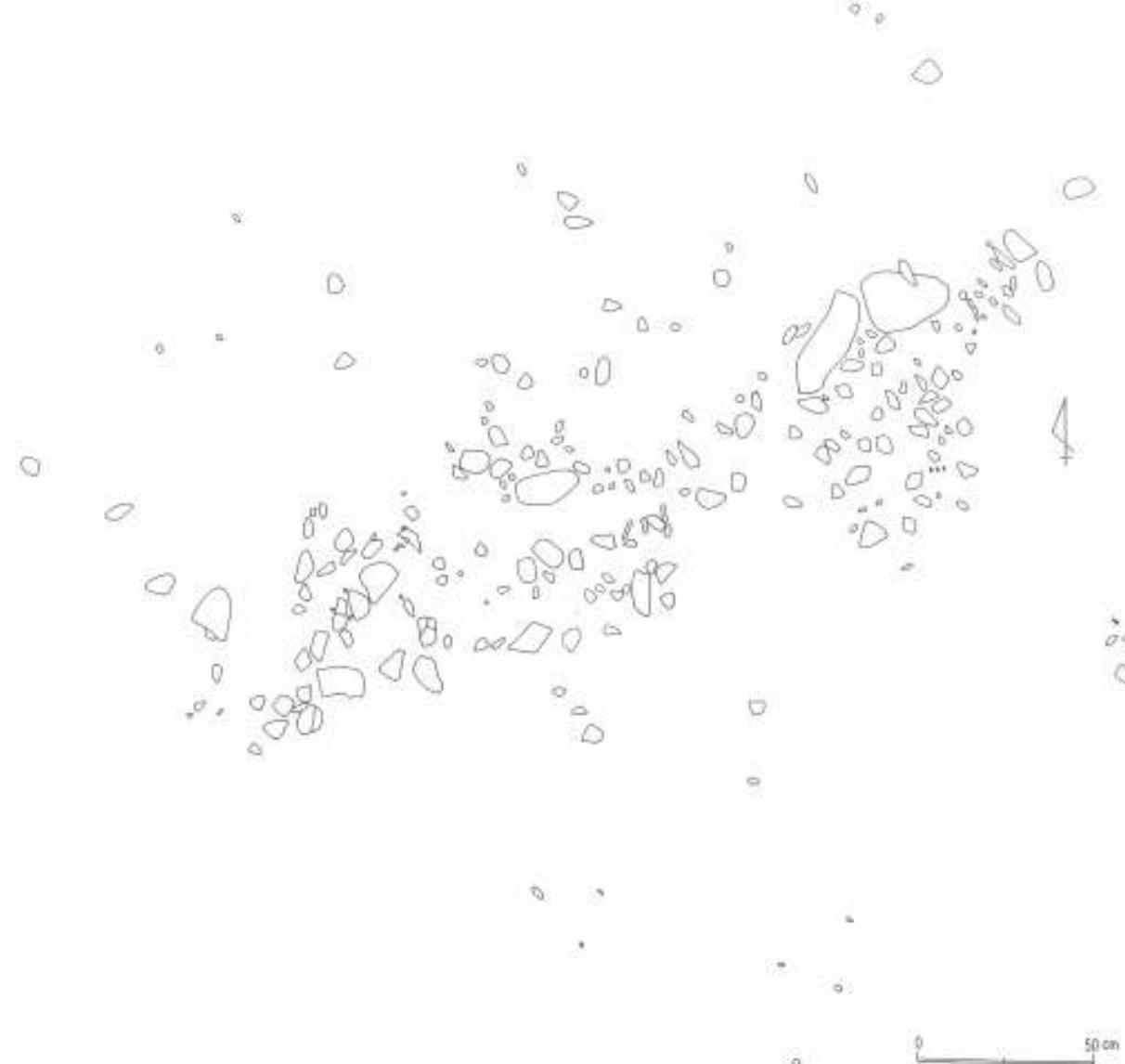
遺物 白磁・青磁・常滑・板磚・鉄釘等が川原石 遺 物 なし。

に混在して検出され、かわらけはトレンチから出土したが、第47図にグリッド出土遺物として図示した。

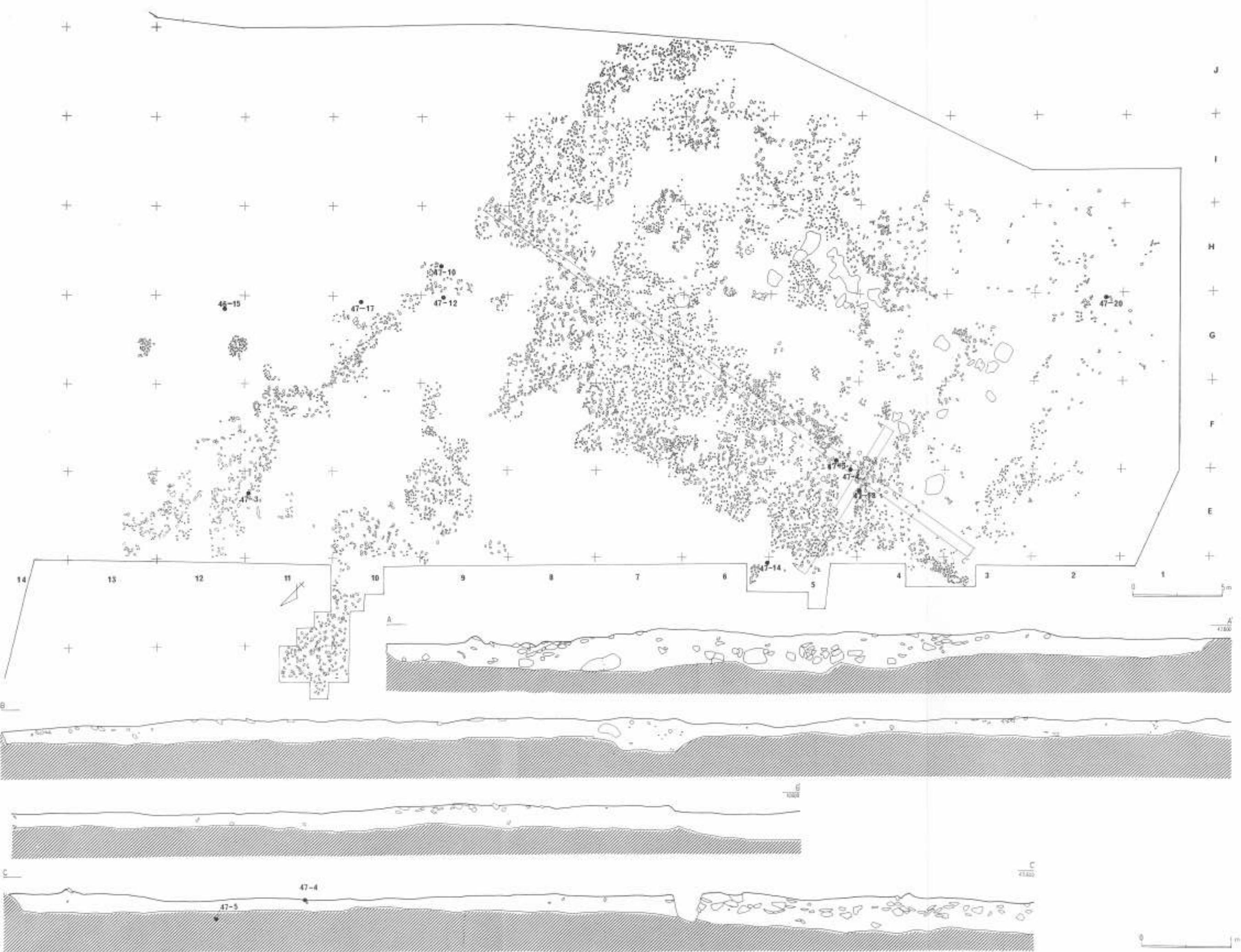
1号集石遺構（第4図）

本遺構は、調査区の西端で、1号配石遺構の南東に検出された。東側は長径10cm以上の川原石が柄鏡形になっており、西側は10cm以下の川原石が集積している。

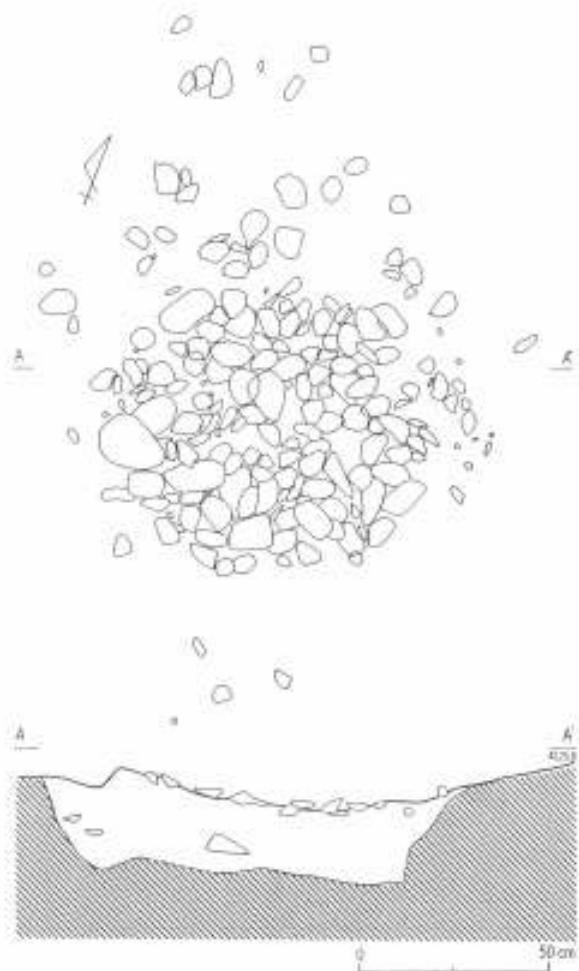
全長2.3m、東側部分—南北方向1.45m、  
東西方向9m、西側部分—南北方向9.5m、  
東西方向1.4m。



第8図 3号集石遺構



第7图 2号配石造構



第9図 4号集石遺構

#### 2号集石遺構（第7図）

位 置 本遺構は、1号配石遺構の南東にあり、1号集石遺構の北西に接して検出された。

3つの集石から構成され、北側と中央部が大きく、南側は小さい。

規 模 全長 3.2 m。

北部—長径 1.4 m、短径 0.9 m。

中央部—長径 1.4 m、短径 1 m。

南部—長径 0.75 m、短径 0.5 m。

遺 物 なし。

#### 3号集石遺構（第8図）

位 置 本遺構は、1号配石遺構の南東にあり、1号配石遺構の西側に検出された。

南東から北西の方向に集積されており、南側は径 10 cm 前後の川原石が置かれ、北側は径 20 cm 以上の川原石の周囲に径 5 cm 前後の川原石

が置かれていた。

規 模 全長 2.65 m。

北側部分—長軸 0.9 m、短軸 0.75 m。

南側部分—長軸 1.6 m、短軸 0.65 m。

遺 物 なし。

#### 4号集石遺構（第9図）

位 置 本遺構は、1号配石遺構の南東にあり、

概 要 3号集石遺構の南西に接して検出された。柄円形に近い形に集積しており、径が 5 cm~10 cm の川原石が利用されていた。

規 模 南北方向 8 m、東西方向 9 m。

遺 物 なし。

#### 5号集石遺構（第10図、図版 2-4）

位 置 本遺構は、1号配石遺構の南側にあり、

概 要 G-17 区に検出された。

形態は、柄の部分が発達した柄鏡形を呈し、北側の方形部分と、南側の柄の部分から構成されていた。方形部は北西辺が直線的に集積されているが、他の辺はまばらな状態であった。

方形部は、深さ 20 cm ぐらいに川原石が埋められ、柄部は、深さ 15 cm ぐらいに埋められていた。

規 模 全長 2.7 m。

方形部—北西辺 1.15 m、北東辺 1.05 m。

柄部—南北方向 1.3 m、東西方向 0.55 m。

遺 物 なし。

#### 6号集石遺構（第11図）

位 置 本遺構は、5号集石遺構の南東 2.4 m にあり、G-17 区に検出された。

形態は、長方形に近く、西側が密に集積され、東側はまばらになっていた。

5号集石のように、川原石を厚く置かれてはいなかった。

規 模 長軸 1.15 m、短軸 0.5 m。

遺 物 なし。



第10图 5号集石遗物

7号集石造構（第12図）

位 置 本造構は、5号集石造構の南側2mに位置し、G-17区に検出された。

形態は、長方形に近く、中央部分は径5cm前後の川原石が密に置かれ、東側と西側部分は径10cm前後の川原石が中央より間隔をあけて集積されていた。

川原石は、深さ25cmと厚く埋まっていた。

規 模 南北方向0.42m、東西方向0.85m、深さ0.25m。

遺 物 なし。

8号集石造構（第13図、図版2-5）

位 置 本造構は、7号集石造構の西側2.4mにあり、G-16区に検出された。

形態は、逆L字形を呈し、径10cm以上の川原石が多く使われているが、南辺は径5cm前後の川原石が密に集積されていた。

規 模 東辺0.72m、西辺1.25m、南辺1.15m、深さ0.2m。

遺 物 なし。

9号集石造構（第14図）

位 置 本造構は、8号集石造構の西側1.4mに位置し、F-16区に検出された。

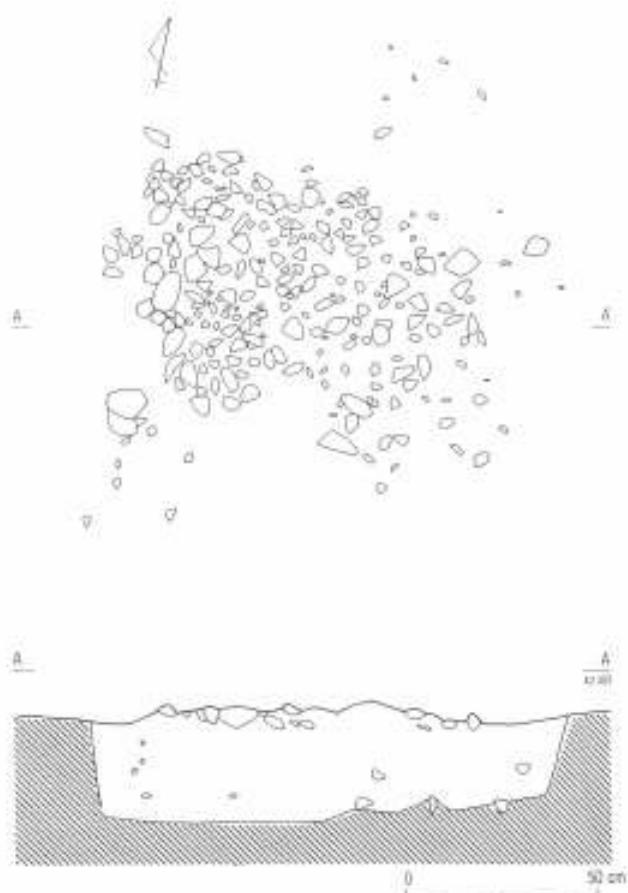
中央に径10cm以上の川原石を3個置き、その周囲に径10cm以下の川原石が集石していた。

規 模 南北方向0.9m、東西方向0.65m。

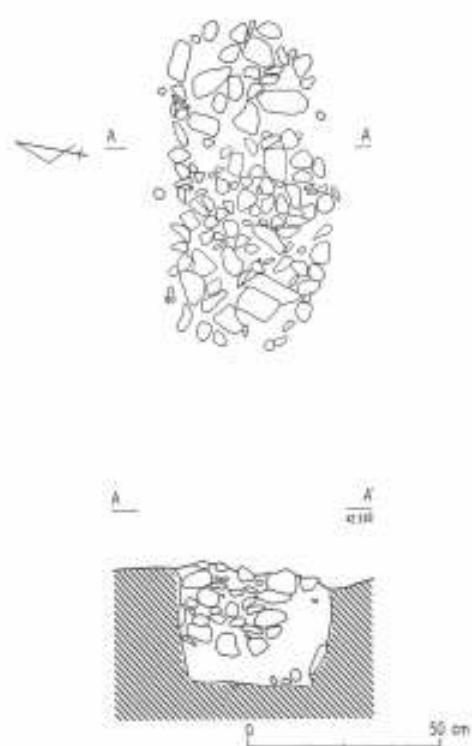
遺 物 なし。

10号集石造構（第15図）

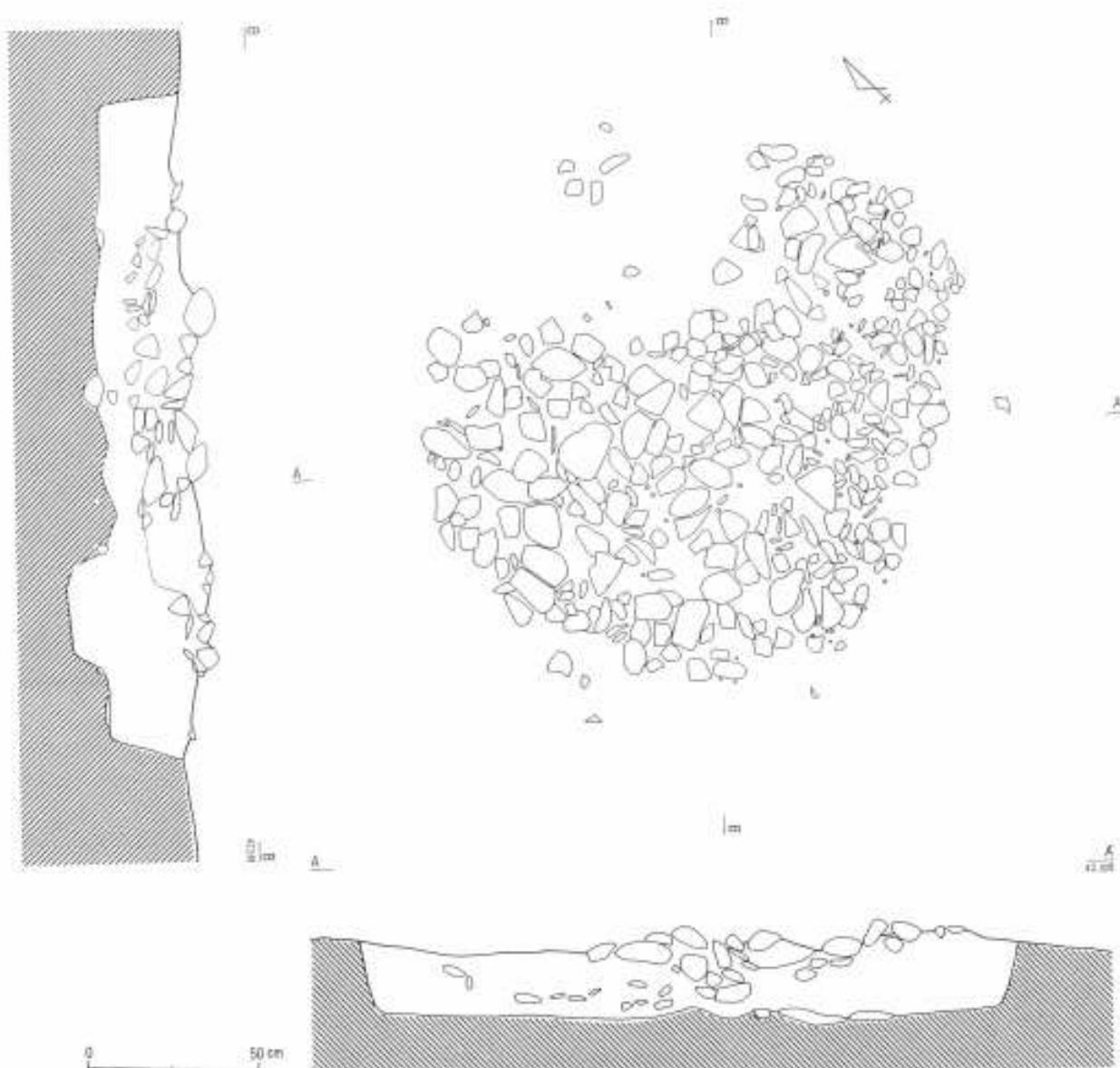
位 置 本造構は、9号集石造構の西側2.4mに位置し、F-15区に検出された。



第11図 6号集石造構



第12図 7号集石造構



第13図 8号集石造構



第14図 9号集石造構

北側に径20cm前後の川原石が集積し、南側

は径10cm以下の川原石が置かれていた。

規 模 南北方向 1m、東西方向 1.1m。

遺 物 なし。

#### 11号集石造構（第16図）

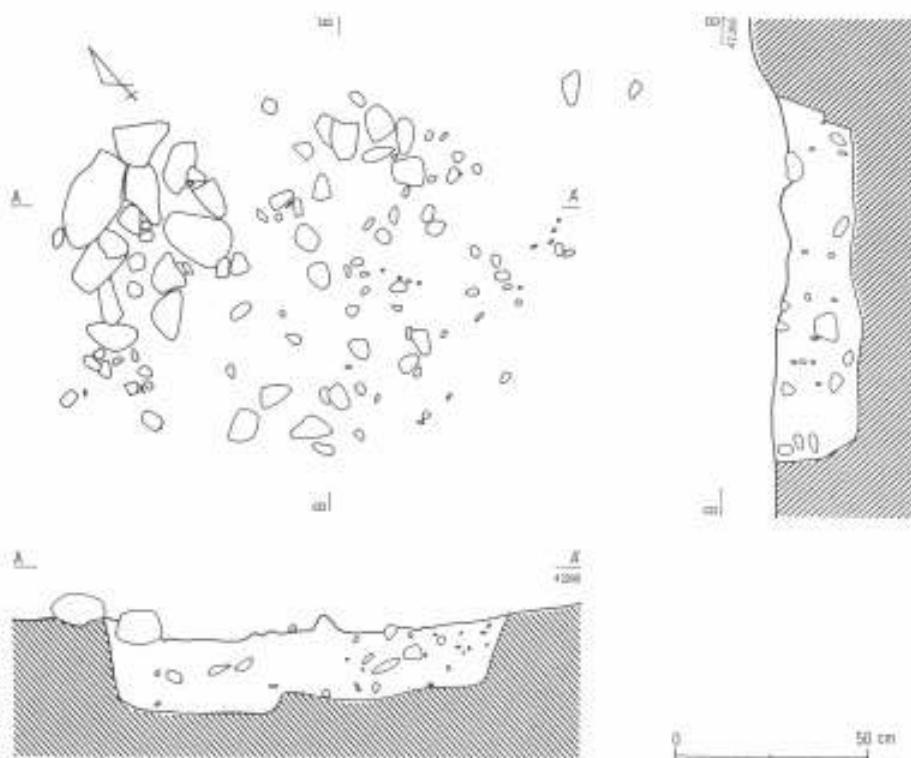
位 置 本造構は、9号集石造構の南側 6.2m に位

概 要 置し、H-15区に検出された。

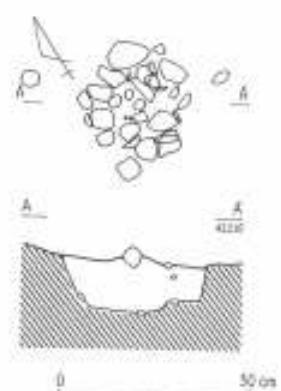
形態は、台形に近く、小型の集石であった。

規 模 北辺 0.18m、西辺 0.25m。

遺 物 なし。



第15図 10号集石遺構



第16図 11号集石遺構



第17図 12号集石遺構

#### 12号集石遺構（第17図）

**位 置** 本遺構は、10号集石遺構の南側3.2mに位置し、G-15区に検出された。

**概 要** 形態は、台形に近く、径5~10cmぐらいの川原石が使われていた。

**規 模** 北東辺0.35m、北西辺0.45m、南東辺0.5m、南西辺0.5m。

**遺 物** なし。

#### 13号集石遺構（第19図）

**位 置** 本遺構は、12号集石遺構の南側5.6mに位置し、H-14区に検出された。

**概 要** 形態は、方形に近く、主軸はほぼ南北方向を示す。

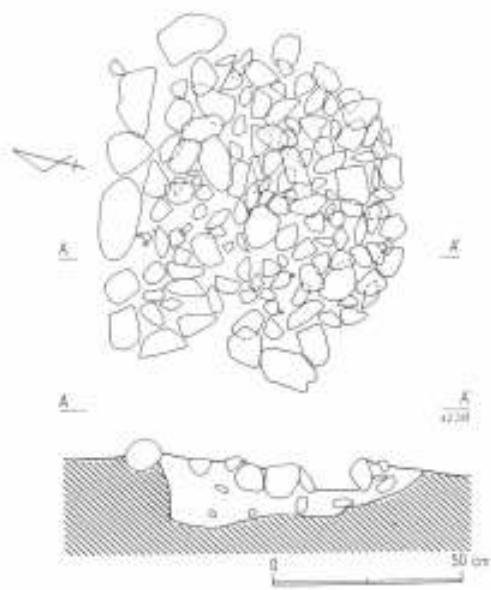
**規 模** 主軸0.78m、南辺0.6m。

**遺 物** 土器片1点

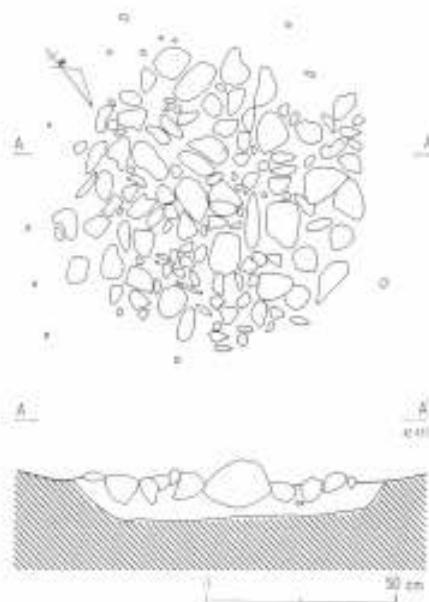
#### 14号集石遺構（第18図、図版2-6）

**位 置** 本遺構は、13号集石遺構の北西2mに位置し、G-14区に検出された。

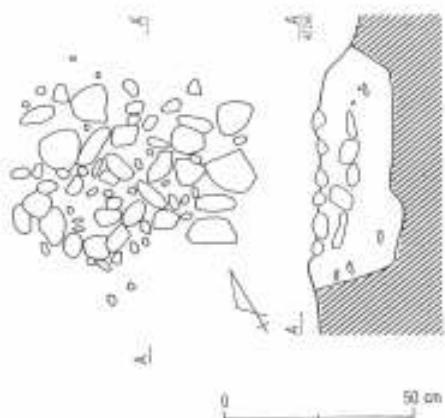
**概 要** 形態は、方形に近く、主軸は南北方向を示す。北辺と西辺に、径10cm以上の川原石が配



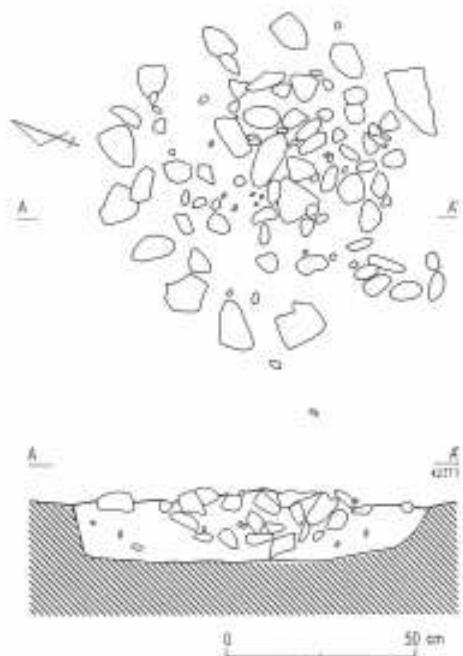
第18図 14号集石遺構



第19図 13号集石遺構



第20図 15号集石遺構



第21図 16号集石遺構

置されており、東辺・南辺にも同様に川原石が置かれていた可能性も考えられる。

**規 模** 主軸0.81m、北辺0.9m。

**遺 物** 土器片2点。

#### 15号集石遺構（第20図）

**位 置** 本遺構は、14号集石遺構の南西2mに位置

**概 要** し、G-13区に検出された。

形態は、長方形に近いが、南角が欠けている状態であった。長軸は、N-120°-Eを示す。

**規 模** 長軸0.64m、南東辺0.37m、厚さ0.12m。

**遺 物** なし。

#### 16号集石遺構（第21図）

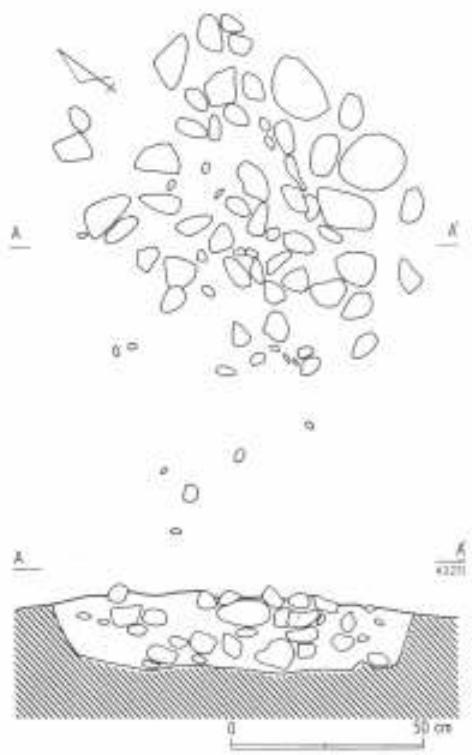
**位 置** 本遺構は、15号集石遺構の南西2mに位置

**概 要** し、G-13区に検出された。

集石状態は、まばらではあるが、径10cm前後の川原石を円形に配置し、その中に径10cm及び10cm以下の川原石が置かれていた。

**規 模** 南北方向1m、東西方向0.86m、厚さ0.19m。

**遺 物** なし。



第22図 17号集石遺構

#### 17号集石遺構（第22図）

**位 置** 本遺構は、16号集石遺構の西側2mに位置  
**概 要** し、G-13区に検出された。

集石状態は、まばらではあるが、長方形を  
呈し、長軸は、南北方向を示す。

**規 模** 南北方向0.95m、東西方向0.77m、厚さ0.2  
m。

**遺 物** なし。

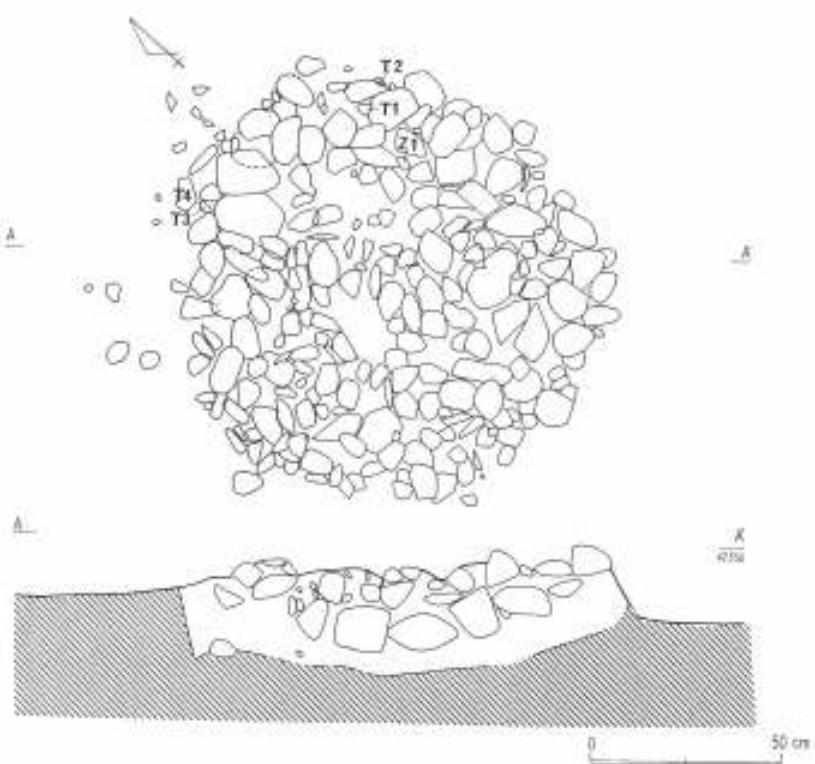
#### 18号集石遺構（第23図、図版3-1）

**位 置** 本遺構は、17号集石遺構の南西4.4mに位  
置し、G-12区に検出された。

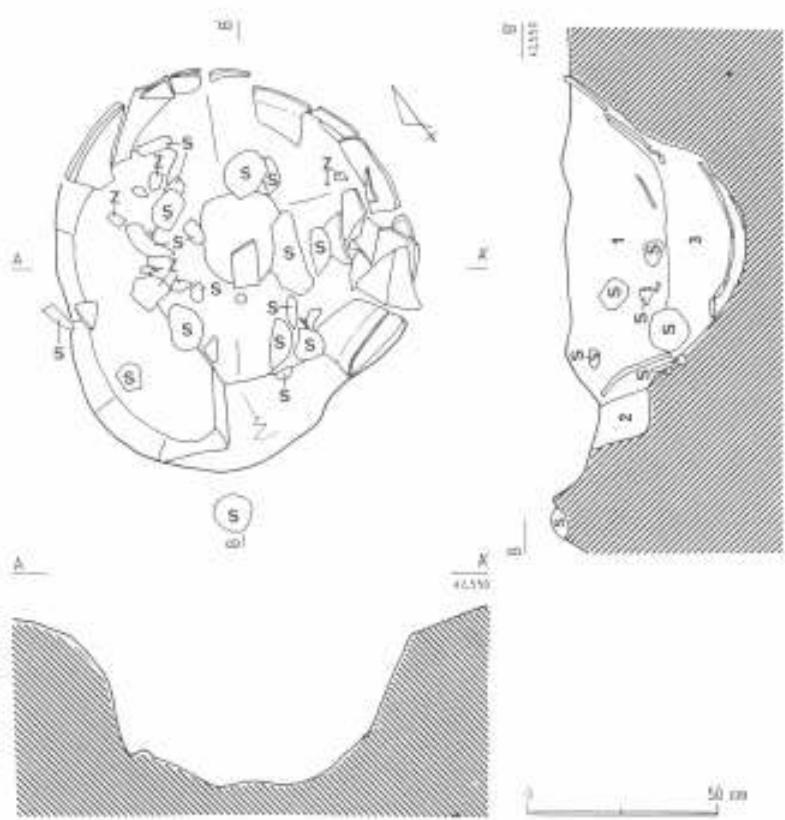
集石状態は密であるが、中央部分にすき間  
が2ヶ所みられる。形態は円形を呈す。

**規 模** 南北方向1.17m、東西方向1.15m、厚さ0.21  
m。

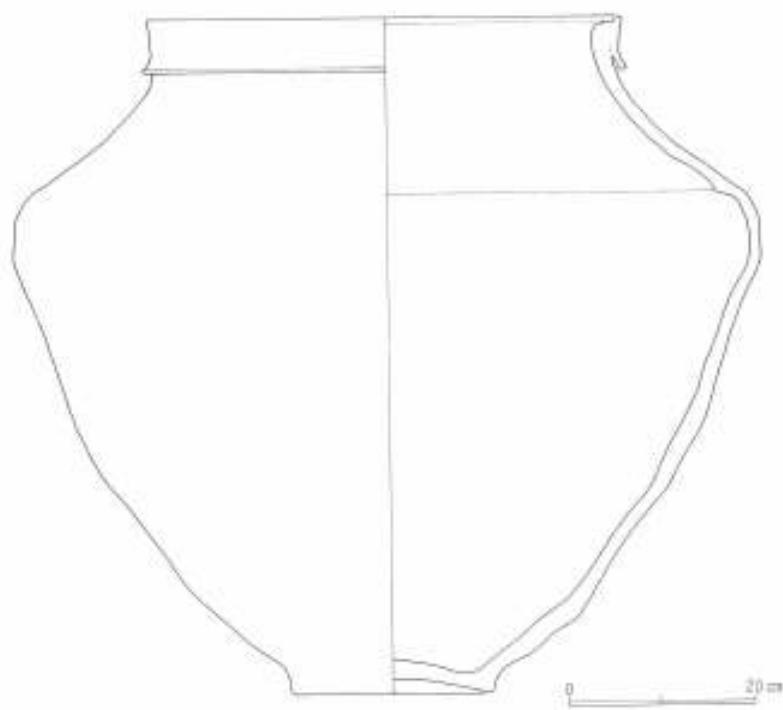
**遺 物** 土器片4点、鉄器片1点。



第23図 18号集石遺構



第24図 1号土葬墓



第25図 大甕

1号土葬墓（第24・25図、  
図版9）

位置 本土葬墓は、2号  
概要 配石造構の長方形配  
石の南側に位置し、  
G-6・7区に検出  
された。

常滑の大甕を埋甕  
として使用したもの  
で、人骨は腐化して  
残存せず骨だけが残  
っていた。

土層は、1層が褐色土（ $\phi 1\sim20mm$ の  
砂・礫を含む）、2  
層が褐色土（砂質で  
さらさらしている）、  
3層が暗褐色土（ $\phi$   
 $1\sim20mm$ の砂・礫を  
含む）であった。

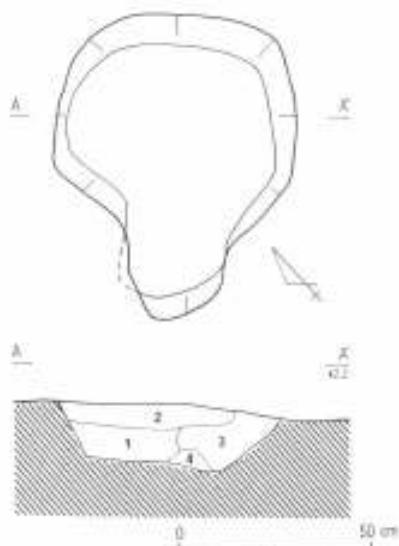
大甕は、東側は残  
りがよかったです、西  
側は耕作によって壊  
されていた。

規模 南北方向0.88m、  
深さ0.48m。

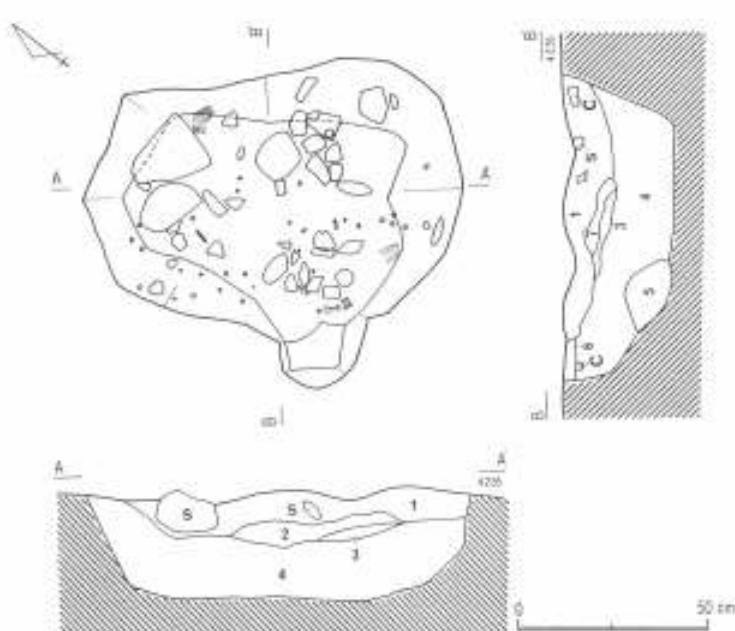
遺物 常滑の大甕、人間  
の歯。

25-1一大甕（常滑焼）。

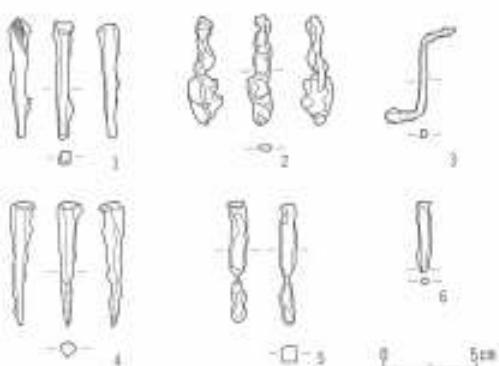
口径50.6cm、頸部径  
49.4cm、胴部最大径  
79.6cm、底径21.6cm。  
粗・中粒砂含み、暗  
赤褐色。口縁はほぼ  
直に立ち、折り返し  
部は頸部との間にわ  
ずかの透きをもつ。  
肩は張り、底部は上



第26図 1号火葬墓



第27図 2号火葬墓



第28図 3・4・6号火葬墓出土遺物

げ底である。約半残存。赤羽一郎氏のⅣ期に当たると考えられる。

#### 1号火葬墓 (第26図、図版3-2)

**位置** 本火葬墓は、1号配石造構の南側に検出され、他の火葬墓が2号配石造構の南部分にあったのと異なる。F-15区に検出された。

南西辺に、突出しと思われる張出し部がみられる。

土層は、1層が暗褐色土（焼土・炭化物・骨片を含む）、2層が褐色土（焼土・少しの骨片を含む）、3層が黒褐色土（焼土・炭化物・骨片を含む）、4層が炭化物層であった。

**規模** 長軸0.8m、短軸0.62m、深さ0.17m。

**遺物** 人骨片。

#### 2号火葬墓 (第27図)

**位置** 本火葬墓は、H-5、

**概要** 6区にあり、1号土葬墓の南西4.8mに検出された。

1号土葬墓と同じように、南西辺に、張り出し部がみられる。

土層は、1層が暗褐色土（炭化物・焼土・火山灰を含む）、2層は黄褐色土（炭化物を少し含む）、3層は赤褐色土、4層は褐色土（炭化物を少し含む）、5層は褐色土（炭化物を多く含む）、6層は灰褐色土（火山灰を含む）、7層は黒褐色土（炭化物・焼土を含む）であった。

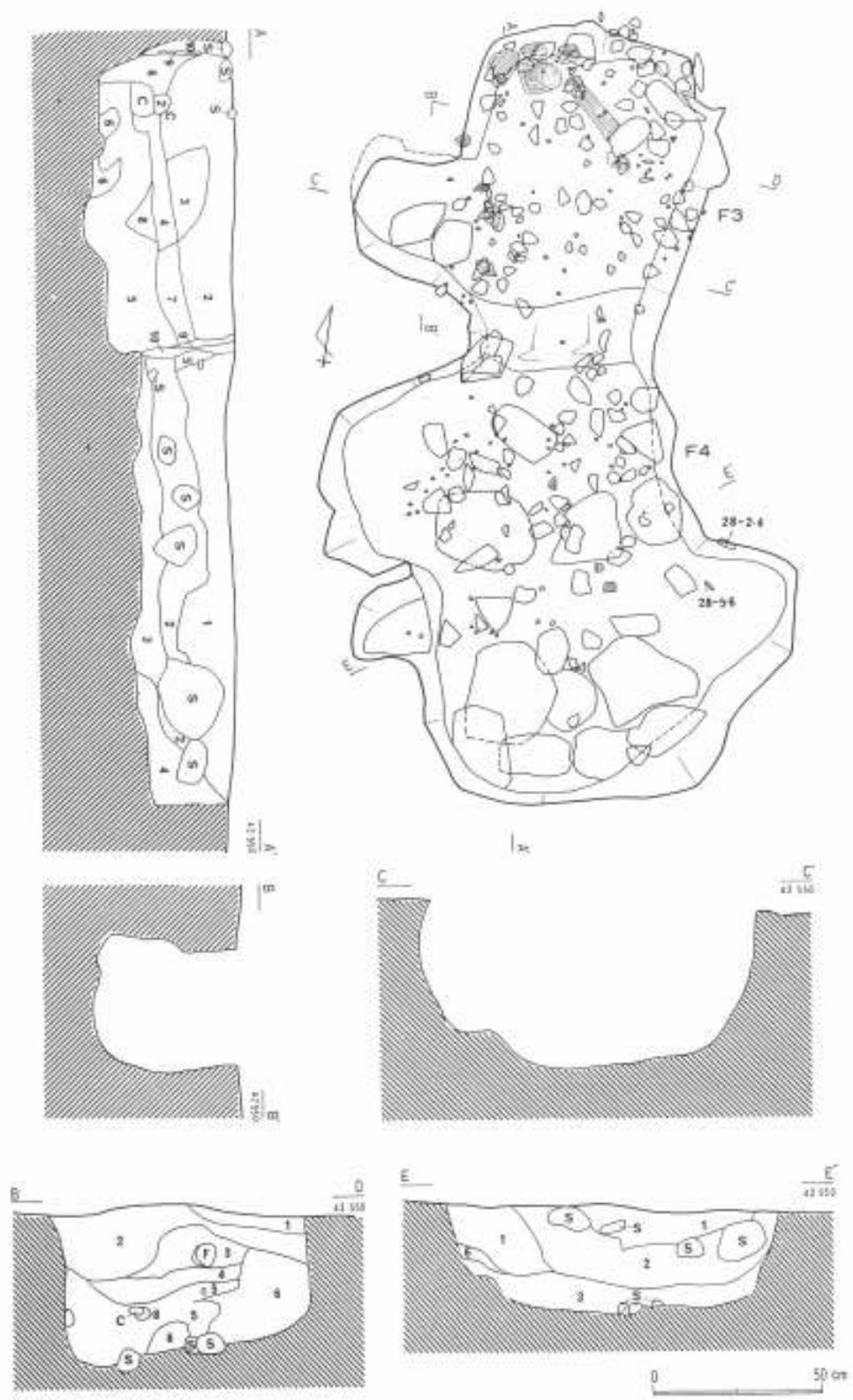
**規模** 長軸1.01m、短軸0.81m、深さ0.3m。

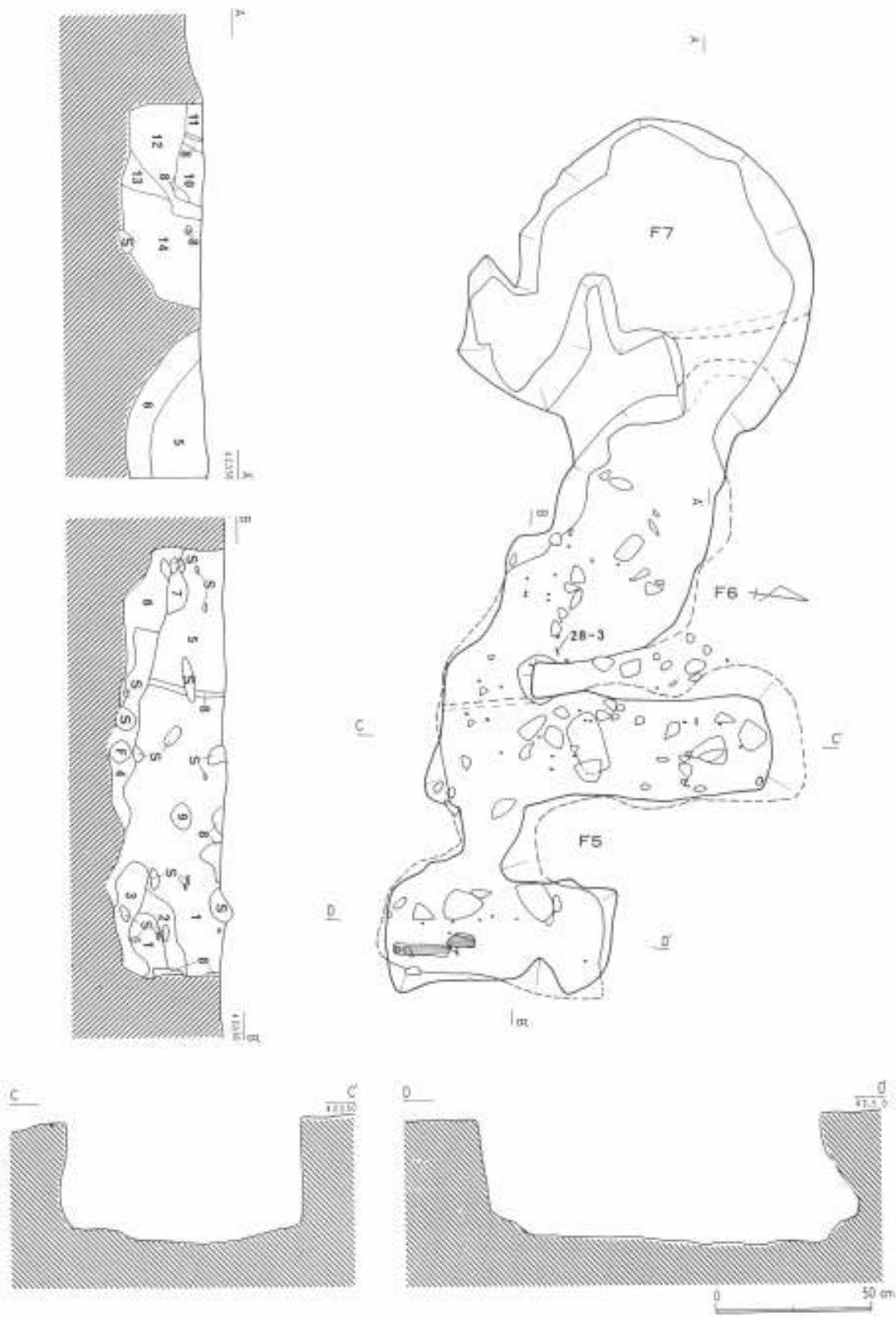
**遺物** 人骨片。

#### 3号火葬墓 (第29図、図版3-3・10)

**位置** 本火葬墓は、H-5区に位置し、2号火葬

**概要** 墓の南側1.2mに検出され、4号火葬墓と複合し、4号墓を切っていた。





第30圖 5・6・7号火葬墓

平面形は、長方形を呈し、西辺に張り出し部をもつ。

土層は、1層が褐色土、2層が褐色土（炭化物、少しの焼土を含む）、3層が暗褐色土（炭化物、焼土・骨を多く含む）、4層が褐色土（炭化物・焼土を少し含む）、5層が黒褐色土、6層が黄褐色土（焼土・炭化物・骨片を含む）、7層が暗褐色土（礫を多く含む）、8層が黄褐色土（焼土を含む）、9層が焼土、10層が炭化土であった。

規 模 南北方向0.83m、東西方向0.97m、深さ0.45m。

遺 物 鉄釘、人骨片が出土。

28-1-鉄釘。長さ6cm、最大幅0.7cm、重さ10g。  
左側面に木質がみられる。

4号火葬墓（第28・29図、図版3-3・10）

位 置 本火葬墓は、H-5区に位置し、3号火葬墓と複合しており、3号墓によって切られていた。

平面形は、長方形を呈し、東辺と西辺に張り出し部がみられる。

土層は、1層が褐色土（炭化物を少し含む）、2層は暗褐色土（炭化物は多く、焼土は少し含む）、3層は黄褐色土（炭化物、焼土を少し含む）、4層は黄褐色土、5層は黒褐色土、6層は焼土であった。

規 模 南北方向1.35m、東西方向0.99m、深さ0.33m。

遺 物 鉄釘、人骨片が出土。

28-2-鉄釘。長さ5.7cm、幅0.6cm、厚さ0.3cm。  
右側面に径0.3cmの貫通していない穴がある。

28-4-鉄釘。長さ6.6cm、最大幅1cm。

28-5-鉄釘。長さ6.3cm、最大幅0.9cm。

28-6-鉄釘。残存長3.7cm、最大幅0.5cm。

5号火葬墓（第30図、図版3-4）

位 置 本火葬墓は、H-5区に位置し、4号火葬墓の西側0.8mに検出された。

大小2基の長方形土塚が、2連した形態を

呈す。

土層は、1層が褐色土（炭化物・焼土を少し含む）、2層が褐色土（炭化物・焼土を含む）、3層が褐色土（多くの炭化物・焼土を含む）、4層が褐色土（骨・焼土・炭化物を含む）、8層が焼土、9層が黄褐色土であった。

規 模 東西南向0.89m、南北方向…C-C'1.11m、D-D'0.75m、深さ0.4m。

遺 物 人骨片。

6号火葬墓（第28・30図、図版3-4・10）

位 置 本火葬墓は、H-5区に位置し、5号火葬墓と複合していた。

平面形は、不整形で、東西方向に細長い。

土層は、5層が褐色土（炭化物・焼土をわずかに含む）、6層が褐色土（骨片を含む）、7層が褐色土（焼土を含む）であった。

規 模 南北方向0.58m、東西方向約1.35m、深さ0.32m。

遺 物 鉄器、骨片が出土。

28-3-鉄器。長さ7.6cm、幅0.3cm、厚さ0.4cm。

7号火葬墓（第29図）

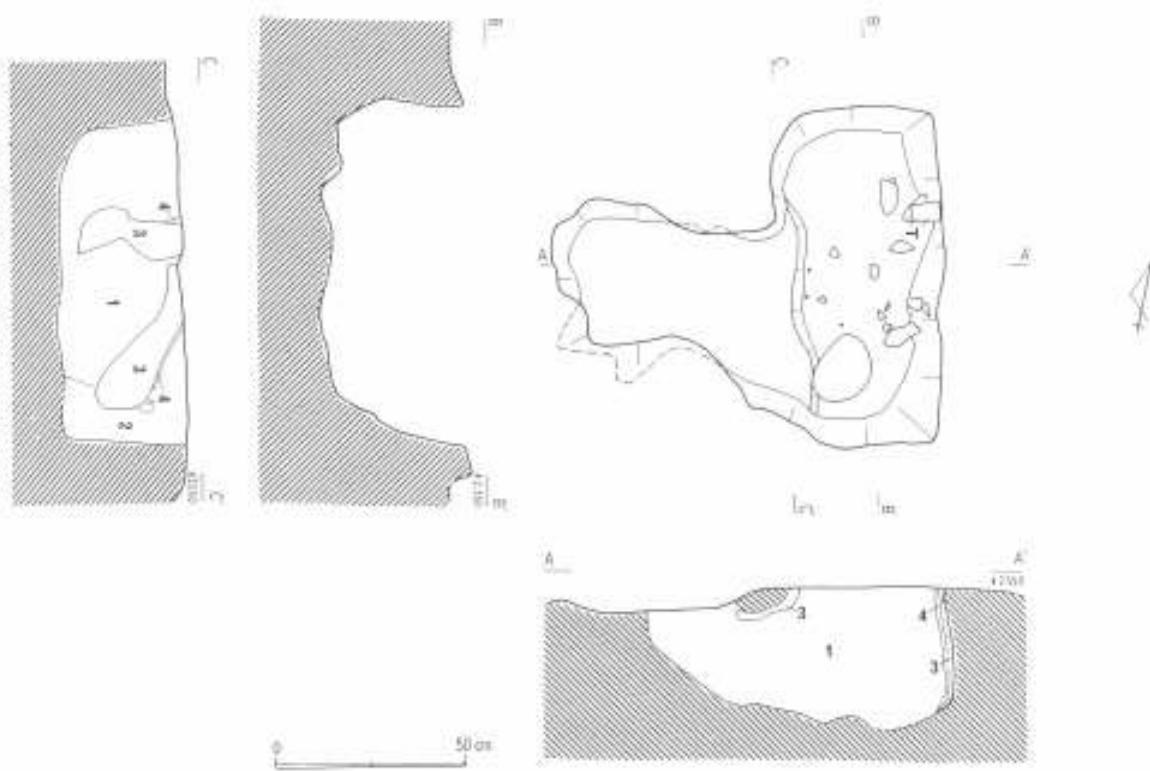
位 置 本火葬墓は、G・H-5区に位置し、6号火葬墓の東側に接して検出された。

平面形は、不整形を呈し、他の火葬墓の上面には川原石が置かれてあったが、本火葬墓には川原石が検出されなかった。

土層は、8層が焼土、10層が褐色土（炭化物を少し含む）、11層が褐色土（焼土を含む）、12層が暗褐色土（炭化物・焼土を含む）、13層が褐色土（焼土・炭化物を含む）、14層が暗褐色土（焼土・炭化物を12層より多く含む）であった。

規 模 長軸1.16m、短軸0.66m、深さ0.25m。

遺 物 人骨片。



第31図 8号火葬墓

#### 8号火葬墓

(第31図、図版3-5)

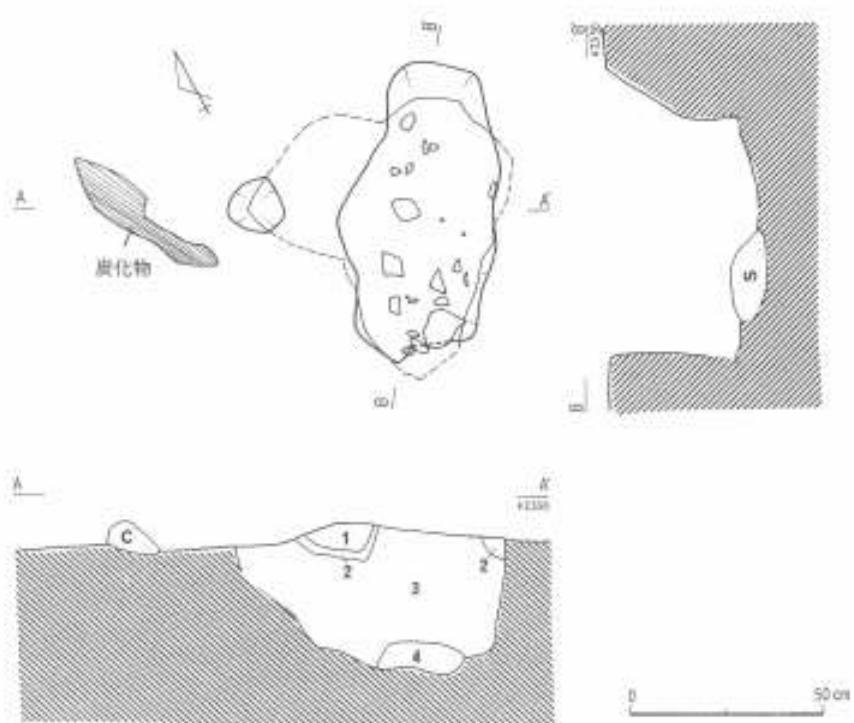
位 置 本火葬墓は、G—

概 要 5区に位置し、7号  
火葬墓の北側0.4m  
に検出された。

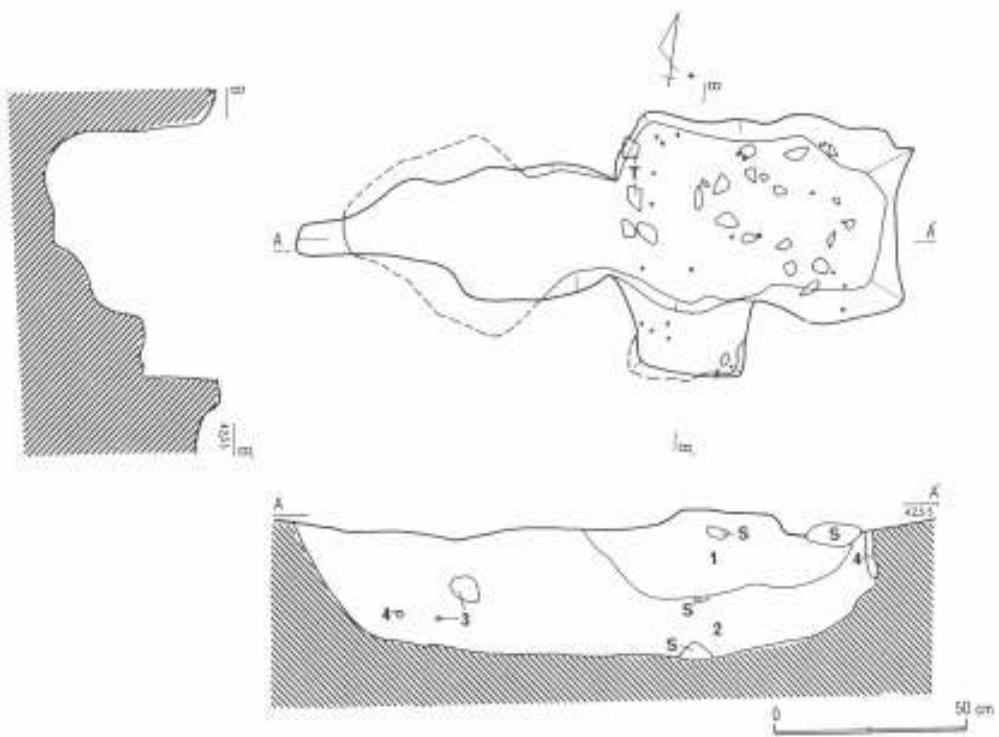
平面形は、長方形  
を呈し、西辺には大  
きな張り出しを有し  
ていた。

土層は、1層が褐  
色土（炭化物・焼土  
を少し含む）、2層  
が褐色土（炭化物・  
焼土を含む）、3層  
が焼土、4層が炭化  
土であった。

規 模 南北方向0.9m、東  
西方向1.01m、深さ



第32図 9号火葬墓



第33図 10号火葬墓

0.37m。

遺物 土器片 2点。

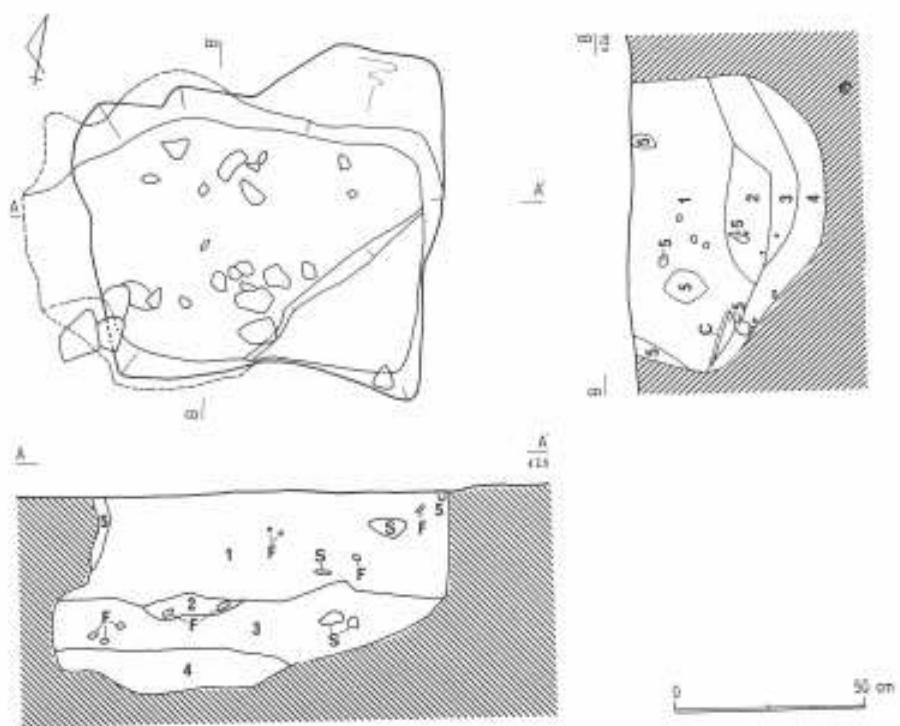
9号火葬墓 (第32  
図、図版3-6)

位置 本火葬墓は

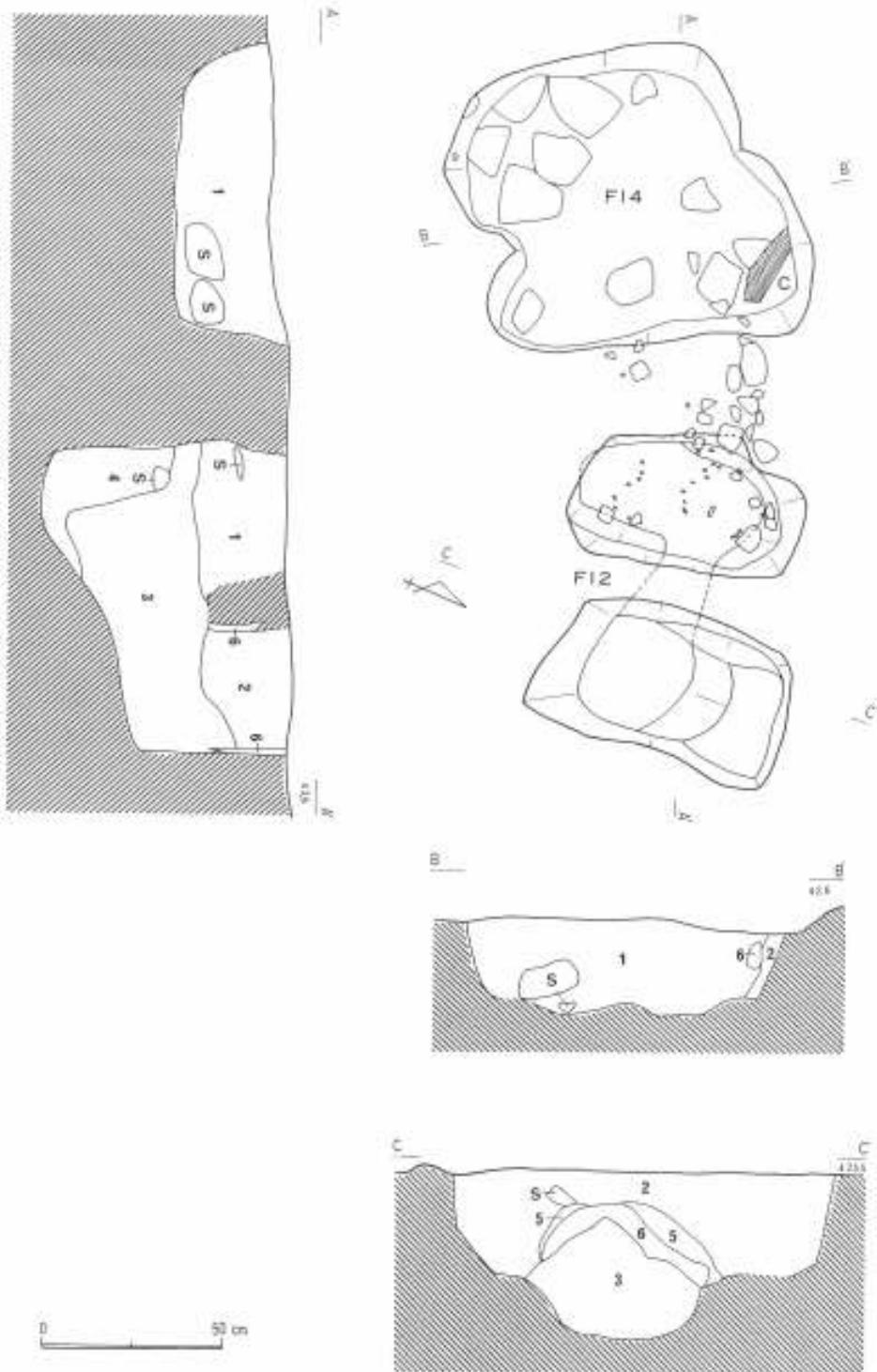
概要 G—4区に検出され、長方形を呈し、北西辺に突出しを有する。

土層は、1層が褐色土、  
2層が焼土、  
3層が褐色土  
(炭化物・焼土を少し含む)、  
4層が褐色土  
(炭化物・焼土を多く含む)

であった。



第34図 11号火葬墓



第35図 12・14号火葬墓

規 模 長軸方向0.75m、短軸方向0.7m、深さ0.4  
m、煙出し部一帯0.37m、長さ0.25m  
遺 物 人骨片。

10号火葬墓（第33図、図版4-1）

位 置 本火葬墓は、G-4区に位置し、9号火葬  
概 要 墓の南側0.4mに検出された。

平面形は、長方形を呈し、西側、南側に張出し部を有する。張出し部は、袋状に掘られ西側張出し部の先端は、約60°の角度で立ち上がっている。

土層は、1層が褐色土（焼土ブロック・炭化物を含む）、2層は褐色土（焼土粒子・炭化物・骨片を含む）、3層は炭化土、4層は焼土であった。

規 模 長軸1.52m、北辺0.72m、東辺0.4m、西張出し部一上幅0.35m、下幅0.53m、長さ0.84m、南張出し部一南辺0.27m、東辺0.2m。

遺 物 土器片2点、人骨片。

11号火葬墓（第34図）

位 置 本火葬墓は、G-4区に位置し、10号火葬墓の西側3.8mに検出された。

平面形は、長方形を呈し、西側は袋状に掘られていた。

土層は、1層が褐色土（焼土ブロック、炭化物を多く含み、骨片も含む）、2層は黒褐色土（炭化物を多く含み、焼土ブロック・骨片も含む）、3層は褐色土（焼土・炭化物を少し含み、骨片も含む）、4層は黒褐色土（炭化物・焼土を含む）、5層は焼土であった。

規 模 長軸一上端0.94m、下端1.05m、短軸一上端0.72m、深さ0.52m。

遺 物 人骨片。

12号火葬墓（第36図、図版4-2）

位 置 本火葬墓は、G-3区に位置し、11号火葬墓の西側1.8mに検出された。

平面形は、長方形の土塙を2つ並べ、2連式にした形を呈す。東側土塙は、西側に比較して、形が大きいが、西側土塙は、東側より深さが深い。

壁の焼けている状態は、東側土塙の方が良好であった。

土層は、1層が褐色土（焼土・炭化物を含み、骨片を少し含む）、2層は褐色土（焼土・

炭化物を少し含む）、3層は暗褐色土（焼土・炭化物を少し含み、骨片を含む）、4層は暗褐色土（砂を多く含み、下層に骨片を多く含む）、5層は炭化土、6層は焼土であった。

規 模 東側土塙一長軸1.06m、短軸0.35m、深さ0.3m。

西側土塙一長軸0.63m、短軸0.34m、深さ0.68m。

連絡部一東西方向0.16m。

遺 物 人骨片。

13号火葬墓（第36図、図版4-3・4）

位 置 本火葬墓は、G-3区に位置し、14号火葬墓の南側に検出された。

土塙の上には、川原石がまばらではあるが検出され、1層と2層との間にも川原石が出土した。

平面形は、隅の丸い台形を呈している。

1・2層から人骨片が検出されたが、2層の下位からは焼けていない頭骨が出土した。

土層は、1層が褐色土（炭化物・骨を多く含み、焼土を少し含む）、2層は暗褐色土（砂・炭化物・焼土・骨を含む）であった。

規 模 北東辺0.85m、北西辺0.66m、深さ0.7m。

遺 物 人骨。

14号火葬墓（第35図、図版4-2）

位 置 本火葬墓は、G-3区に位置し、13号火葬墓の北側に検出された。

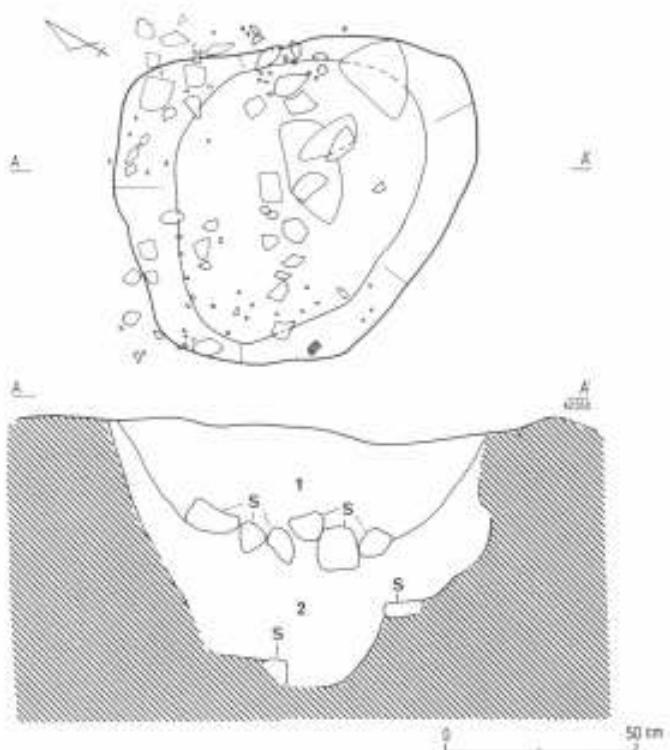
平面形は、方形を呈し、北西辺と南東辺には、くい込みがみられる。

底面には、直径10~15cmの川原石が検出された。

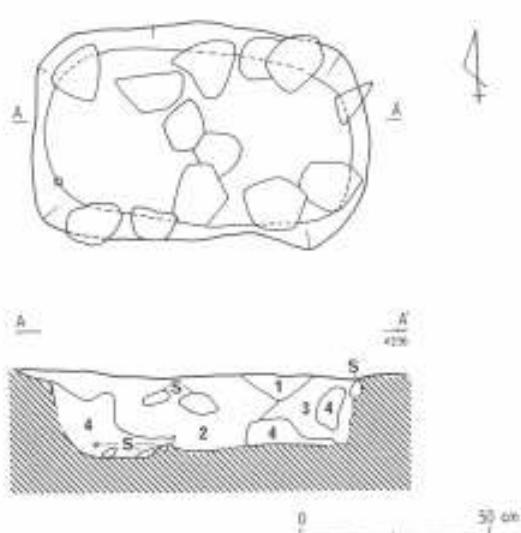
土層は、1層が褐色土（炭化物を含み、焼土・骨片を少し含む）、2層は褐色土（1層より明るい）であった。

規 模 北西辺0.84m、北東辺0.82m、南西辺0.63m、深さ0.3m。

遺 物 人骨片。



第36図 13号火葬墓



第37図 15号火葬墓

15号火葬墓 (第37図、

図版4-5)

位 置 本火葬墓は、F

概 要 —3区に位置し、

14号火葬墓の北側

1mに検出された。

平面形は、長方形を呈し、火葬墓の上には、直径10-15cmの川原石が「エ」の字状に置かれていた。

土層は、1層が暗褐色土、2層が黒褐色土、3層が黑色土、4層が褐色土であった。

規 模 長幅0.8m、短

軸0.57m、深さ0.2

m。

遺 物 人骨片。

16号火葬墓 (第38、39

図、図版4-6-10)

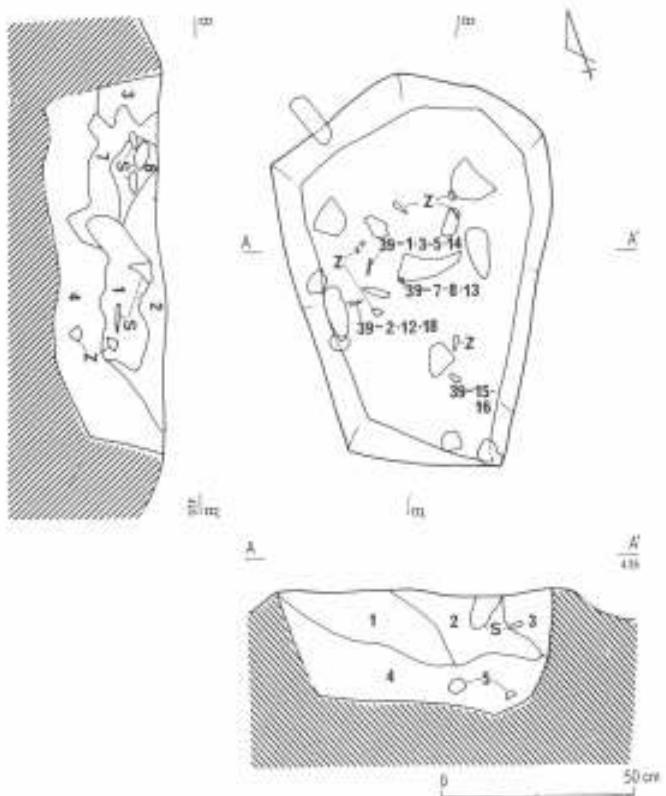
位 置 本火葬墓は、F

概 要 —4区に位置し、

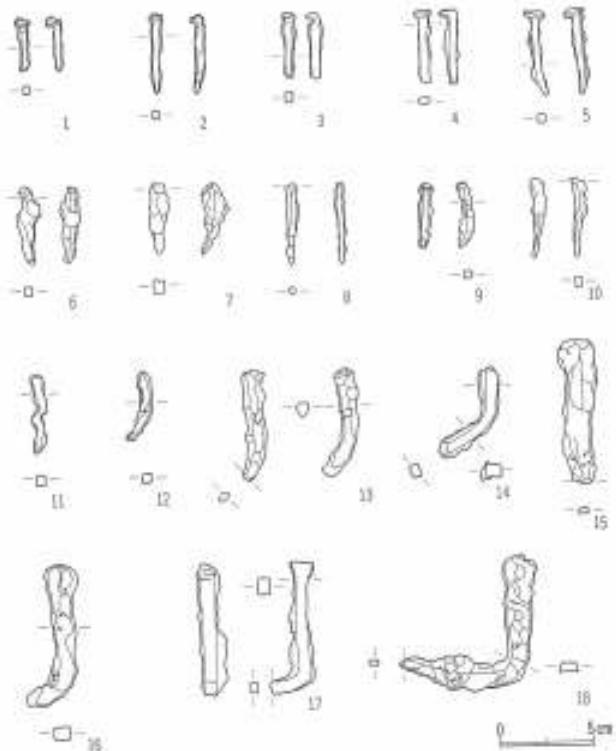
15号火葬墓の北東2.2mに検出された。

平面形は、南北に細長い五角形を呈する。

土層は、1層が黒褐色土(炭化物を多く含み、焼土、骨片も含む)、2層は暗褐色土(炭化物・焼土・骨片



第38図 16号火葬墓



第39図 16号火葬墓出土遺物

を含む)。3層は褐色土、4層は褐色土(砂と少しの炭化物を含む)5層は暗褐色土、6層は暗褐色土(炭化物を多く含み、焼土・骨片も含む)、7層は褐色土(炭化物・骨片を含む)であった。

**規 模** 長軸1m、東辺0.88m、南辺0.4m、西辺0.78m、深さ0.32m。

**遺 物** 人骨片・鉄器が出土。

1—鉄器(釘)。残存長2.7cm、頭部幅0.5cm・厚さ0.8cm、中部幅0.3cm・厚さ0.5cm。断面形は長方形を呈す。

2—鉄器(釘)。残存長4.1cm、頭部幅0.7cm・厚さ0.7cm、中部幅0.3cm・厚さ0.4cm。断面形は長方形を呈す。

3—鉄器(釘)。残存長3.5cm、頭部幅0.6cm・厚さ0.6cm、中部幅0.4cm・厚さ0.6cm。断面形は長方形を呈す。

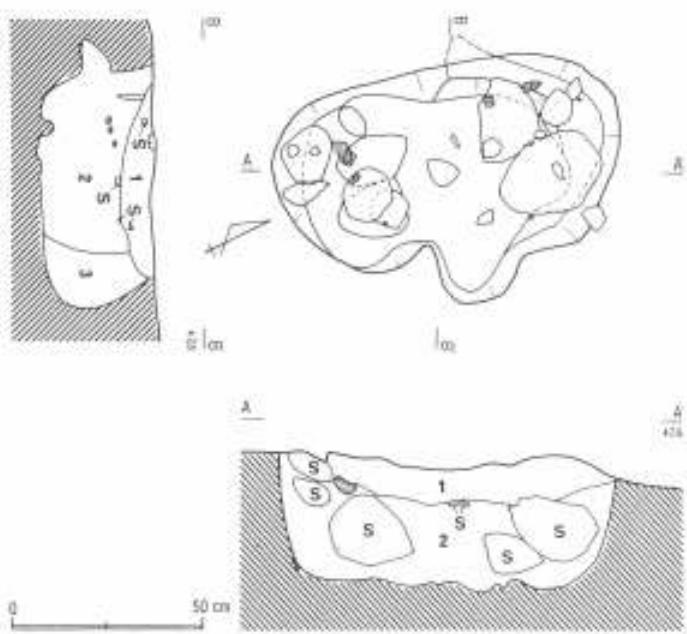
4—鉄器(釘)。残存長3.9cm、頭部幅0.6cm・厚さ0.9cm、中部幅0.6cm・厚さ0.4cm。断面形は長方形を呈す。

5—鉄器(釘)。残存長0.45cm、頭部幅0.9cm・厚さ0.8cm、中部幅0.4cm・厚さ0.4cm。断面形は方形を呈し、木質がみられる。

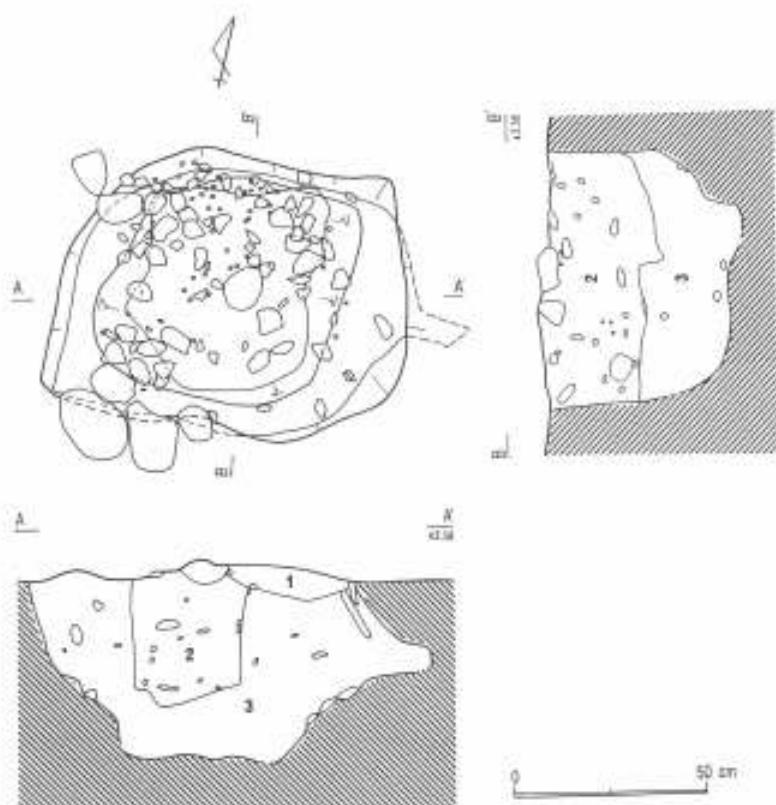
6—鉄器(釘)。残存長3.9cm、中部幅0.4cm・厚さ0.4cm。断面形は方形を呈す。

7—鉄器(釘)。残存長3.8cm、中部幅0.6cm・厚さ0.7cm。断面形は方形を呈す。

8—鉄器(釘)。残存長4.9cm、中部幅0.3cm・厚さ0.3cm。断面形は方形を呈す。



第40図 17号火葬墓



第41図 18号火葬墓

9—鉄器（釘）。残存長3.2cm、

中部幅0.4cm・厚さ0.5cm。

断面形は長方形を呈す。

10—鉄器（釘）。残存長4.1cm、

中部幅0.5cm・厚さ0.4cm。

断面形は長方形を呈す。

11—鉄器（釘）。残存長4.2cm、

中部幅0.5cm・厚さ0.5cm。

断面形は方形を呈す。

12—鉄器（釘）。残存長3.7cm、

中部幅0.5cm・厚さ0.5cm。

断面形は方形を呈す。

13—鉄器。残存長5.8cm、中部

幅0.6cm・厚さ0.6cm。

14—鉄器。残存長5.7cm、上部

幅0.9cm・厚さ0.6cm。下

部幅0.7cm・厚さ0.5cm。

断面形は長方形を呈す。

15—鉄器。残存長7.6cm、

先端部幅0.5cm・厚  
さ0.3cm。断面形は  
長方形を呈す。

16—鉄器。残存長8.3cm、

中部幅0.9cm・厚さ  
0.7cm。断面形は長  
方形を呈す。

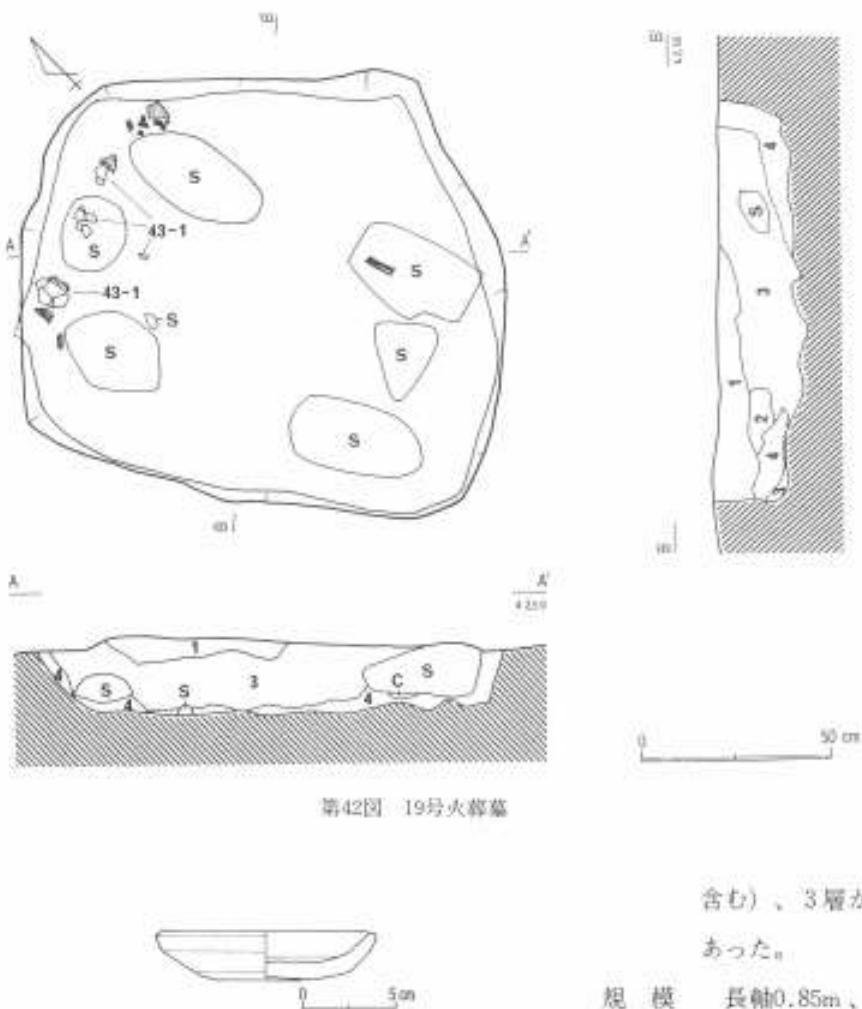
17—鉄器。残存長7.9cm、

頭部幅1.1cm・厚さ  
1.3cm。上部幅0.8  
cm・厚さ0.6cm。先  
端部幅0.4cm・厚さ  
0.5cm。断面形は方  
形を呈す。頭部は、  
孔がみられ、先端部  
は屈曲している。

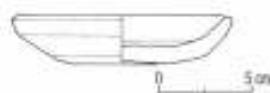
18—鉄器。残存長12.1cm、

中部幅—上位0.7cm、

下位1cm・厚さ0.5



第42図 19号火葬墓



第43図 19号火葬墓出土遺物

cm、先端部幅0.5cm・厚さ0.3cm。中央部分で屈曲し、L字形になっており、断面形は、中央が台形、先端部が長方形を呈す。

#### 17号火葬墓（第40図）

**位 置** 本火葬墓は、F—4区に位置し、16号火葬墓の北東2mに検出された。

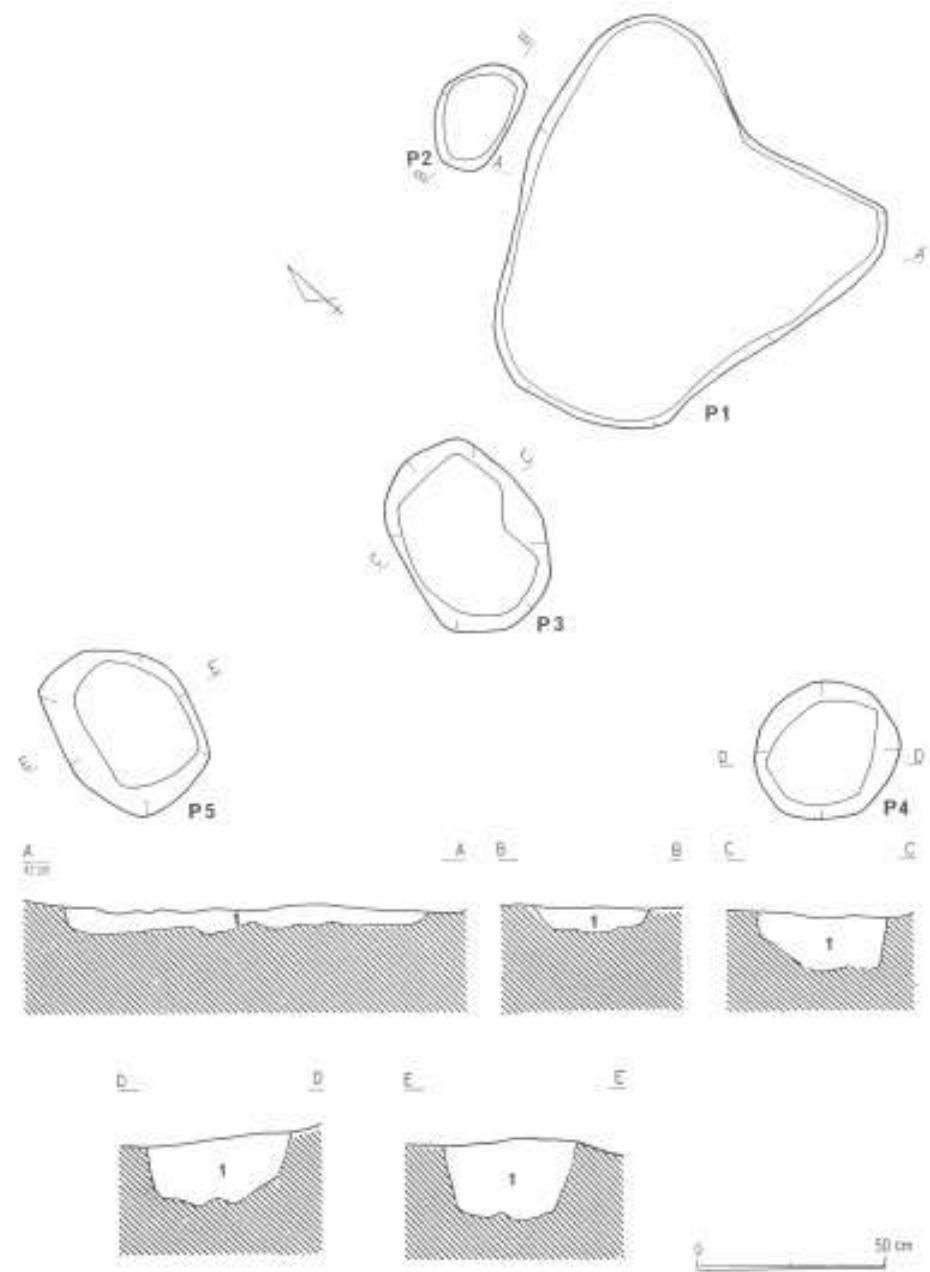
平面形は、長楕円形を呈し、東辺に張出し部を有する。

火葬墓の上には、直径10~25cmの川原石が置かれていた。

土層は、1層が褐色土、2層は褐色土（炭化物を多く含む）、3層は暗褐色土であった。

**規 模** 長軸0.92m、短軸0.56m、張出し部幅0.25m・奥行0.16m、深さ0.32m。

**遺 物** 人骨片。  
**18号火葬墓（第41図）**  
**位 置** 本火葬墓は、F—4区に位置し、17号火葬墓の北西に接して検出された。  
**概 要** 平面形は、長方形を呈し、東辺は袋状に掘り込まれた張出しを有する。  
**規 模** 長軸0.85m、短軸0.68m、張出し部幅7cm・奥行0.18m、深さ0.5m。  
**遺 物** 人骨片。  
**19号火葬墓（第42図、図版5—1）**  
**位 置** 本火葬墓は、E—4区に位置し、18号火葬墓の西側2.8mに検出された。  
**概 要** 平面形は、台形を呈し、火葬墓内には、径20~40cmの川原石が6個置かれていた。  
**規 模** 北東辺0.82m、北西辺0.91m、南西辺1.16m、南東辺1.11m、深さ0.23m。  
**遺 物** 人骨片、土器が出土。  
**1—かわらけ** 口径11.8cm、底径5cm、高さ2.6cm。粗粒砂を含み、焼成は良い。色調は淡褐色を呈す。つくりが厚ぼったく、器高が浅い。



第44図 1～5号ピット

残存率は $\frac{1}{2}$ で、火葬墓内の北側から検出され 規 模 北辺1.05m、南辺0.81m、東辺0.8m、深 た。

さ 7 cm。

1号ピット (第44図)

遺 物 なし。

位 置 本ピットは、調査区の東側に位置し、F—

2号ピット (第44図)

概 要 15区に検出された。

位 置 本ピットは、1号ピットの北側に接して検

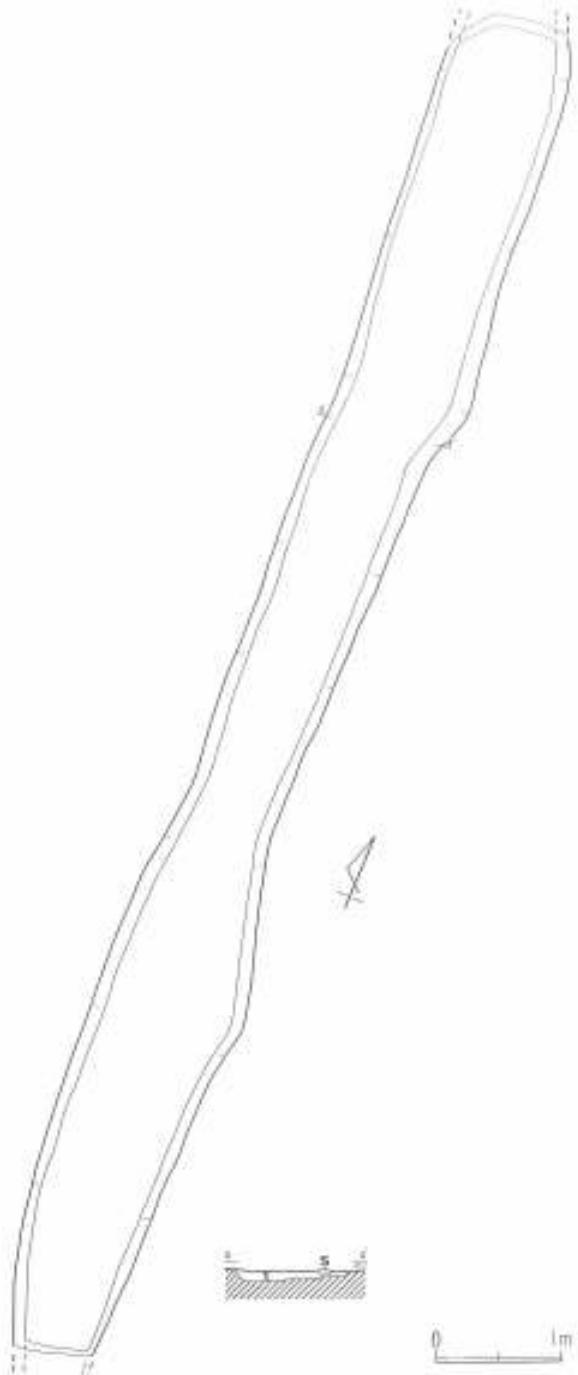
平面形は、不整形を呈し、掘り方は非常に 概 要 出された。

浅かった。

平面形は、楕円形を呈し、東西方向に細長

覆土は、黒褐色土が堆積していた。

い。



第45図 1号溝跡

覆土は、黒褐色土が堆積していた。  
規 模 南北方向 0.2 m、東西方向 0.31 m、深さ 7 cm。

遺 物 なし。

3号ピット（第44図）  
位 置 本ピットは、1号ピットの西側 0.2 m に検  
概 要 出された。

平面形は、楕円形を呈し、南北方向に細長

い。

覆土は、暗褐色土が堆積していた。

規 模 南北方向 0.51 m、東西方向 0.36 m、深さ 14 cm。

遺 物 なし。

4号ピット（第44図）

位 置 本ピットは、3号ピットの南側 0.65 m に検  
概 要 出された。

平面形は、円形を呈し、覆土は、暗褐色土  
が堆積していた。

規 模 南北方向 0.35 m、東西方向 0.38 m、深さ 18 cm。

遺 物 なし。

5号ピット（第44図）

位 置 本ピットは、3号ピットの西側 0.65 m に検  
概 要 出された。

平面形は、楕円形を呈し、南北方向に細長  
い。

覆土は、暗褐色土が堆積していた。

規 模 南北方向 0.46 m、東西方向 0.36 m、深さ 21 cm。

遺 物 なし。

1号溝跡（第45図）

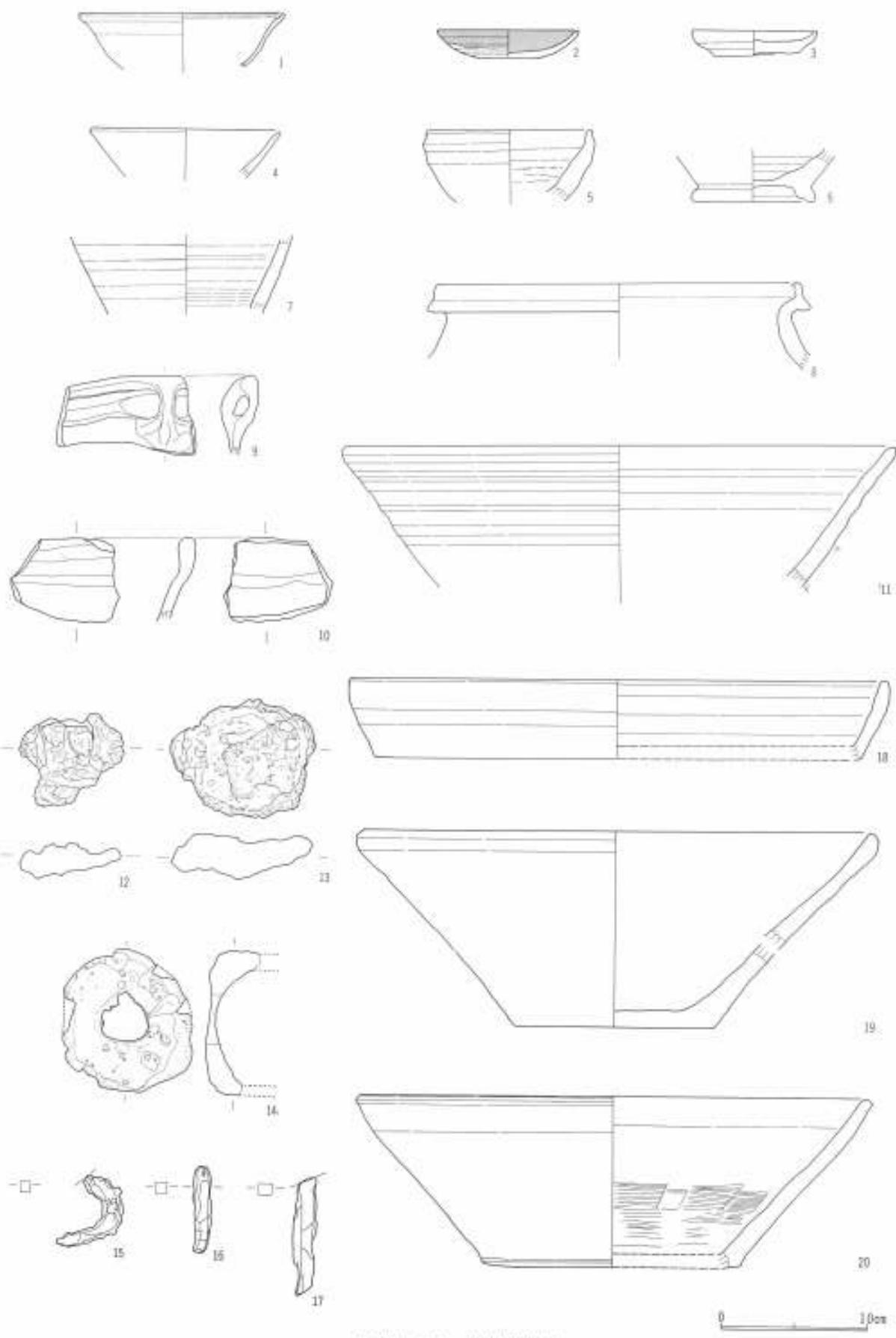
位 置 本溝跡は、調査区の北側に位置し、1号配  
概 要 石遺構の東側に検出された。

主軸は、ほぼ南北を示し、掘り方は浅かつ  
た。

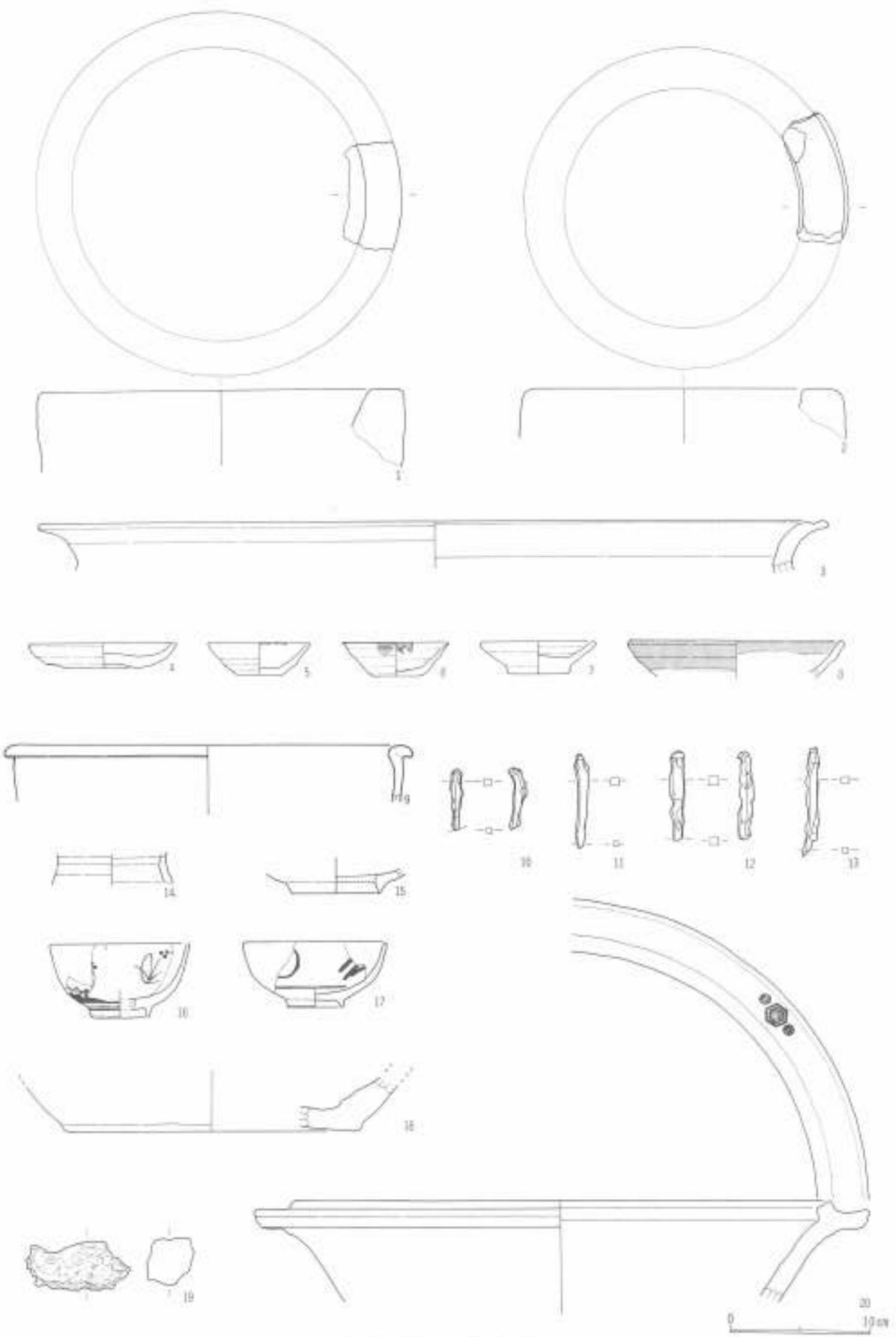
覆土は、褐色土（火山灰を多く含む）であ  
った。

規 模 幅 0.8~1.2 m、深さ 8 cm。

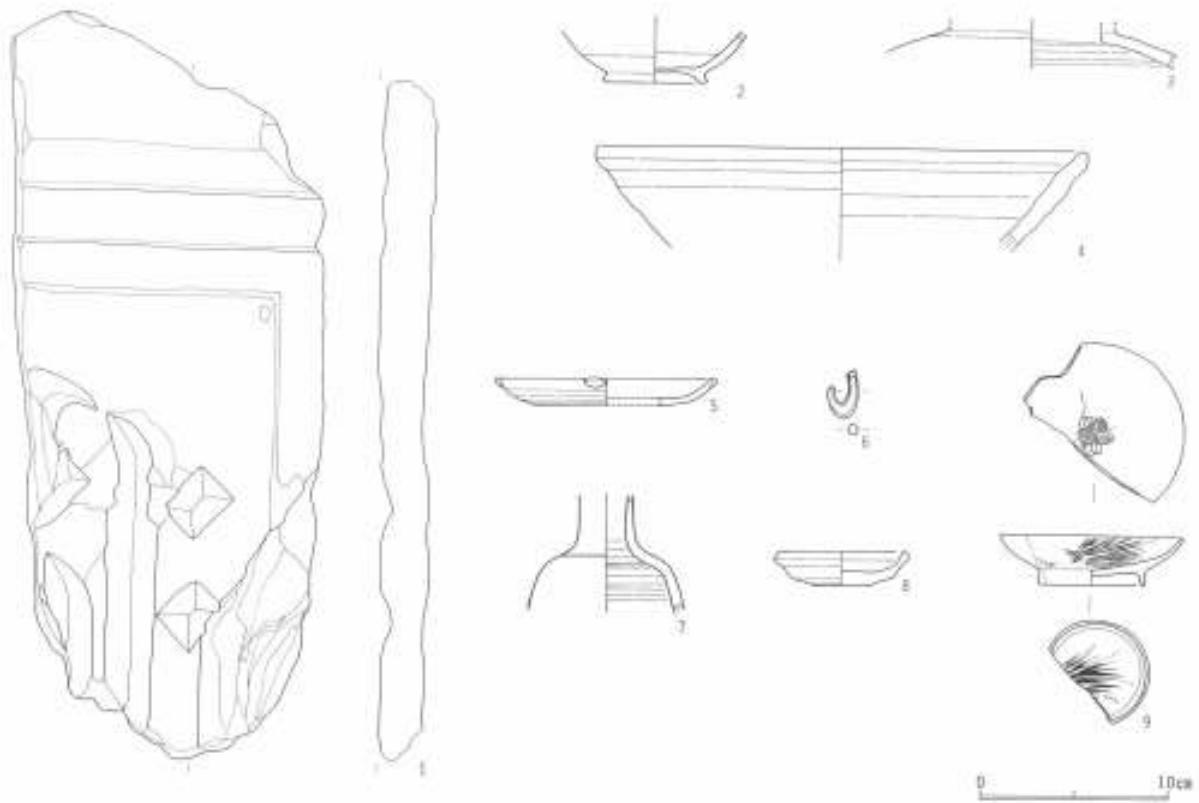
遺 物 なし。



第46図 グリッド出土遺物(1)



第47図 グリッド出土遺物(2)



第48図 グリッド出土遺物(3)



第49図 グリッド出土遺物(4)

#### グリッド出土遺物 (第46~49図、図版9~12)

グリッド出土遺物としたものは、第46~49図の4図であるが、46図、47図-1・2の遺物は1号配石遺構、47図の遺物は2号配石遺構にそれぞれ伴うと考えられる。配石遺構の性格上、表土から浅い面に確認されており、擾乱を受けている可能性が高いので、グリッド出土遺物として取り扱った。

46-1-口はげ皿(白磁)。口径14.1cm、残存高3.8cm。口縁の寸残存。E-17区出土。

46-2-灯明皿。口径9.7cm、底径4.2cm、器高1.9cm。細粒砂を含み、内面と口縁外面は茶褐色、底部は淡褐色を呈す。底部・底部周辺は回転ヘラケズリ。寸残存。D-15区出土。

46-3-かわらけ。口径8.6cm、底径5.6cm、器高1.5~1.9cm。中粒砂含み、淡褐色。底部は回転糸切り。寸残存。C-15区出土。

46-4-碗(青磁)。口径13.2cm、残存高3.4cm。口縁の寸残存。I-13区出土。

- 46-5-鉢（常滑）。口径11.6cm、残存高5cm。細粒砂を含み、茶褐色。土残存。B-16区出土。
- 46-6-長頸瓶（須恵器）。底径8.4cm、残存高3.7cm。中粒砂含み、紫褐色。底の土残存。C-16区出土。
- 46-7-四耳壺（白磁）。残存高5.4cm。肩下部の土残存。B-15区出土。
- 46-8-甕（常滑）。口径25.4cm、残存高6.1cm。中・粗粒砂含み、黒褐色。口縁の土残存。H-18区出。
- 46-9-内耳土器。残存高5.3cm。粗粒砂を含み、黒褐色。G-15区出土。
- 46-10-内耳土器。残存高5.7cm。細礫・粗粒砂を含み、暗灰褐色。G-13区出土。
- 46-11-鉄滓。長さ7.2cm、最大幅6.1cm、最大厚2.2cm、重さ94g。C-16区出土。
- 46-12-鉄滓。長さ10.1cm、最大幅8.2cm、最大厚2.9cm、重さ390g。B-16区出土。
- 46-13-ふいごうの口。直径10cm、残存長3.7cm。内面は褐色、外面は黒色でガラス質がみられる。C-16区出土。
- 46-14-鉄器。残存長7.8cm、上部幅0.7cm、厚さ0.8cm。断面形は方形を呈し、中央で屈曲している。E-14区出土。
- 46-15-鉄器（釘）。残存長6cm、上部幅0.7cm・厚さ0.8cm。断面形は方形を呈す。E-11区出土。
- 46-16-鉄器。残存長8.1cm、上部幅0.9cm・厚さ0.8cm。断面形は方形を呈す。D-16区出土。
- 46-17-擂鉢。口径38.6cm、残存高9.7cm。粗・中粒砂含み、灰白色。体部下半の外面は回転窓削り。土残存。常滑系統。C-17区出土。
- 46-18-内耳土器。口径37.2cm、底径33.8cm、器高5.4cm。中粒砂を含み、淡黄褐色。土残存。G-13区出土。
- 46-19-擂鉢。口径36cm、底径13.8cm、器高13.6cm。粗・中粒砂を含み、黒褐色・淡褐色。底部は右の回転窓切り。土残存。A・B-15区出土。
- 46-20-擂鉢。口径35.8cm、底径18.2cm、器高11.8cm。細礫・粗・中粒砂含み、外面は茶褐色、内面は暗淡褐色。土残存。E-16・17区出土。
- 47-1-石臼。直径26cm、残存厚5.6cm。安山岩(B)。上白で、土残存。E-15区出土。
- 47-2-石臼。直径33.6cm、残存厚3.6cm。安山岩(A)。上白で土残存。A-15区出土。
- 47-3-大壺（渥美）。口径56.4cm、残存高3.8cm。中粒砂を含み、灰褐色だが内面に晴黄灰色自然釉あり。口縁の土残存。E-11区出土。
- 47-4-かわらけ。口径10.6cm、底径5.5cm、器高1.8cm。中・細粒砂を含み・淡褐色。土残存。E・F-5区で配石造構のトレンチ内出土。
- 47-5-かわらけ。口径7.3cm、底径3.4cm、器高2.3cm。中・細粒砂を多く含み、茶褐色。口縁内部にタール付着。ほぼ完形。F-5区で配石造構のトレンチ内出土。
- 47-6-かわらけ。口径7.6cm、底径3.4cm、器高2.4cm。中粒砂を多く含み、淡褐色。口縁にタール付着。土残存。E-4区出土。
- 47-7-かわらけ。口径8.2cm、底径4.4cm、器高2.3cm。中粒砂を多く含み、淡褐色・黒色。底部が非常に厚い。土残存。F-4区出土。
- 47-8-碗（瀬戸）。口径15.4cm、残存高2.6cm。灰釉。口縁の土残存。E-4区出土。
- 47-9-鉢。口径29.2cm、残存高4cm。細粒砂含み、淡黄褐色、灰釉、口縁の土残存。J-7区出土。江戸末期。
- 47-10-鉄器（釘）。残存長4.4cm、上部幅0.6cm・厚さ0.5cm。断面形は方形を呈す。F-10区出土。
- 47-11-鉄器（釘）。残存長6.6cm、上部幅0.6cm・厚さ0.5cm。断面形は方形を呈す。E-4区出土。
- 47-12-鉄器（釘）。残存長6.3cm、上部幅0.7cm・厚さ0.8cm。断面形は方形を呈す。F-9区出土。
- 47-13-鉄器（釘）。残存長7.7cm、上部幅0.5cm・

- 厚さ0.5cm。断面形は方形を呈す。E—4区出土。
- 47-14-壺（白磁）。残存高2.2cm。頸部の土残存。E—6区出土。
- 47-15-碗（青磁）。底径6.3cm、残存高1.8cm。底部の土残存。D—4区出土。
- 47-16-茶碗（伊万里）。口径10cm、底径4cm、器高5.3cm。草花の文様の染付。土残存。G—11区出土。
- 47-17-茶碗。口径10cm、底径4cm、器高4.7cm。染付。土残存。G—10区出土。
- 47-18-甕（常滑）。底径21.4cm、残存高3.9cm。粗礫、粗・中粒砂を含み、外面は紫褐色、内面は暗黄灰白色自然釉あり。底部の土残存。E—5区出土。
- 47-19-鉄滓。長さ7.5cm、最大幅3.5cm、最大厚3.2cm、重さ131g。F—10・11区出土。
- 47-20-火鉢。口径43.8cm、残存高7.1cm。細・中粒砂を含み、淡黄褐色・灰褐色。口縁の内側に凸帯が貼付されており、菊花文と亀甲文に菊花文を配した文様の押印が施文されている。亀甲文に菊花文を配した押印は、熊谷市三ヶ尻城ノ上遺跡の火鉢にも見られる。口縁の土残存。G—1区出土。
- 48-1-板石塔婆。残存高39.6cm、残存幅16.3cm、厚さ2.8cm。綠泥片岩、種子は阿弥陀如来。
- 48-2-环（須恵器）。底径5.2cm、高台径5.5cm、残存高2.8cm。粗・中粒砂を含み、暗灰白色。底部は回転糸切り。底部の土残存。
- 48-3-壺（白磁）。頸部径8.8cm、残存高2.1cm。肩部の土残存。
- 48-4-擂鉢。口径26.2cm、残存高5.4cm。中粒砂を含み、暗灰白色。口縁の土残存。
- 48-5-灯明皿。口径11.1cm、底径6.2cm、器高1.4cm。地肌は灰白色、鐵釉。口縁に棒状の貼文を有する。口縁内面にタール付着。土残存。
- 48-6-釣針。残存長2.6cm、幅0.45cm、厚さ0.45cm。断面形は方形を呈す。鉄製。
- 48-7-德利。頸部径5cm、残存高6.3cm。地肌は灰白色、釉薬は鐵釉。肩上半の土残存。
- 48-8-かわらけ。口径7cm、底径3.2cm、器高1.8cm。中粒砂を含み、淡褐色。土残存。
- 48-9-皿。口径9.7cm、高台径5.6cm、器高2.6cm。内面に軍配、外面に稻束と鶴の文様の染付を有す。土残存。
- 49-1-古銭。祥符通宝。直径2.45cm。銅銭。F—13区出土。
- 49-2-古銭。元豐通宝。直径2.4cm。真書体。銅銭。F—13区出土。
- 49-3-古銭。大觀通宝。直径2.2cm。真書体。銅銭。F—13区出土。

## V. 黒沢遺跡

### 1. 遺跡の概観

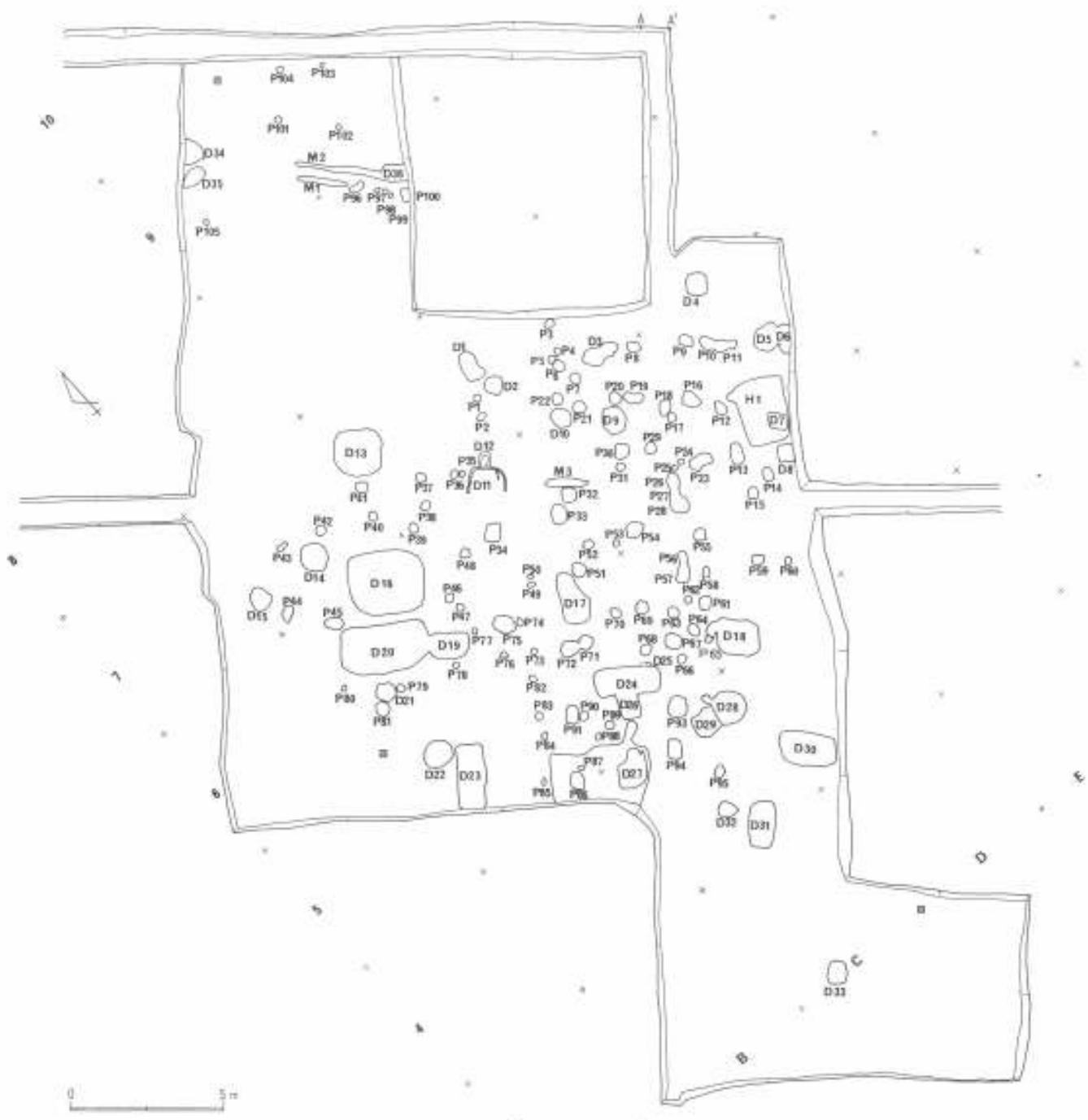
黒沢遺跡は、若松遺跡の東方約300mに位置し、昭和58年度調査を実施した黒沢館跡の南側に所在している。標高は41.7~42.3mを測り、北側が低くなっている。

調査は、トレンチ9本を配して実施し、1・2トレンチは拡張してI区とした。

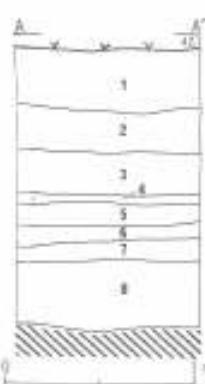
I区から、土塁36基、ピット105個、溝跡3本、竪穴状遺構1軒、4トレンチから、土塁1基、ピット11個、火葬墓1基、窪地跡1本、5トレンチから集石遺構1基、8トレンチから土葬骨がそれぞれ検出された。



第50図 黒沢遺跡トレンチ配置図



第51図 黒沢遺跡I区全剖面



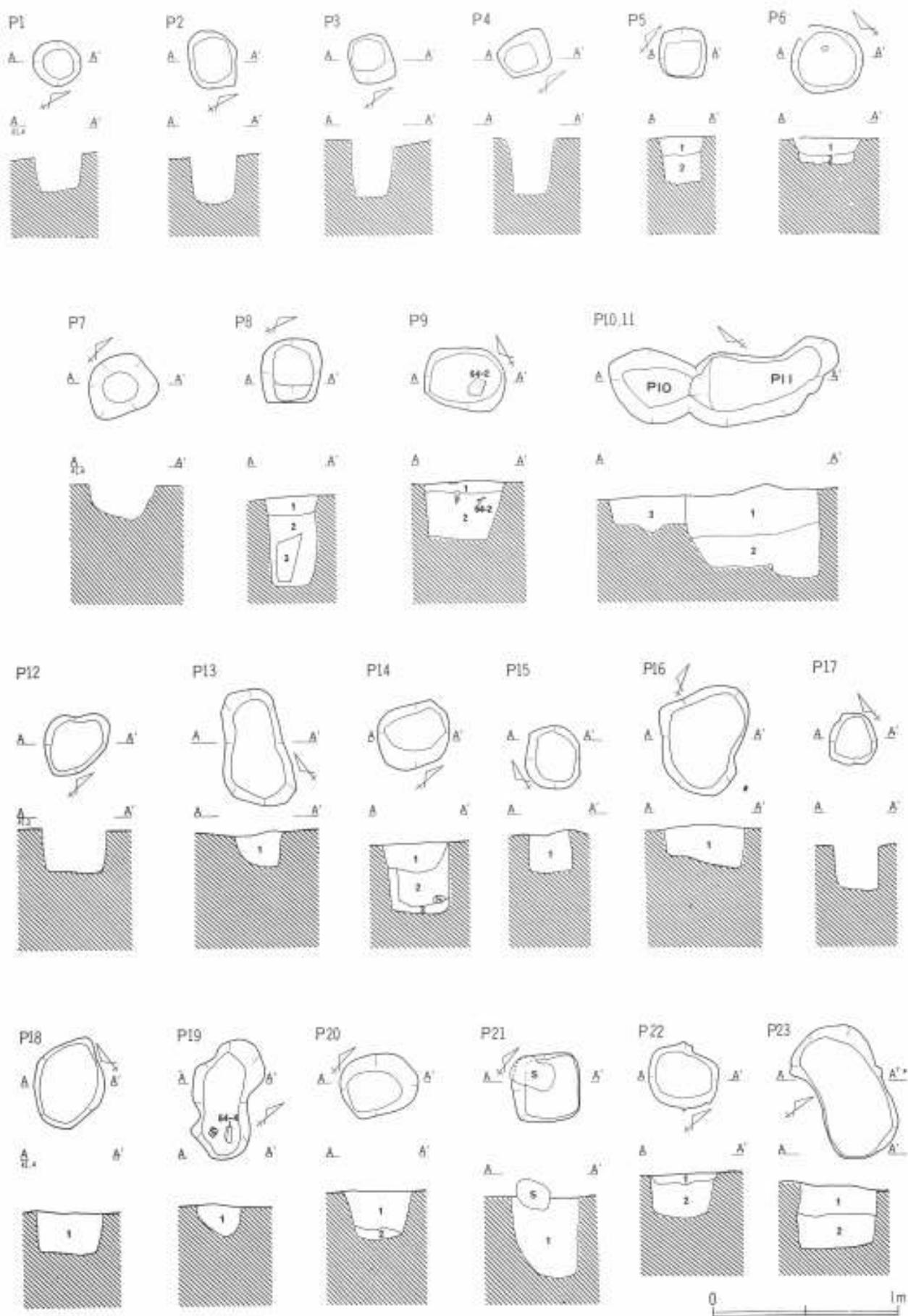
第52図 I区土層断面図

## 2. 遺構と遺物

### (1) I区 (第51・52図、図版7-2~5)

I区は、調査地の西側に位置し、多数の土塙、ピット等が検出された。

土層堆積状態は、1層が耕作土、2層は褐色土（火山灰少し含む）、3層は灰褐色土（酸化鉄含む）、4層は黄褐色土（酸化鉄含む）、5層は黄褐色土（4層より暗く酸化鉄含む）、6層は黒褐色土（焼土・炭化物を含み、生活面である）、7層は黒褐色土、8層は暗褐色土であった。



第53図 1~23号ビット

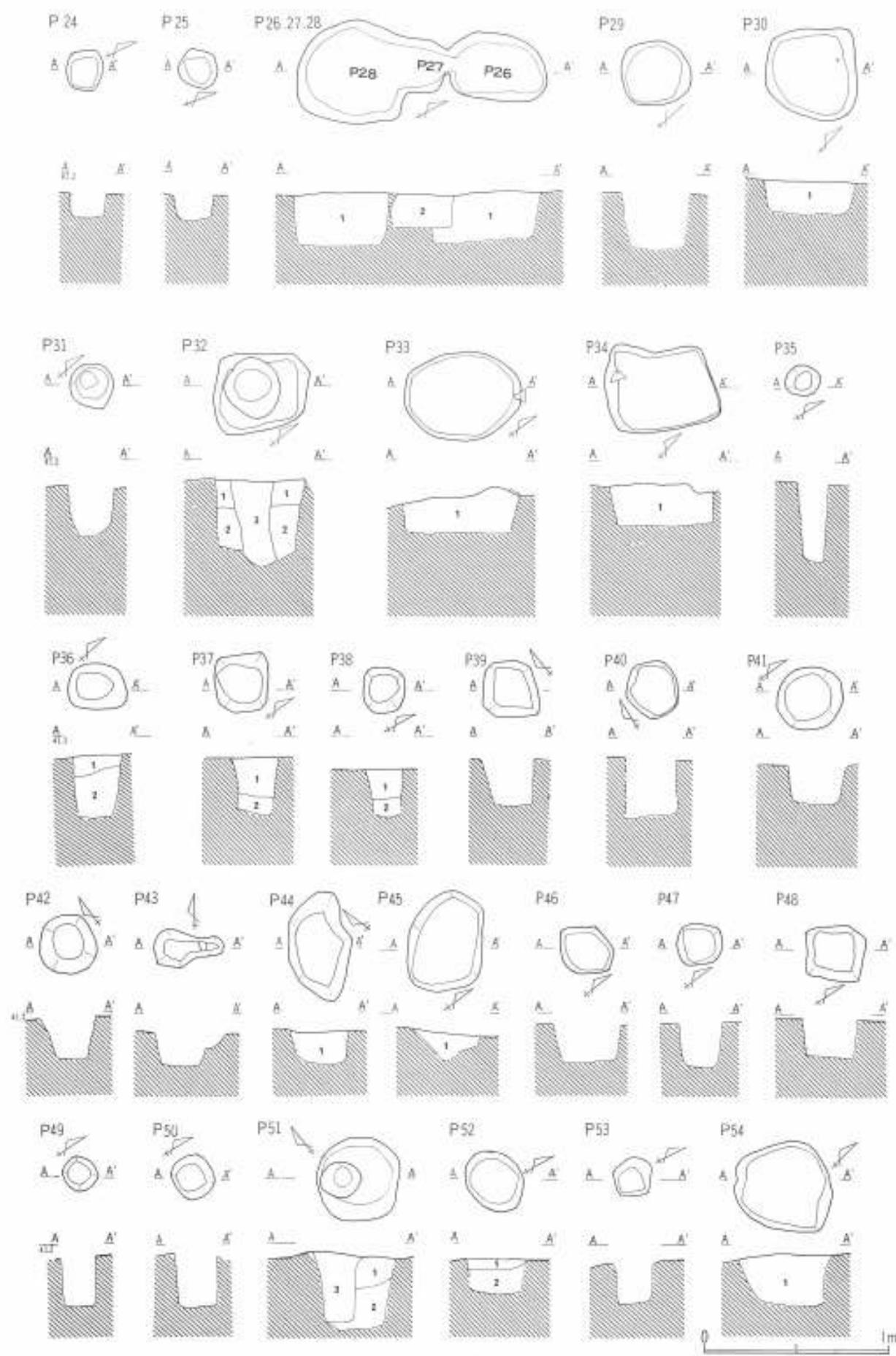
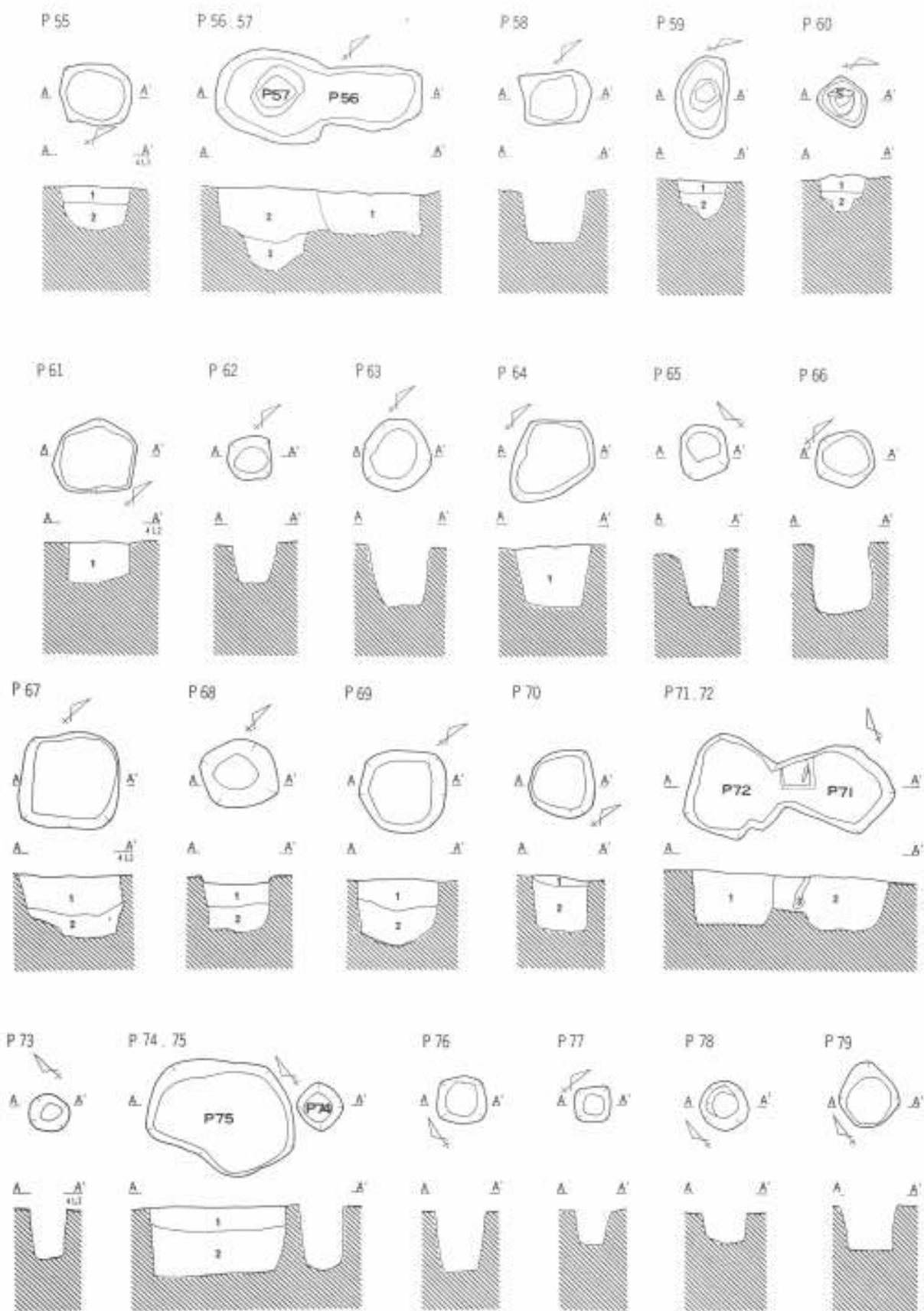


図54 図 24~54号 ピット

Pit No.	規模(長径×短径×深さ)	土 層	遺 物
1	25×25×20	黄褐色(灰色粘土を含む)	
2	32×25×25	同 上	
3	30×23×31	同 上	
4	30×22×31	同 上	
5	30×25×32	1.黄褐色(焼土・炭化物を含む) 2.褐色	
6	39×34×18	同 上	かわらけ
7	38×31×19	黄褐色(灰色粘土を含む)	
8	35×33×48	1.同 上 2.褐色 3.褐色(炭化物・焼土を多く含む)	
9	45×34×31	1.黄褐色(炭化物・焼土を少量含む) 2.褐色(炭化物・焼土を少量含む) 3.焼土ブロック	かわらけ(64-3)
10	42×40×20	黄褐色(灰色粘土を含む)	
11	72×35×48	1.黄褐色(焼土・炭化物を少量含む) 2.褐色(炭化物を含む)	かわらけ(64-1・Pit92のかわらけと接合)
12	41×31×24	黄褐色(灰色粘土を含む)	かわらけ
13	63×31×18	黄褐色(灰色粘土を含み、炭化物を少量含む)	
14	39×35×39	1.黄褐色(灰色粘土を含む) 2.褐色 3.褐色	
15	34×29×20	黄褐色(灰色粘土を含む)	
16	61×40×22	同 上	
17	29×25×24	同 上	
18	51×38×22	黄褐色(灰色粘土を含み、炭化物を少量含む)	
19	65×30×16	黄褐色(灰色粘土・焼土を含む)	砥石(64-4)
20	43×38×25	黄褐色(灰色粘土を含む)	
21	38×37×42	黄褐色(灰色粘土を含み、焼土・炭化物を少量含む)	
22	38×34×6	1.黄褐色(灰色粘土を含む) 2.褐色	
23	74×31×36	1.褐色(灰色粘土を含む) 2.黄褐色(灰色粘土・炭化物・焼土を含む)	
24	22×20×14	黄褐色(灰色粘土を含む)	
25	21×20×14	同 上	
26	51×31×29	黄褐色(灰色粘土を含み、焼土・炭化物を少量含む)	擂鉢
27	30×29×18	暗黄褐色(同 上)	
28	81×51×26	黄褐色(同 上)	
29	37×34×31	黄褐色(灰色粘土を含む)	
30	50×47×17	黄褐色(焼土・炭化物(竹)を少量含む)	
31	26×23×27	黄褐色(灰色粘土を含む)	
32	50×40×46	1.黄褐色(灰色粘土を含む) 2.褐色 3.褐色(炭化物を含む)	
33	63×48×21	黄褐色(焼土・炭化物を含む)	
34	58×43×21	黄褐色(灰色粘土を含む)	常滑大盤片
35	20×18×44	同 上	

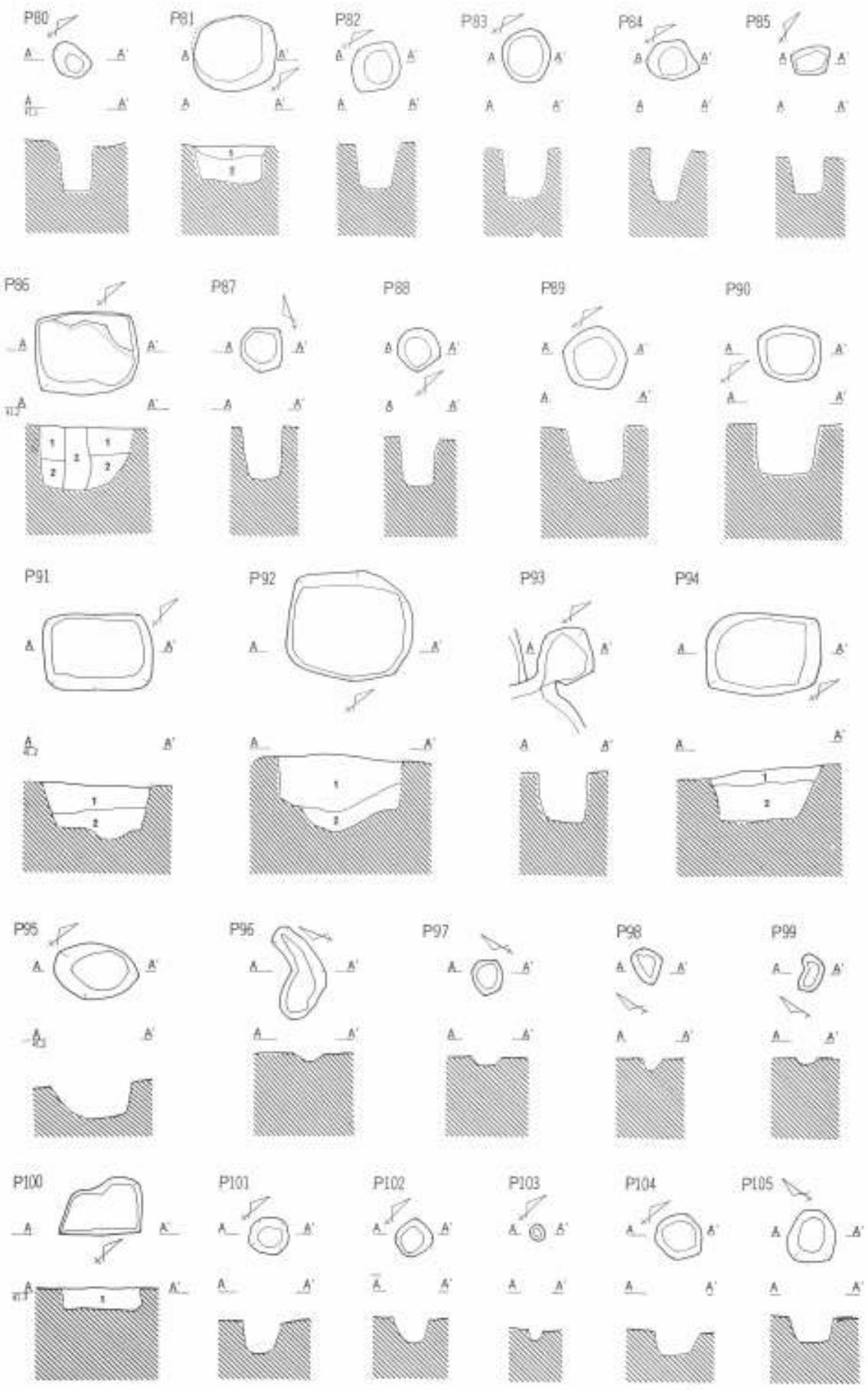
表1 Pit一覧表(1)



第55図 55—79号ピット

Pit No.	規模(長径×短径×深さ)	土 層	遺 物
36	31×20×34	1. 黄褐色(焼土・炭化物を少量含む) 2. 褐色	
37	31×29×30	1. 黄褐色(灰色粘土を含む) 2. 褐色	
38	25×22×26	同 上	
39	30×30×26	黄褐色(灰色粘土を含む)	
40	30×27×31	同 上	
41	37×35×22	同 上	
42	33×30×22	同 上	
43	38×20×18	同 上	
44	60×35×22	黒褐色(焼土・炭化物を含む)	
45	55×40×17	黄褐色(灰色粘土を含む)	
46	32×27×21	同 上	
47	25×23×25	同 上	
48	30×30×20	同 上	
49	24×21×29	同 上	
50	19×18×26	同 上	
51	45×45×42	同 上	
52	36×29×19	1. 黄褐色(灰色粘土を含む) 2. 褐色(1に同じ)	
53	21×20×23	黄褐色(灰色粘土を含む)	
54	54×48×28	黄褐色(灰色粘土含み、焼土・炭化物を少量含む)	
55	36×32×23	1. 黄褐色(灰色粘土を含み、炭化物を少量含む) 2. 暗褐色(灰色粘土・炭化物を含む)	
56	54×33×31	黄褐色(灰色粘土・炭化物を含み、焼土を少量含む)	
57	51×47×43	1. 黄褐色(灰色粘土を含み、炭化物・焼土を少量含む) 2. 褐色(1に同じ)	
58	35×26×27	黄褐色(灰色粘土を含む)	
59	42×28×20	1. 黄褐色(灰色粘土を含む) 2. 褐色	
60	25×20×19	同 上	
61	42×38×21	黄褐色(灰色粘土を含む)	
62	22×22×21	同 上	
63	36×36×32	同 上	
64	52×40×32	黄褐色(灰色粘土・炭化物・焼土を少量含む)	
65	30×25×30	黄褐色(灰色粘土を含む)	
66	30×30×37	同 上	
67	50×50×34	1. 黄褐色(灰色粘土・焼土を含み、炭化物を少量含む) 2. 暗褐色(灰色粘土を含む)	
68	38×35×28	1. 黄褐色(灰色粘土を含み、焼土を少量含む) 2. 暗褐色(灰色粘土を含む)	
69	45×43×34	1. 黄褐色(灰色粘土・炭化物を含む) 2. 暗褐色(灰色粘土を含む)	
70	37×37×27	1. 黄褐色(灰色粘土を含む) 2. 暗褐色(1に同じ)	

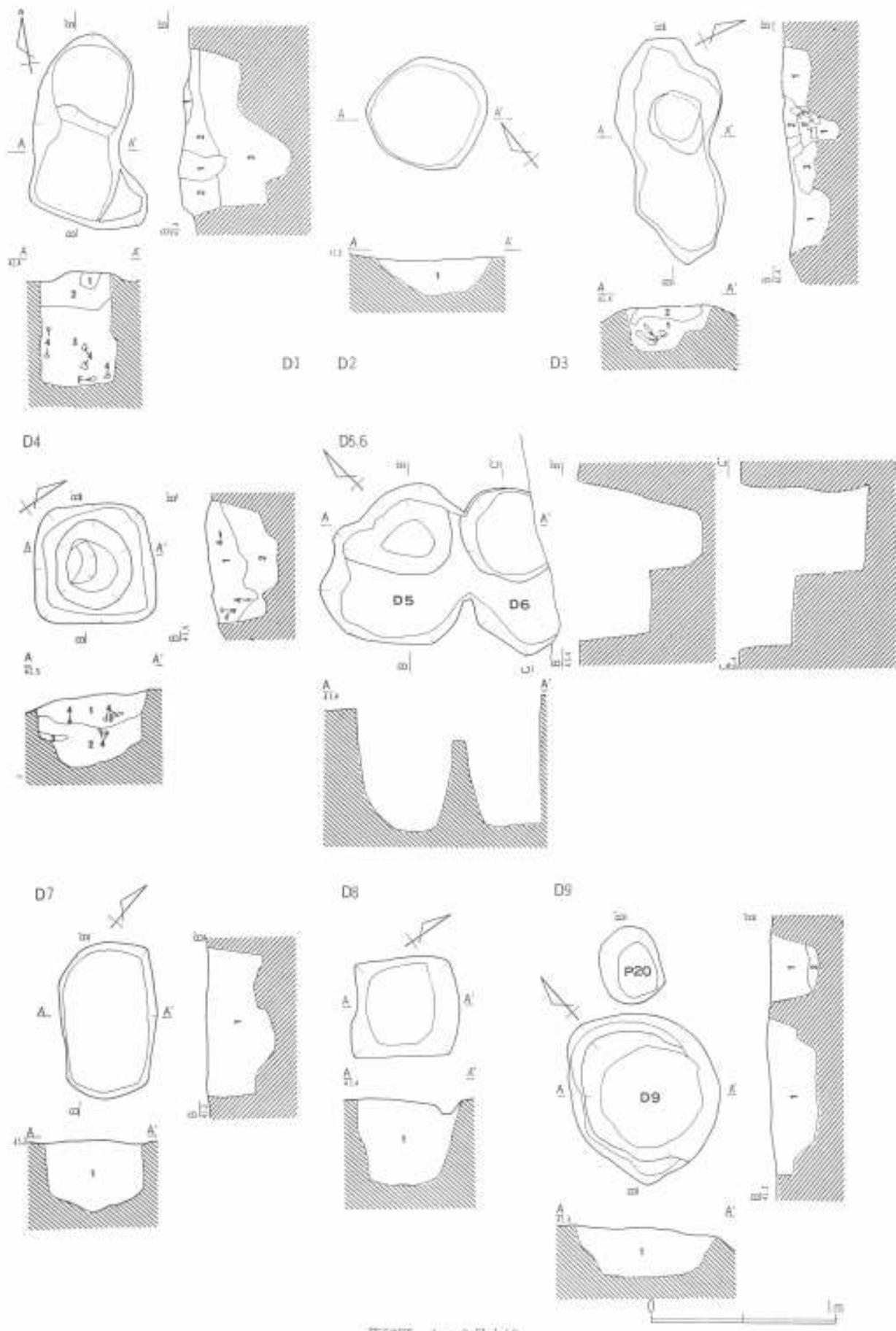
表2 Pit一覧表(2)



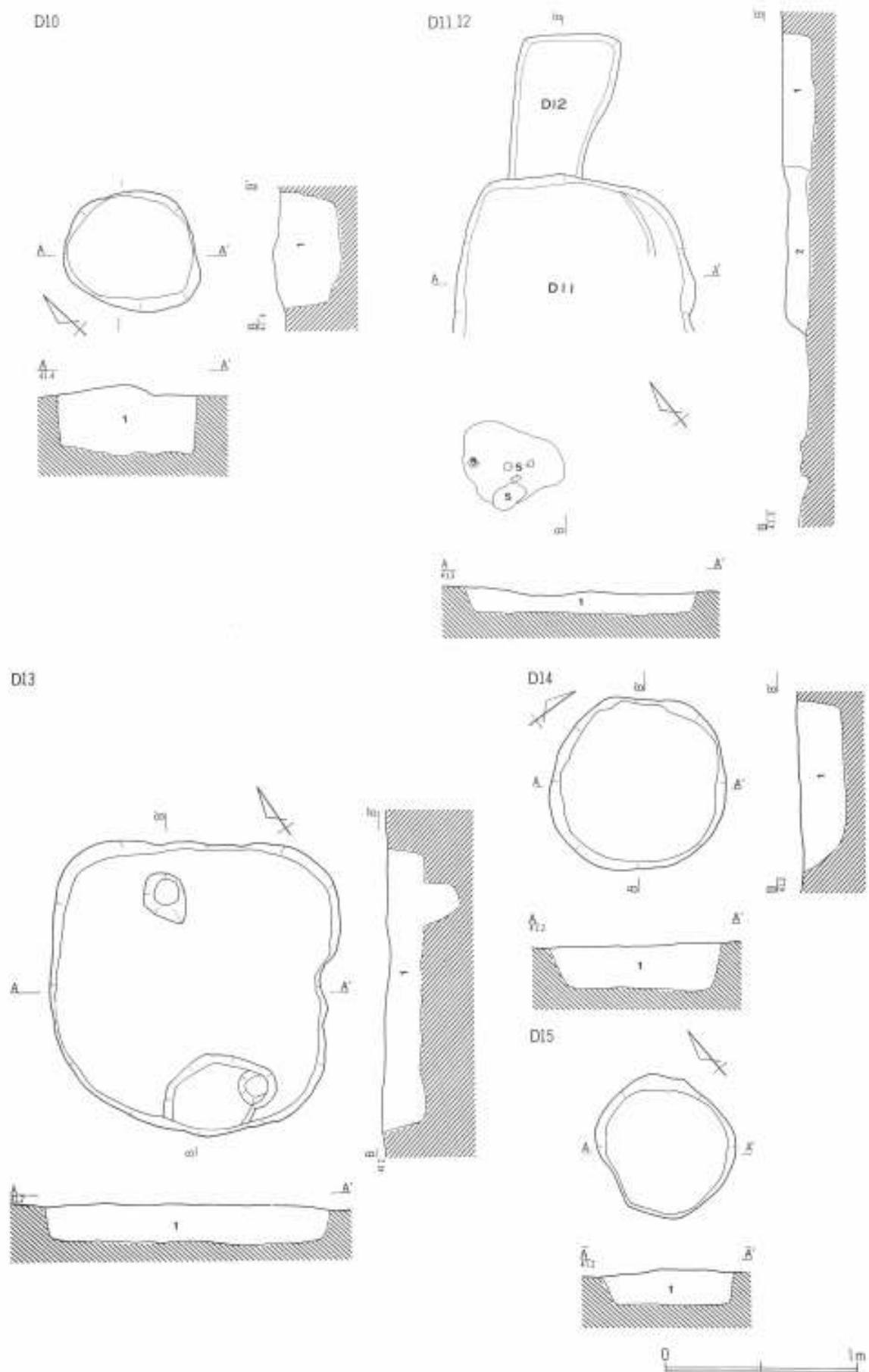
第56図 80~105号ピット

Pit No.	規模(長径×短径×深さ) <sup>(m)</sup>	土 層	遺 物
71	60×55×28	2.黄褐色(灰色粘土を含む) 3.焼土	
72	42×42×28	黄褐色(灰色粘土を含み、炭化物・焼土を少量含む)	
73	20×20×25	黄褐色(灰色粘土を含む)	
74	25×25×33	同 上	
75	75×60×34	1.黄褐色(灰色粘土・炭化物を含む) 2.褐色(1に同じ)	
76	28×28×30	黄褐色(灰色粘土を含む)	
77	18×18×18	同 上	
78	25×25×16	同 上	
79	34×30×23	同 上	
80	20×15×25	同 上	
81	42×38×18	1.黄褐色(灰色粘土を含む) 2.褐色(灰色粘土を含み、炭化物を少量含む)	
82	30×25×23	黄褐色(灰色粘土を含む)	
83	27×26×26	同 上	
84	27×20×27	同 上	
85	19×14×18	同 上	
86	52×47×33	1.黄褐色(灰色粘土を含む) 2.褐色(1に同じ) 3.黄褐色	
87	23×23×26	黄褐色(灰色粘土を含む)	
88	22×22×26	同 上	
89	33×32×29	黄褐色(灰色粘土を含む)	
90	32×29×27	同 上	
91	56×40×28	1.黄褐色(灰色粘土を含み、焼土・炭化物を少量含む) 2.暗褐色(灰色粘土を含む)	
92	65×56×39	1.黄褐色(灰色粘土を含み、炭化物・焼土を少量含む) 2.暗褐色(灰色粘土・炭化物・焼土を少量含む)	標本・かわらけ(64-1, Pit 11のかわらけと接合)
93	30×27×26	黄褐色(灰色粘土を含む)	
94	60×43×26	1.同 上 2.褐色(灰色粘土を含む)	
95	43×29×18	黄褐色(灰色粘土を含む)	
96	48×17×4	同 上	
97	18×16×4	同 上	
98	20×15×7	同 上	
99	20×12×3	同 上	
100	47×30×11	灰褐色	
101	20×20×17	黄褐色(灰色粘土を含む)	
102	18×18×13	同 上	
103	8×7×6	同 上	
104	23×21×13	同 上	
105	26×25×13	同 上	

表3 Pit一覧表(3)

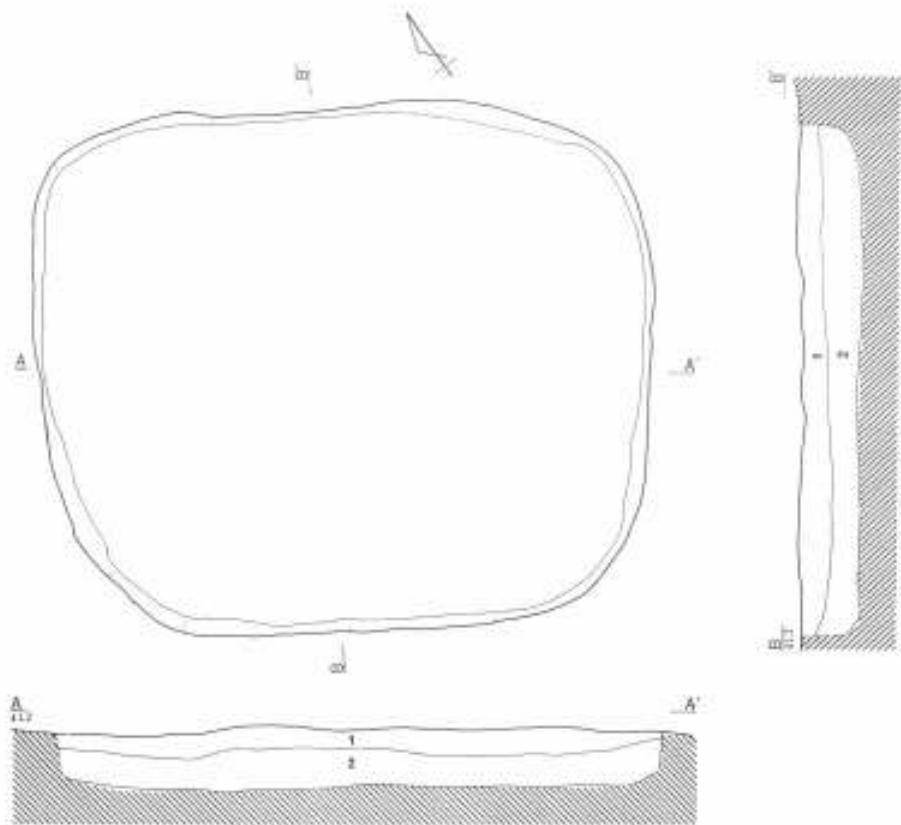


施57區 1~9号土域

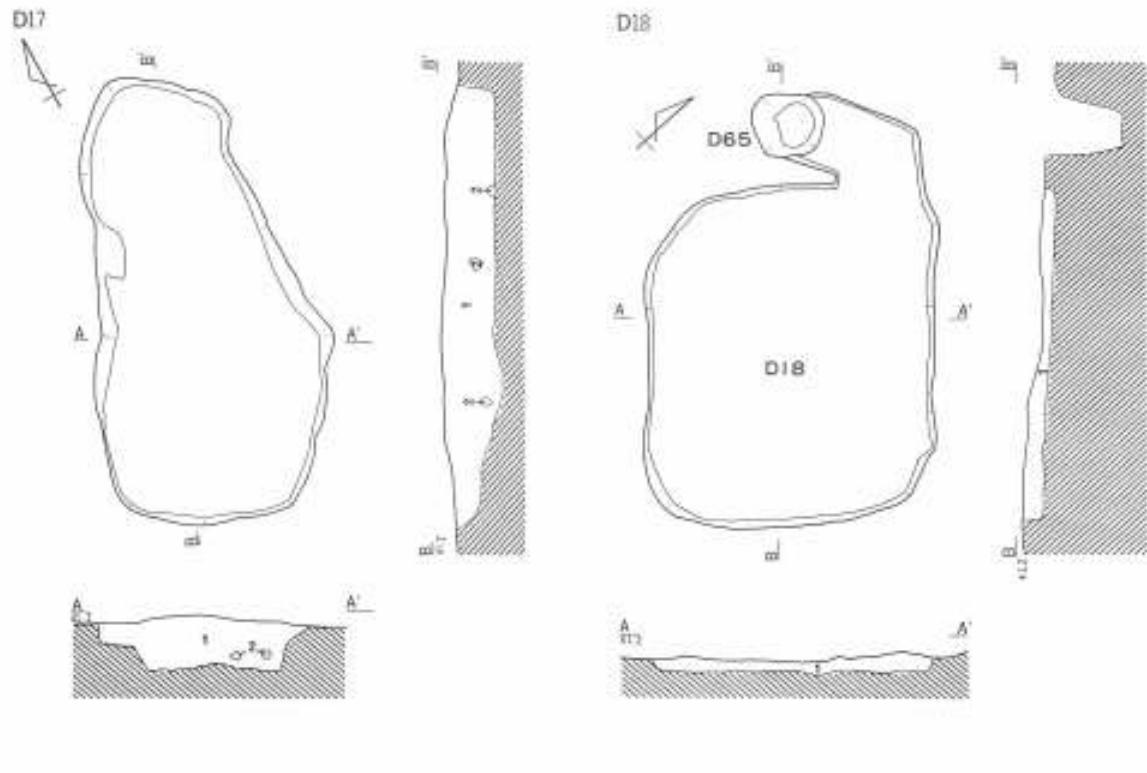


第58図 10~15号土器

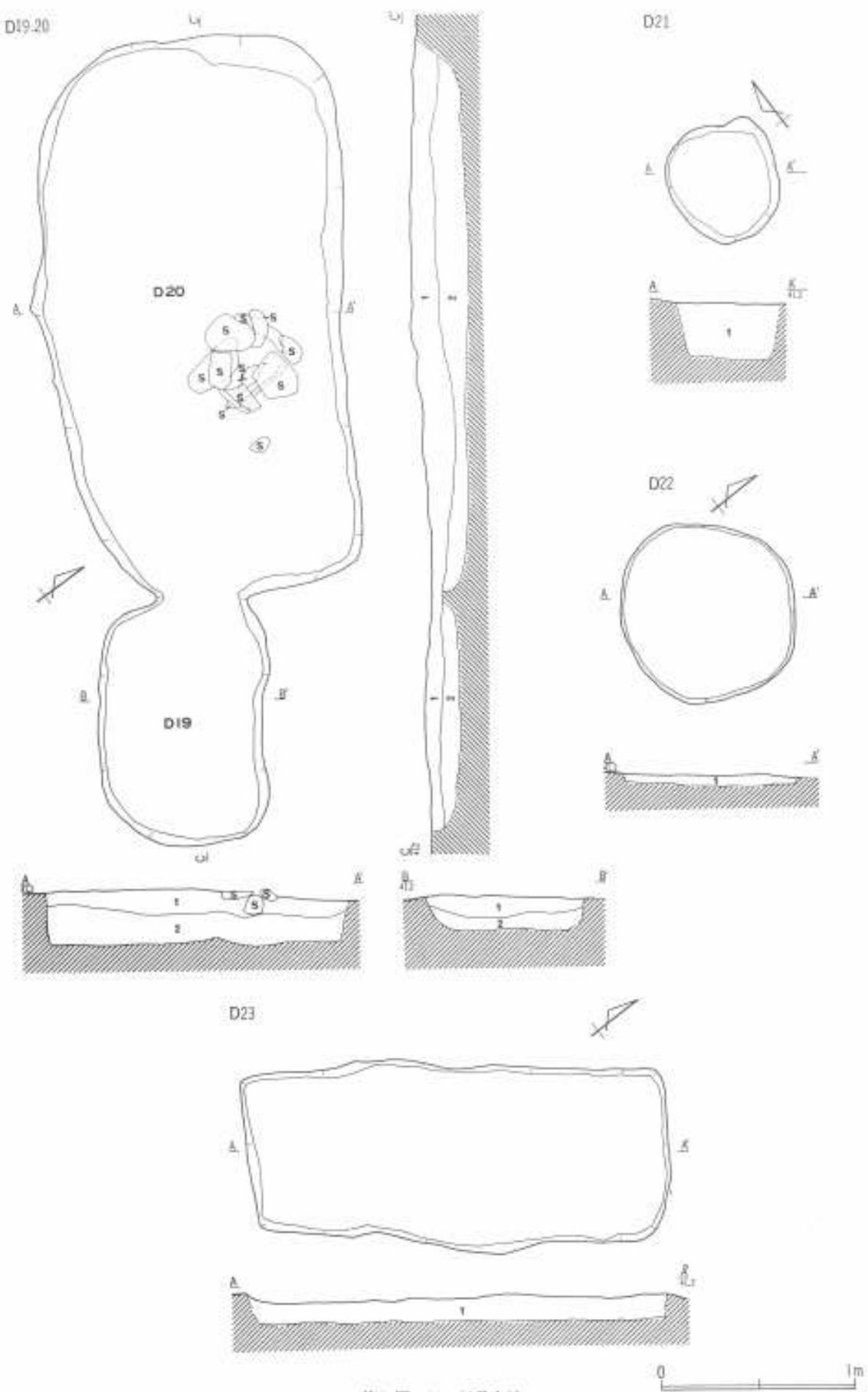
D16



D18

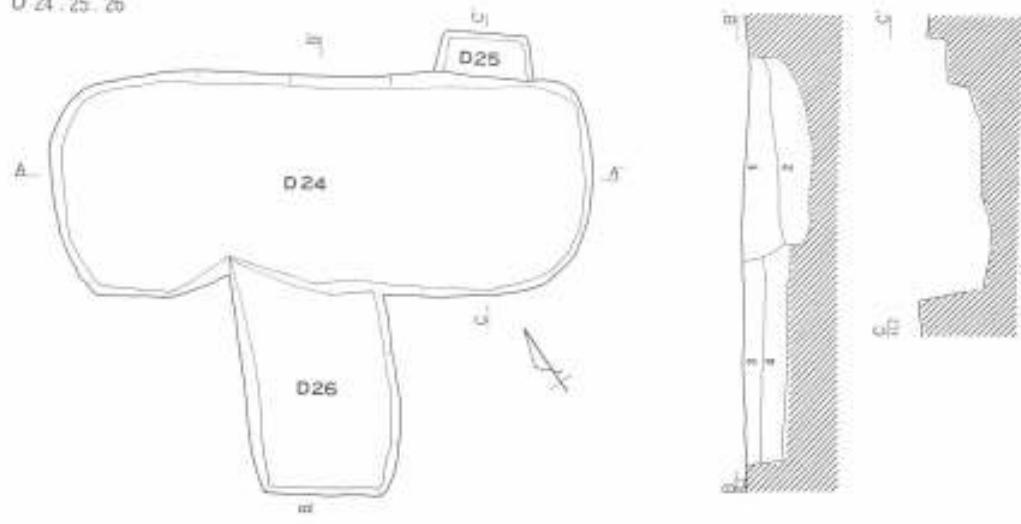


第59图 16~18号土坡

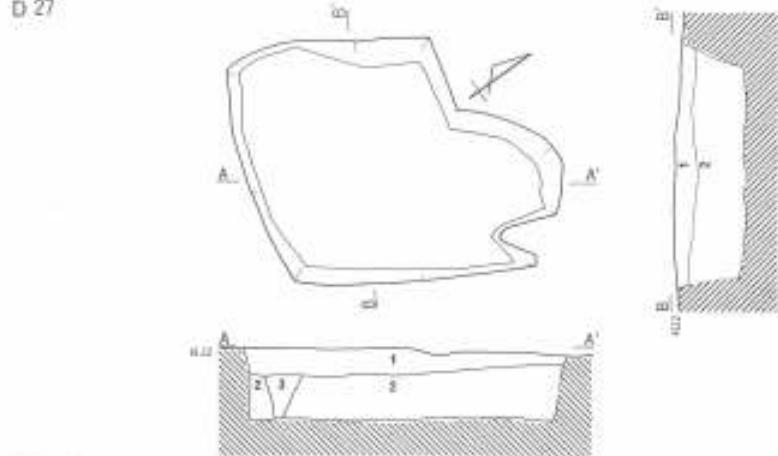


第60図 19~23号土塁

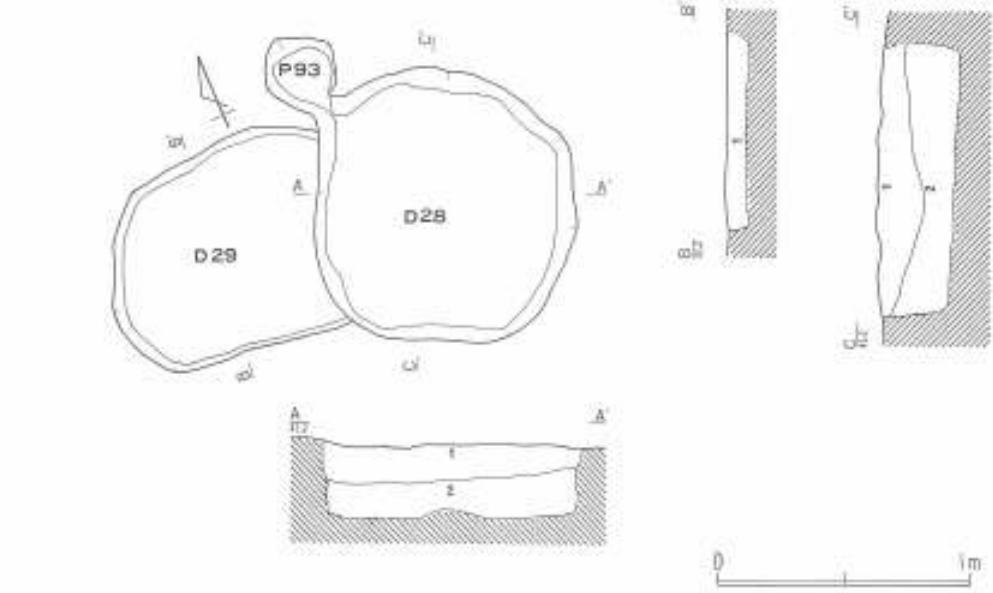
D 24, 25, 26



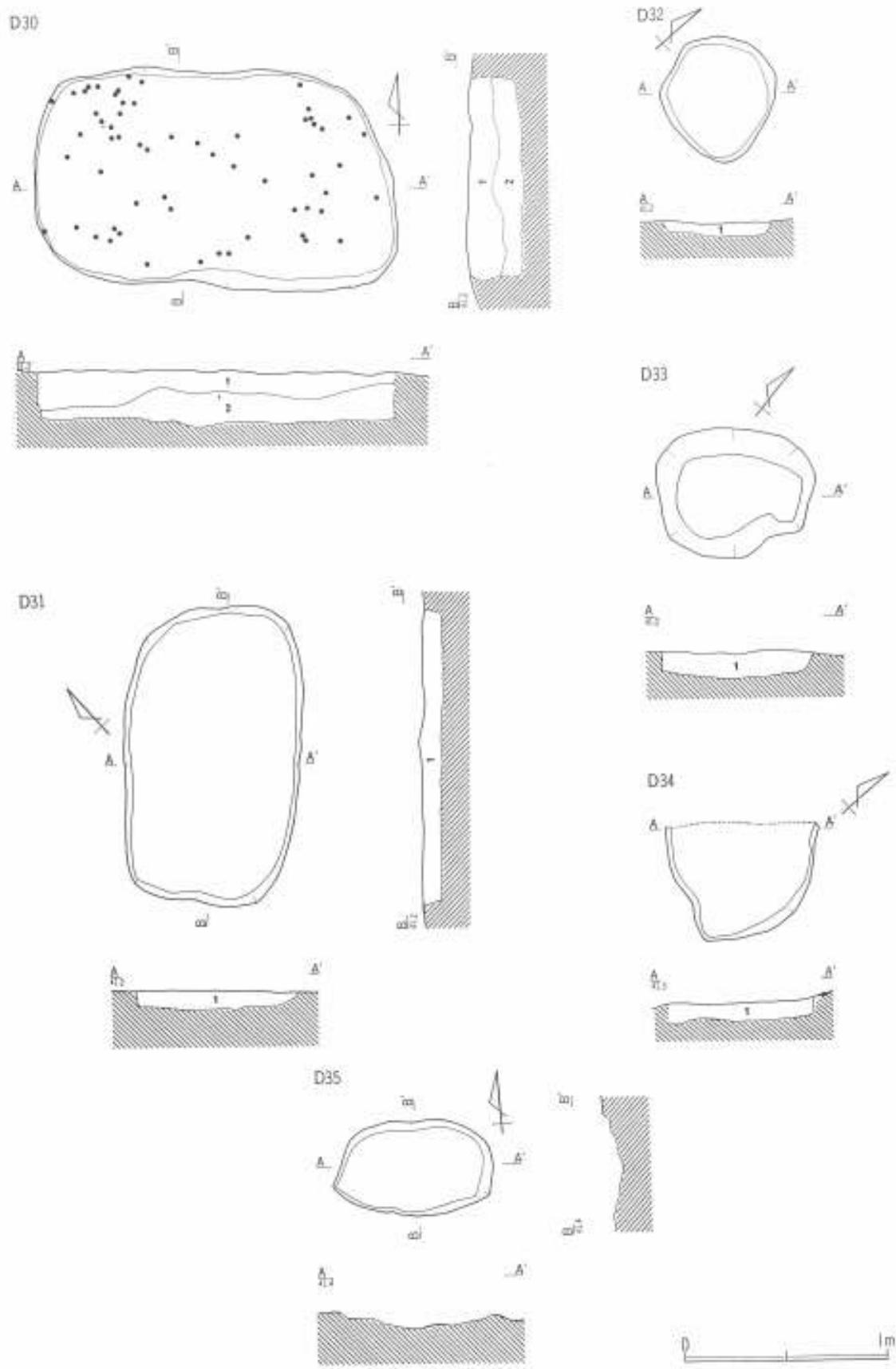
D 27



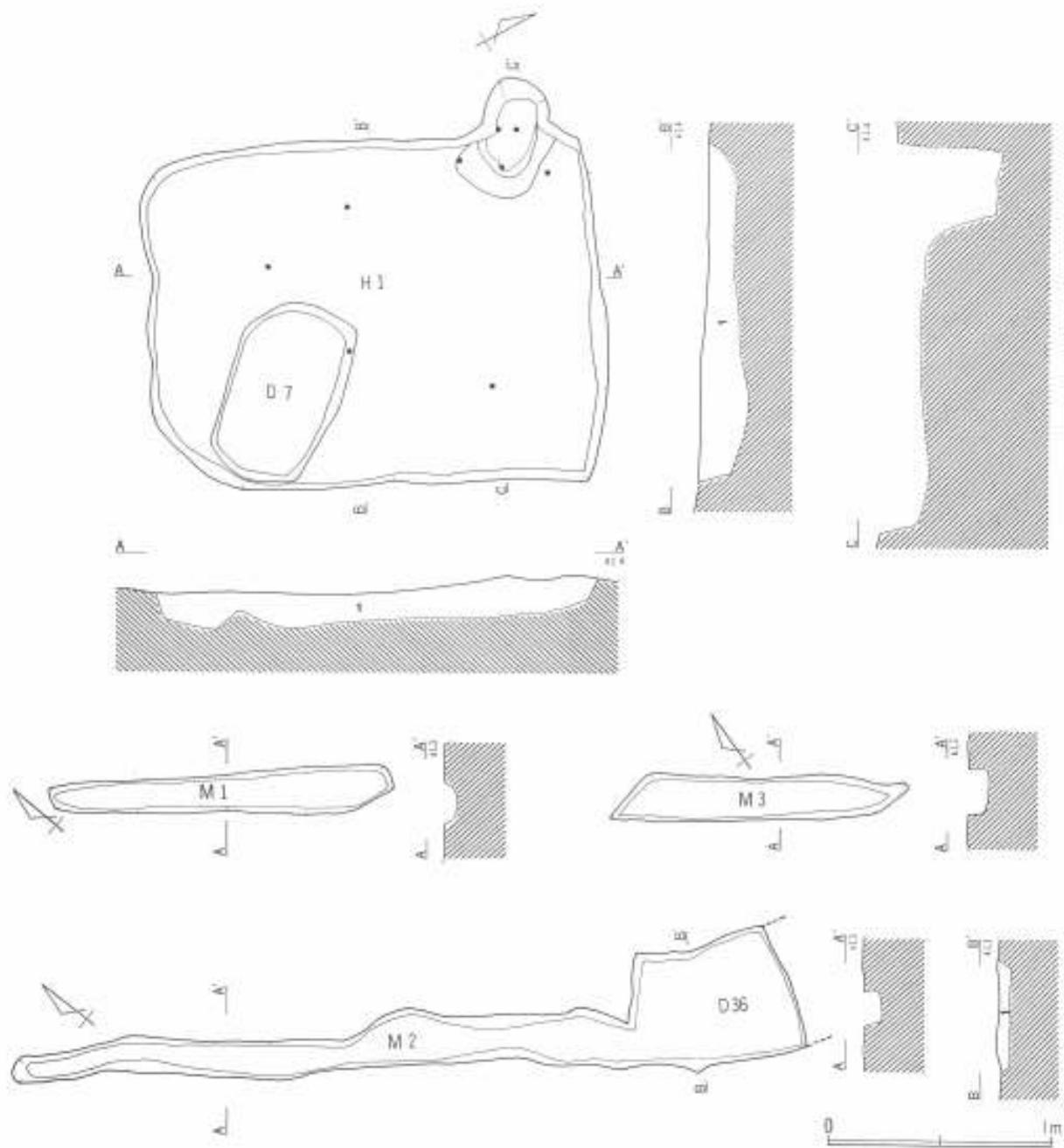
D 28, 29



第61図 24~29号土城



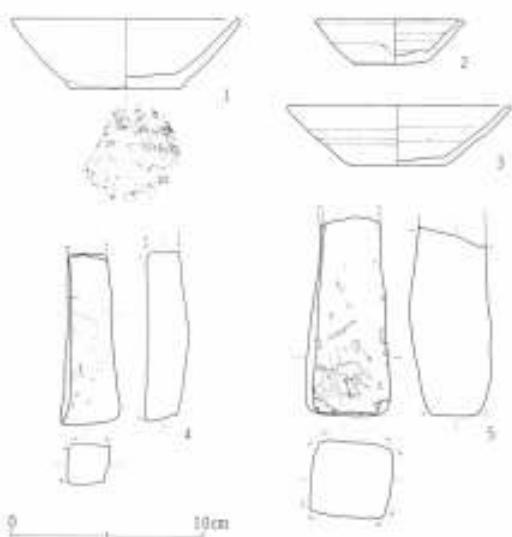
第62圖 30—35號土坑



第63圖 36号土坑・1～3号溝・1号整穴状遺構

土壟No	規模(長辺×短辺×深さ)	土 层	遺 物
1	100×65×62	1.暗褐色(焼土・炭化物を含む) 2.黄褐色 3.褐色	
2	66×61×20	黄褐色(灰色粘土を含む)	
3	122×60×31	1.黄褐色(炭化物・焼土ブロックを含む) 2.暗褐色(炭化物・焼土ブロックを多量に含む) 3.灰褐色	
4	65×65×41	1.黒褐色(焼土ブロック・炭化物を多量に含む) 2.褐色(炭化物・焼土を少量含む) 3.褐色(焼土・炭化物を含む)	竹材
5	87×80×66	黄褐色(灰色粘土を含む)	かわらけ
6	92×45×64	同 上	かわらけ
7	85×52×39	黒褐色(ロームブロック・焼土・炭化物を含む)	素焼窯片・かわらけ
8	55×54×47	黄褐色(炭化物・焼土を含む)	かわらけ
9	95×81×28	黄褐色(灰色粘土を含む)	
10	70×60×37	黄褐色(灰色粘土・焼土・炭化物を含む)	
11	125×85×13	黄褐色(灰色粘土を含む)	
12	75×53×17	同 上	
13	150×143×39	同 上	
14	96×91×25	黄褐色(灰色粘土を含み、炭化物を少量含む)	
15	77×70×18	黒褐色(焼土・炭化物を含む)	
16	240×205×25	1.黄褐色(灰色粘土を含み、焼土・炭化物を少量含む) 2.褐色(1に同じ)	
17	175×94×25	黄褐色(灰色粘土を含み、焼土・炭化物を少量含む)	かわらけ
18	135×115×9	同 上	
19	127×87×18	1.同 上 2.褐色(同上)	
20	283×160×30	19に同じ	人骨
21	63×58×30	黄褐色(灰色粘土を含む)	
22	93×93×7	同 上	
23	219×97×14	同 上	
24	212×87×29	1.黄褐色(灰色粘土・炭化物を含み、焼土を少量含む) 2.暗褐色(灰色粘土・炭化物を含む)	
25	40×17×8	黄褐色(灰色粘土を含む)	
26	93×60×18	3.黄褐色(灰色粘土を含み、炭化物を少量含む) 4.褐色(灰色粘土を含む)	當滑片・かわらけ
27	128×97×29	1.黄褐色(灰色粘土を含む) 2.褐色 3.暗褐色	
28	108×103×32	1.黄褐色(灰色粘土を含む) 2.褐色(1に同じ)	
29	85×84×10	黄褐色(灰色粘土を含む)	内耳土器・かわらけ
30	178×108×30	1.黄褐色(灰色粘土を含み、焼土・炭化物を少量含む) 2.暗褐色(1に同じ)	
31	150×86×13	黄褐色(灰色粘土を含み、焼土を少量含む)	
32	62×58×8	黄褐色(灰色粘土を含む)	
33	80×64×14	黒褐色(焼土・炭化物(竹)を含む)	
34	76×57×6	黄褐色(灰色粘土を含む)	
35	79×47×9	同 上	
36	80×60×7	灰褐色	

表4 土壙一覧表



第64図 I区出土遺物

1号駁穴状遺構(第63図、図版8—2・13)

位 置 本遺構は、調査区の東端に検出され、E—5・6区に検出され、7号土壌と複合していた。

平面形は、長方形を呈し、北西隅に張出し部を有する。

土層は、暗褐色土が堆積していた。

規 模 北辺1.56m、東辺2.03m、深さ0.22m、張出し部—南北方向0.29m・東西方向0.45m・深さ0.47m。

遺 物 土器片8点。

1号溝跡(第63図)

位 置 本溝跡は、調査区の北側に位置し、C—9・D—8・9区にかけて検出された。

概 要 上層は、灰褐色土が堆積していた。

規 模 上幅0.22m、下幅0.16m、深さ5cm。

遺 物 なし。

2号溝跡(第63図)

位 置 本溝跡は、1号溝跡の北東に、平行して検出され、D—8・9区に位置していた。

概 要 上層は、灰褐色土が堆積していた。

規 模 上幅0.26m、下幅0.21m、深さ8cm。

遺 物 なし。

3号溝跡(第63図)

位 置 本溝跡は、調査区のはば中央に位置し、C—6・D—6区にかけて検出された。

概 要 上層は、灰褐色土が堆積していた。

規 模 上幅0.21m、下幅0.17m、深さ9cm。

遺 物 なし。

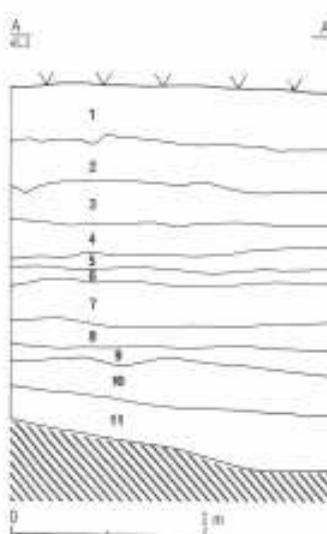
I区出土遺物(第64図、図版12)

1—かわらけ。口径12cm、底径5.4cm、器高3.8cm。中粒砂を含み、淡黄褐色、暗灰褐色。底部内面は指ナデ、外面は回転糸切り。土残存。11号ピットと92号ピットの破片が接合した。

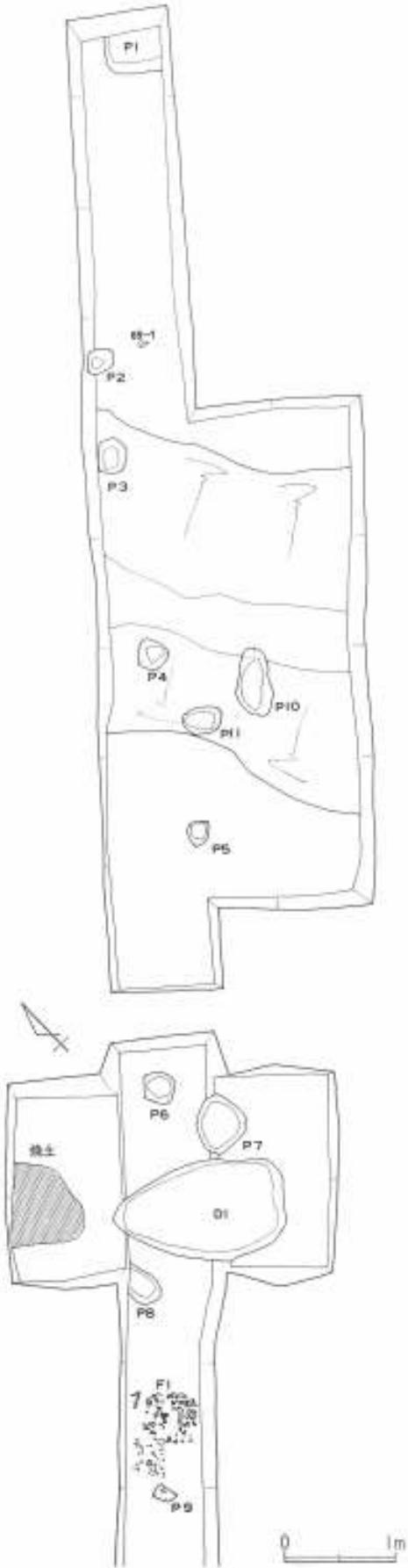
2—かわらけ。口径7.9cm、底径3.9cm、器高2.4cm。中粒砂含み、黒褐色。黒色、底部内面は指ナデ、外面は桙目痕を有する。土残存。

3—かわらけ。口径11.9cm、底径5cm、器高3.2cm。粗・中粒砂含み、淡褐色。底部内面は指ナデ、外面は回転糸切り→桙目痕。9号ピット出土。

4—磁石。残存長9cm、幅3.1cm、厚さ2.1cm。



第65図 3トレンチ土層断面図



第66図 4トレンチ遺構平面図

ひん岩。19号ピット出土。

5一砾石。残存長10.5cm、幅4.3cm、厚さ4.2cm。

ひん岩。表面に刃物の痕跡を残す。

#### (2)3トレンチ(第50・65図)

3トレンチは、I区の南東に設定したが、遺構は検出されなかった。

土層は、地山の礫層が、A-B'の面では、南西へ低くなっていた。

1層は、耕作土(褐色土で、火山灰を含む)、2層は褐色土(火山灰含む)、3層は灰褐色土(酸化鉄含む)、4層は灰褐色土(3層より灰色っぽく、酸化鉄含む)、5層は黄褐色土(酸化鉄多く含む)、6層は黒褐色土(焼土・炭化物・酸化鉄を含む)、7層は黒褐色土(酸化鉄含む)、8層は灰褐色土(酸化鉄含む)、9層は茶褐色土(酸化鉄含む)、10層はシルト(明褐色)、11層はシルト(10層より暗い明褐色)、12層は褐色土(φ1~3mmの砂を含む)、13層は砂礫層(φ0.5mm~φ3cmの砂礫を含む)、14層はシルト(黄褐色)、15層は砂層(φ1mmの砂に、φ1cmの礫を少し含む)、16層はシルト(灰褐色で、酸化鉄含む)であった。

#### (3)4トレンチ(第66図)

4トレンチは、3トレンチの東側に設定し、遺構が多く検出されたので、部分的に拡張した。

##### 1号土塁(第67図、図版8-3・4・12)

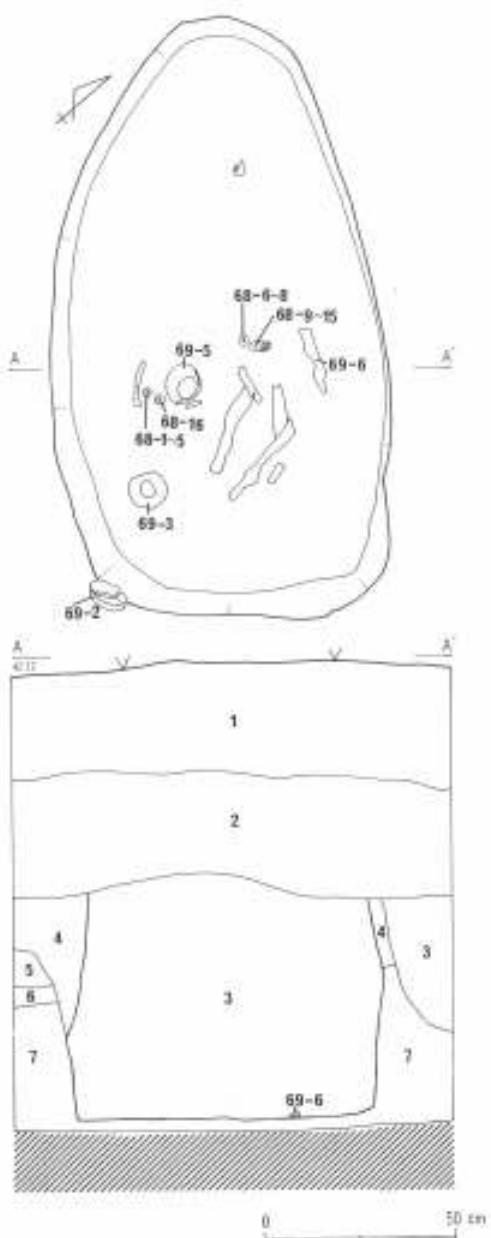
**位 置** 本土塁は、4トレンチのほぼ中央に検出され、東西両側を拡張して調査を実施した。

平面形は、舟形を呈し、長軸はN-50°-Wを示す。掘り方は、深く、袋状を呈す。

土層は、1層が耕作土(褐色土で、火山灰を含む)、2層は褐色土、3層は黄褐色土(酸化鉄、灰褐色土を含む)、4層は灰褐色土(酸化鉄・灰褐色土を多く含む)、5層は灰褐色土、6層は暗褐色土(酸化鉄を多く含む)、7層は暗褐色土であった。

**規 模** 長軸1.57m、短軸一上端0.73m・下端0.77m、深さ0.59m。

**遺 物** かわらけ3点、古銭17枚、鉄製刀子1点、人骨が検出された。



第67図 1号土塚

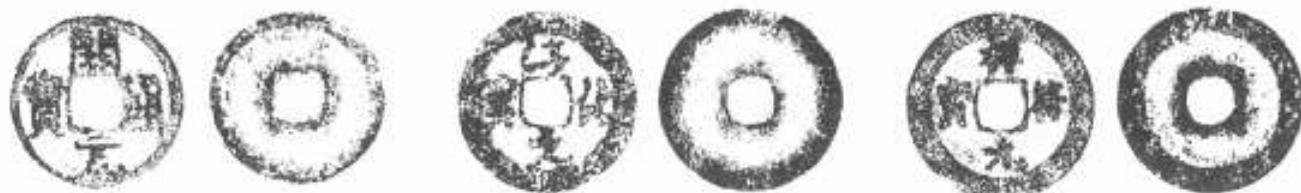
- 68-1 古銭。開元通宝。直径 2.3 cm。銅銭。
- 68-2 古銭。淳化元宝。直径 2.4 cm。銅銭。
- 68-3 古銭。祥符元宝。直径 2.45 cm。銅銭。
- 68-4 古銭。元豐通宝。直径 2.35 cm。篆書体。銅銭。
- 68-5 古銭。洪武通宝。直径 2.3 cm。銅銭。
- 68-6 古銭。熙寧元宝。直径 2.4 cm。真書体。銅銭。
- 68-7 古銭。洪武通宝。直径 2.3 cm。銅銭。

- 68-8 古銭。永樂通宝。直径 2.45 cm。銅銭。
  - 68-9 古銭。天聖元宝。直径 2.4 cm。篆書体。銅銭。
  - 68-10 古銭。元豐通宝。直径 2.35 cm。篆書体。銅銭。
  - 68-11 古銭。聖宋元宝。直径 2.4 cm。真書体。銅銭。
  - 68-12 古銭。元豐通宝。直径 2.4 cm。真書体。銅銭。
  - 68-13 古銭。不明。直径 2.3 cm。銅銭。
  - 68-14 古銭。熙寧元宝。直径 2.35 cm。真書体。銅銭。
  - 68-15 古銭。元豐通宝。直径 2.4 cm。真書体。銅銭。
  - 68-16 古銭。永樂通宝。直径 2.4 cm。銅銭。
- ※67-9～15の位置には、図示しなかったが、名称の不明な古銭がもう1枚あり、1号土塚からは合計で17枚の古銭が出土した。
- 69-2 かわらけ。口径 11.2 cm、底径 6.8 cm、器高 2.6 cm。粗・中粒砂を含み、淡褐色・黒色。底部は回転糸切り。口部残存。
  - 69-3 かわらけ。口径 10.2 cm、底径 5.2 cm、器高 2.8 cm。粗・中粒砂を含み、淡褐色。口縁はタール付着。底部内面は指ナデ痕、外面は回転糸切り→絹目痕。口部残存。
  - 69-5 かわらけ。口径 10 cm、底径 4.4 cm、器高 3.5 cm。中粒砂を含み、淡黄褐色・黒色。底部内面は指ナデ痕、外面は回転糸切り、口部残存。
  - 69-6 刀子。残存長 16.1 cm、幅 1.5 cm。鉄製。

#### 1号火葬墓（第70図）

**位 置** 本火葬墓は、1号土塚の南西 1.2 m に検出されたが、火葬墓の東側のみ調査を行つただけである。

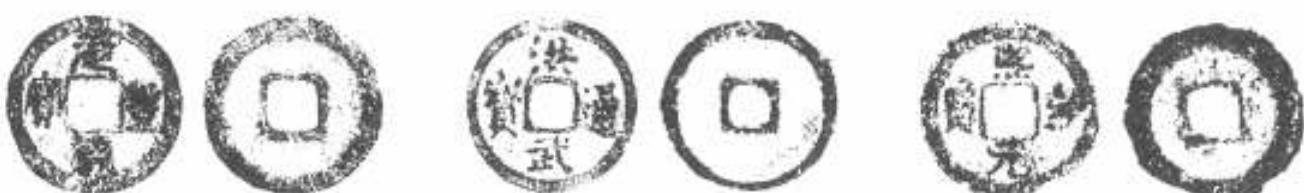
**概 要** 土層は、1層が耕作土、2層が褐色土、3層が褐色土（炭化物を少し含む）、4層が褐色土（炭化物を含む）、5層が褐色土（炭化物、焼土を多く含み、人骨も含む）、6層が



1

2

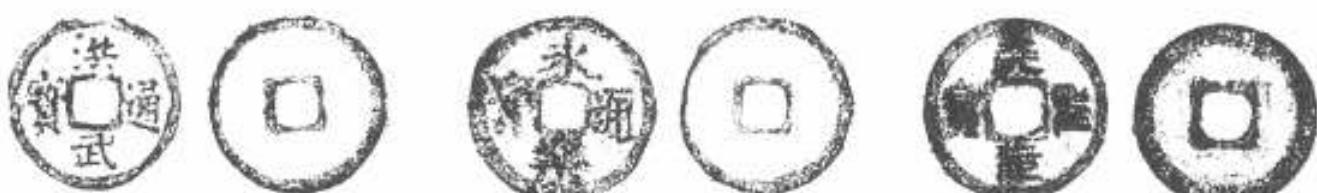
3



4

5

6



7

8

9



10

11

12



13

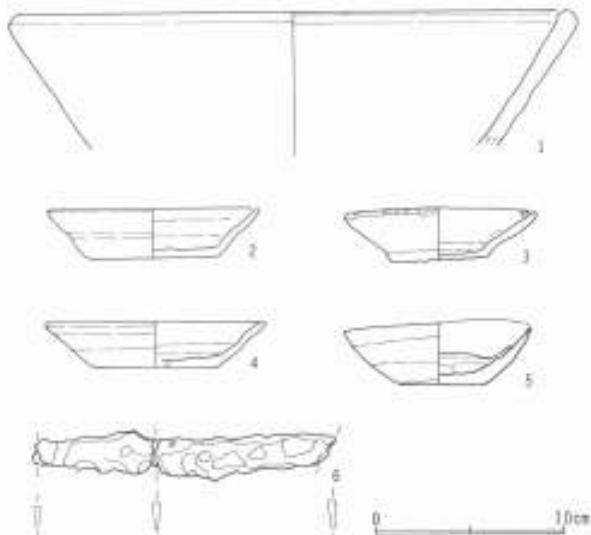
14

15

16

A scale bar indicating a length of 2 cm.

第68図 1号土坑出土遺物



第69図 4・8トレンチ出土遺物

灰褐色土（酸化鉄、少しの炭化物を含む）、  
7層が褐色土、8層が暗灰褐色土（酸化鉄を含む）、9層が灰褐色土（酸化鉄を含む）、  
10層が暗褐色土（酸化鉄を多く含む）、11層  
が暗褐色土であった。

規 模 A-A'断面の長さ0.9m、B-B'断面の長  
さ0.65m、深さ0.24cm。

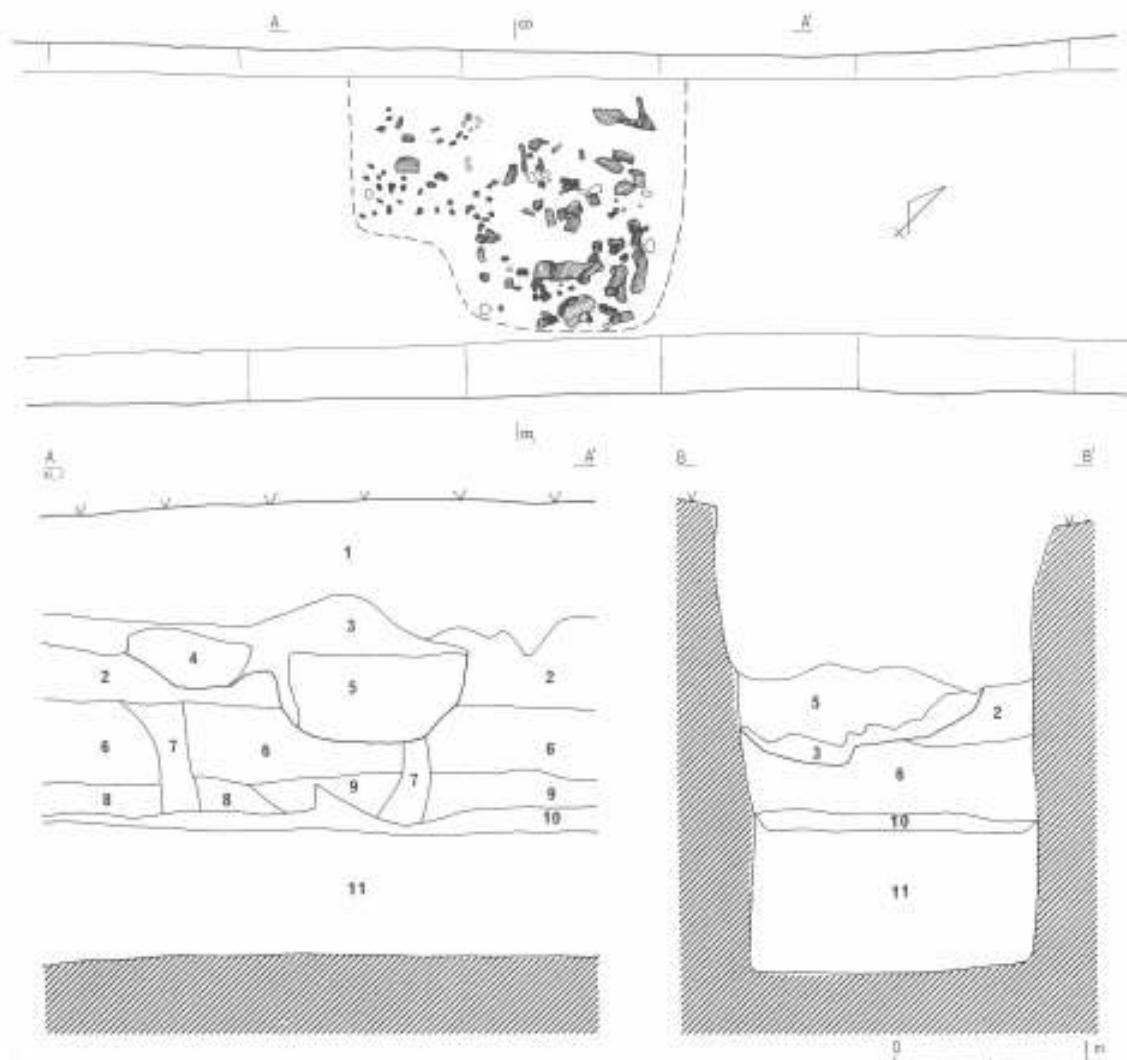
遺 物 人骨片。

#### 1号ピット（第71図）

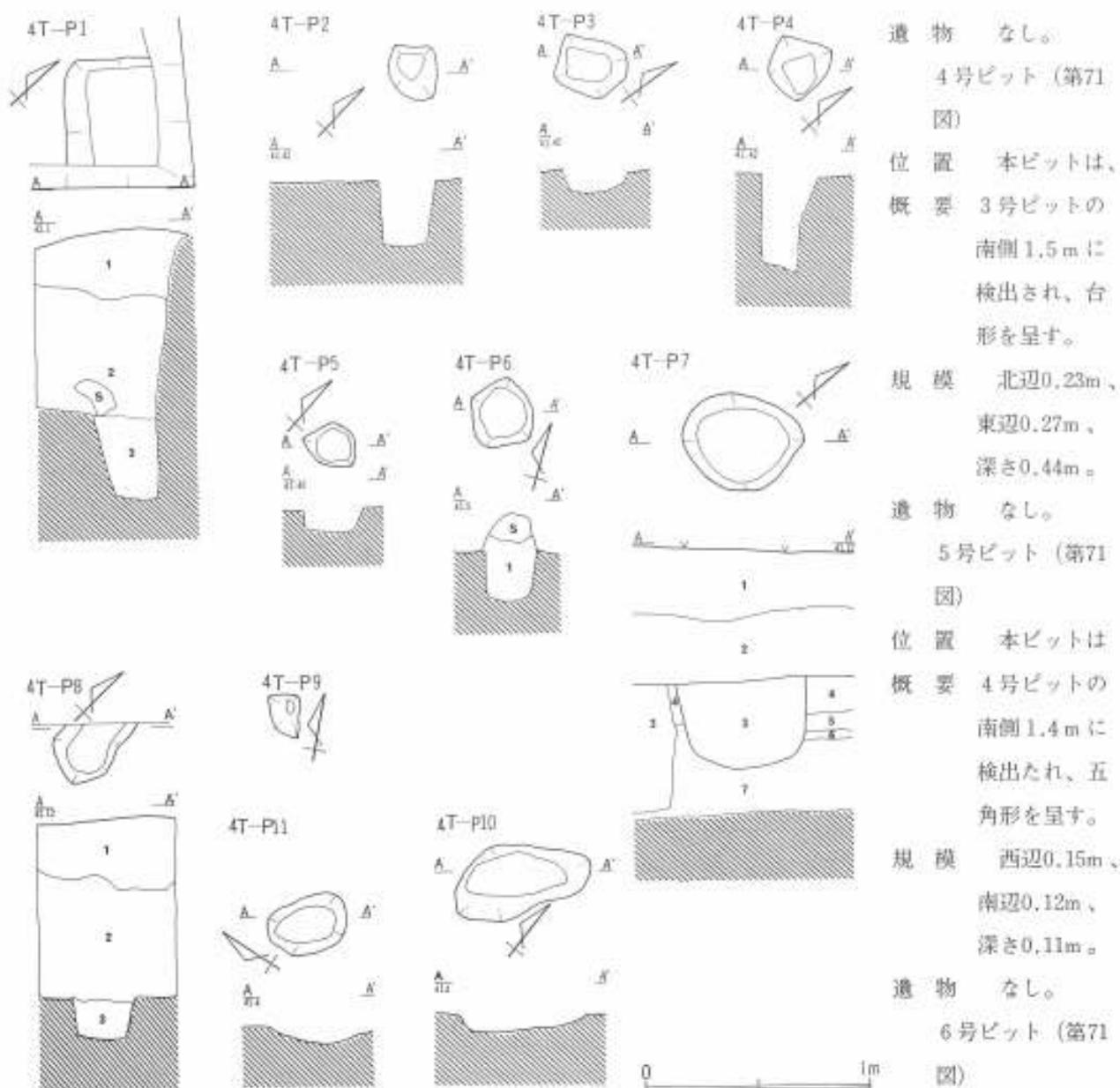
位 置 本ピットは、4トレンチの北端に検出され、  
概 要 西側部分のみ調査を実施した。

平面形は、方形を呈すると考えられる。

土層は、1層が耕作土（褐色土）、2層が  
褐色土、3層が黄褐色土であった。



第70図 1号大墓



第71図 1~11号ピット

規模 北西辺0.34m、南西辺0.46m、深さ0.37cm。

遺物 なし。

#### 2号ピット(第71図)

位置 本ピットは、1号ピットの南西2.5mに検出された。

概要 平面形は、不整方形を呈す。

規模 北西辺0.15m、深さ0.3m。

遺物 なし。

#### 3号ピット(第71図)

位置 本ピットは、2号ピットの南西0.6mに検出された。

概要 平面形は、五角形を呈す。

規模 北辺0.27m、東辺0.2m、深さ0.1m。

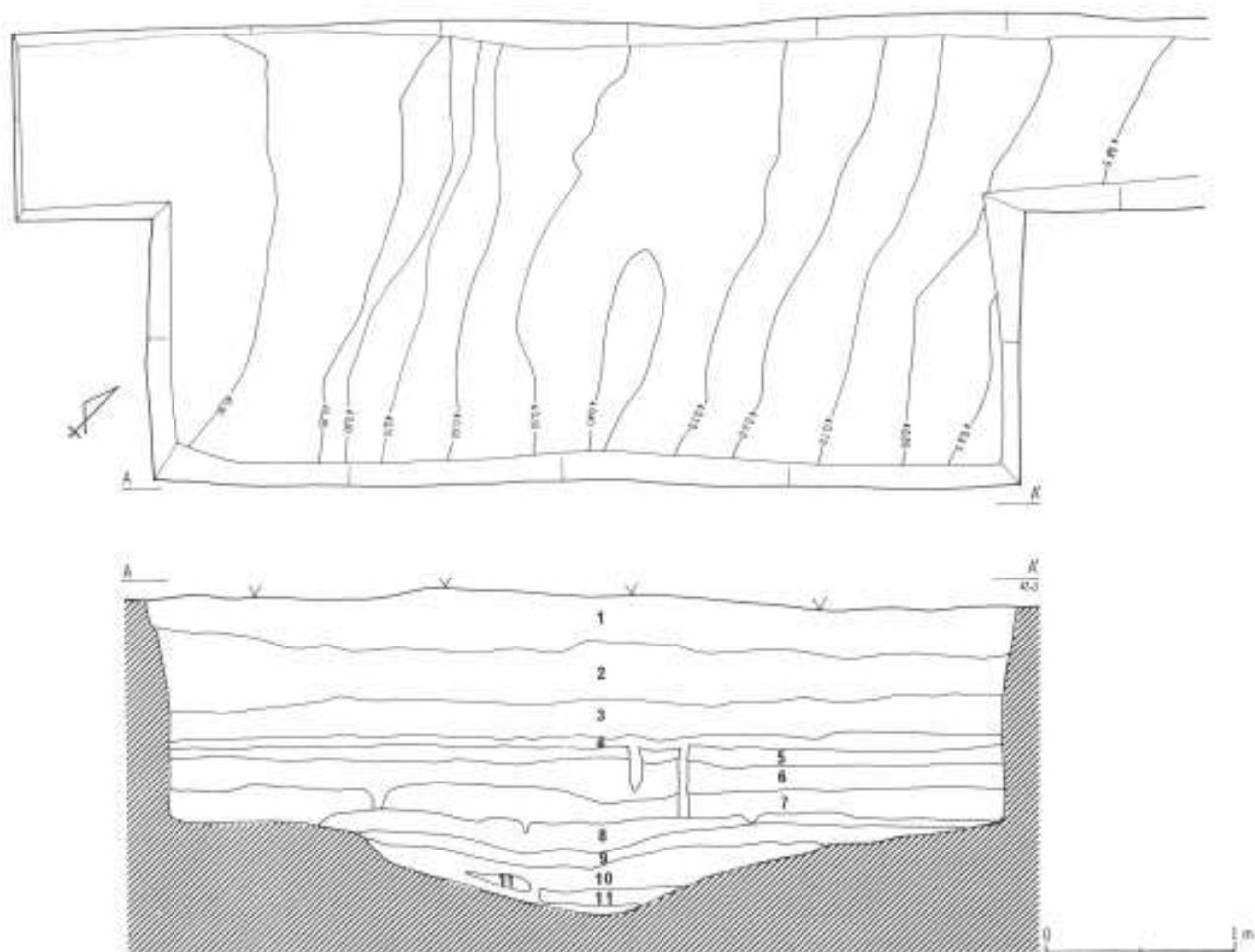
規模 北西辺0.19m、南西辺0.23m、深さ0.23m。

遺物 なし。

#### 7号ピット(第71図)

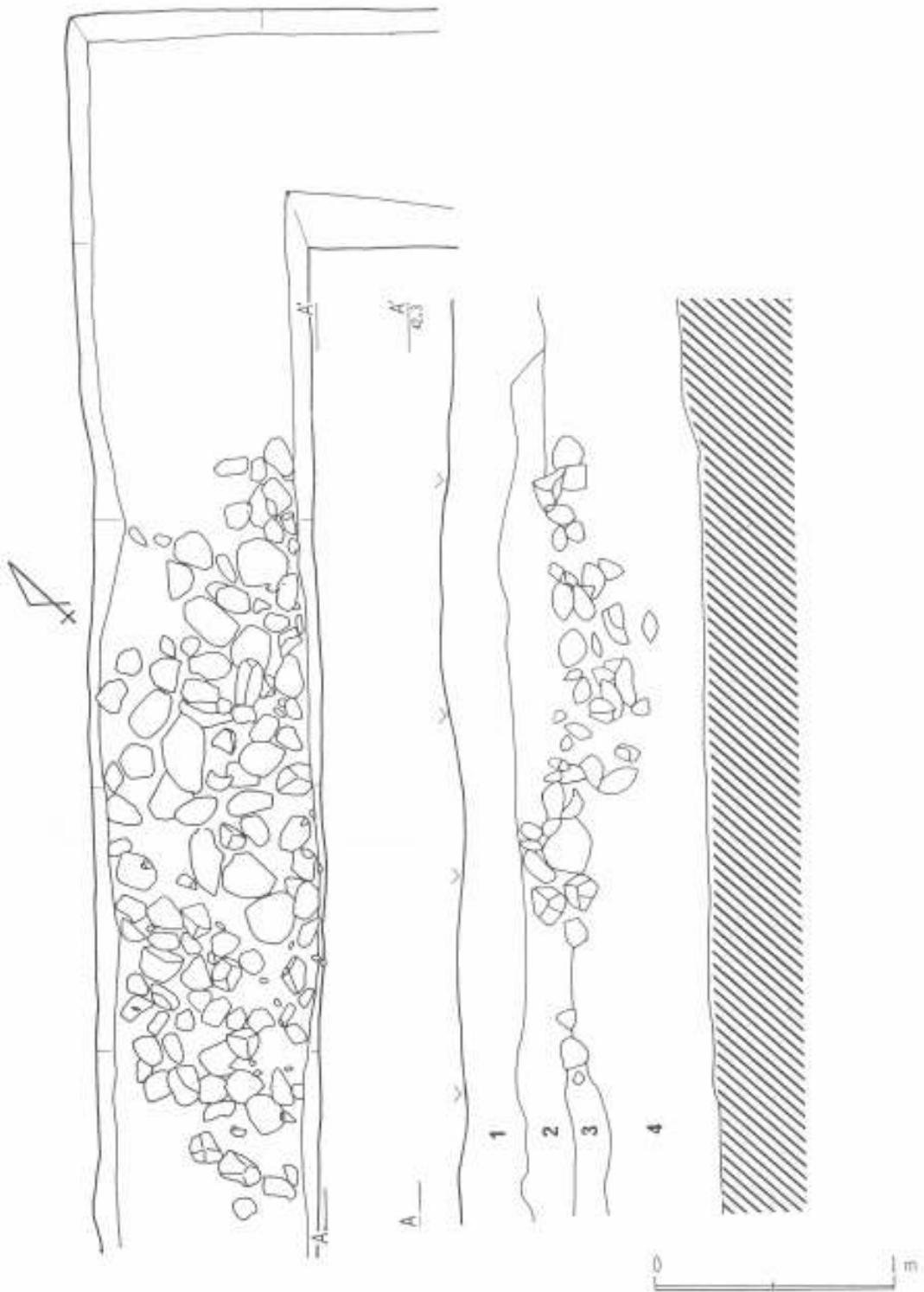
位置 本ピットは、6号ピットの南0.3mに検出され、椭円形を呈す。

概要 土層は、1層が耕作土、2層が褐色土、3層が黄褐色土(酸化鉄・灰褐色土含む)、4層が黄褐色土(酸化鉄、多くの灰褐色土を含む)、5層が灰黄褐色土、6層が暗褐色土(酸化鉄多く含む)、7層が暗褐色土であった。



第72図 窪地跡

- |               |  |               |  |
|---------------|--|---------------|--|
| 規 模           | 長軸0.54m、短軸0.43m、深さ0.41m。   | 概 要           | され、長椭円形を呈す。  |
| 遺 物           | なし。  | 規 模           | 長軸。  |
| 8号ピット (第71図)  |  | 遺 物           | なし。  |
| 位 置           | 本ピットは、7号ピットの西側1.2mに検出され、椭円形を呈すると考えられる。土層は、1層が耕作土、2層が褐色土、3層が黄褐色土であった。 | 11号ピット (第71図) | 本ピットは、10号ピットの西側20cmに検出され、椭円形を呈す。   |
| 概 要           |  | 規 模           | 長軸。  |
| 規 模           | 東西方向0.27m、深さ0.19m。   | 遺 物           | なし。  |
| 遺 物           | なし。  | 窪地跡 (第72図)    |  |
| 9号ピット (第71図)  |  | 位 置           | 本窪地跡は、4トレンチの北側に検出され、主軸はS-30°-Eを示す。   |
| 位 置           | 本ピットは、8号ピットの南側1.6mに検出され、台形を呈す。                                       | 概 要           | 土層は、1層が耕作土、2層が褐色土、3層が灰褐色土（酸化鉄含む）、4層が灰褐色土（酸化鉄多く含む）、5層が黒褐色土（酸化鉄・焼土・炭化物を含む）、6層が黒褐色土（約1~3mmの砂を含む）、7層が明褐色 |
| 規 模           | 北辺0.13m、東辺0.19m。   |               |  |
| 遺 物           | なし。  |               |  |
| 10号ピット (第71図) |  |               |  |
| 位 置           | 本ピットは、9号ピットの北東7mに検出  |               |  |



第73図 5トレンチ集石遺構

( $\phi$  1~5 mmの砂礫を含む)、8層が褐色土 遺物 なし。

( $\phi$  2~5 mmの砂礫、灰褐色土、酸化鉄を含む)、9層が暗褐色土 ( $\phi$  2~5 mmの砂礫、灰褐色土・酸化鉄を含む)、10層が褐色土(灰褐色土・酸化鉄・細砂を含む)、11層が砂層 ( $\phi$  0.5~2 mm) であった。

規 模 上幅3.16m、深さ0.48m。

4トレンチ出土遺物(第69図、図版8-3・4・12)

1一擂鉢。口径30.1cm、残存高7.2cm。細礫・粗・中粒砂含み、暗淡褐色。口縁の旨残存。

(4) 5トレンチ(第73図)

5トレンチは、4トレンチの南東約30mに設定し、北側に1号集石遺構が検出された。

### 1号集石遺構（第73図）

位置 本遺構は、5トレンチの北側に検出され、

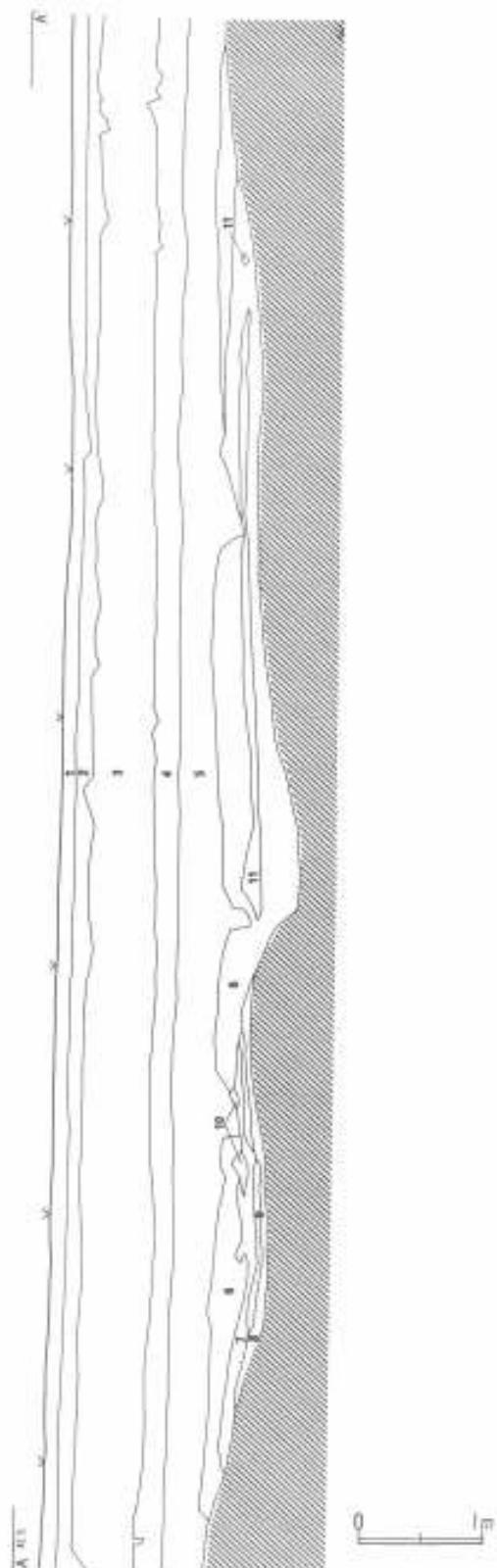
概要 直径10~30cmの川原石が集積されていた。

土層は、1層が耕作土、2層は褐色土、3

層は灰褐色土（酸化鉄を含む）、4層は暗褐色土であった。

規模 長軸3.2m、厚さ0.45m。

遺物 なし。



第74図 7トレンチ土層断面図

### (5) 7トレンチ

7トレンチは、5トレンチの東側へ、直角に設定した。

遺構は、検出されなかったが、窪地が2ヵ所検出された。

土層は、1層が耕作土、2層が赤褐色土（火山灰含む）、3層が赤褐色土、4層が灰褐色土、5層が灰褐色土（酸化鉄含む）、6層が赤褐色土、7層が暗赤褐色土、8層が細粒砂層、9層が灰褐色土、10層が砂層、11層が砂礫層であった。

### (6) 8トレンチ（第74・75・76図、図版8-5・13）

8トレンチは、7トレンチの南西18mに設定した。6トレンチとの交差地点で、土葬骨が検出された。

土層は、1層が耕作土、2層が赤褐色土（火山灰を含む）、3層が焼土、4層が赤褐色土、5層が灰褐色土（酸化鉄を多く含む）、6層が灰褐色土（酸化鉄を非常に多く含む）、7層が砂層、8層が灰褐色土（酸化鉄を含む）、9層が灰褐色土（砂を含む）、10層が砂層（礫を含む）、11層が赤褐色、12層が砂層、13層が暗赤褐色土、14層が砂層（礫を含む）、15層が細粒砂層であった。

### 土葬骨（第76図）

位置 本土葬骨は、6トレンチとの交差する地点

概要 に検出された。大腿骨らしい骨が残っていたのみである。

規模 長さ0.39m、厚さ0.1m。

### 8トレンチ出土遺物（第69図）

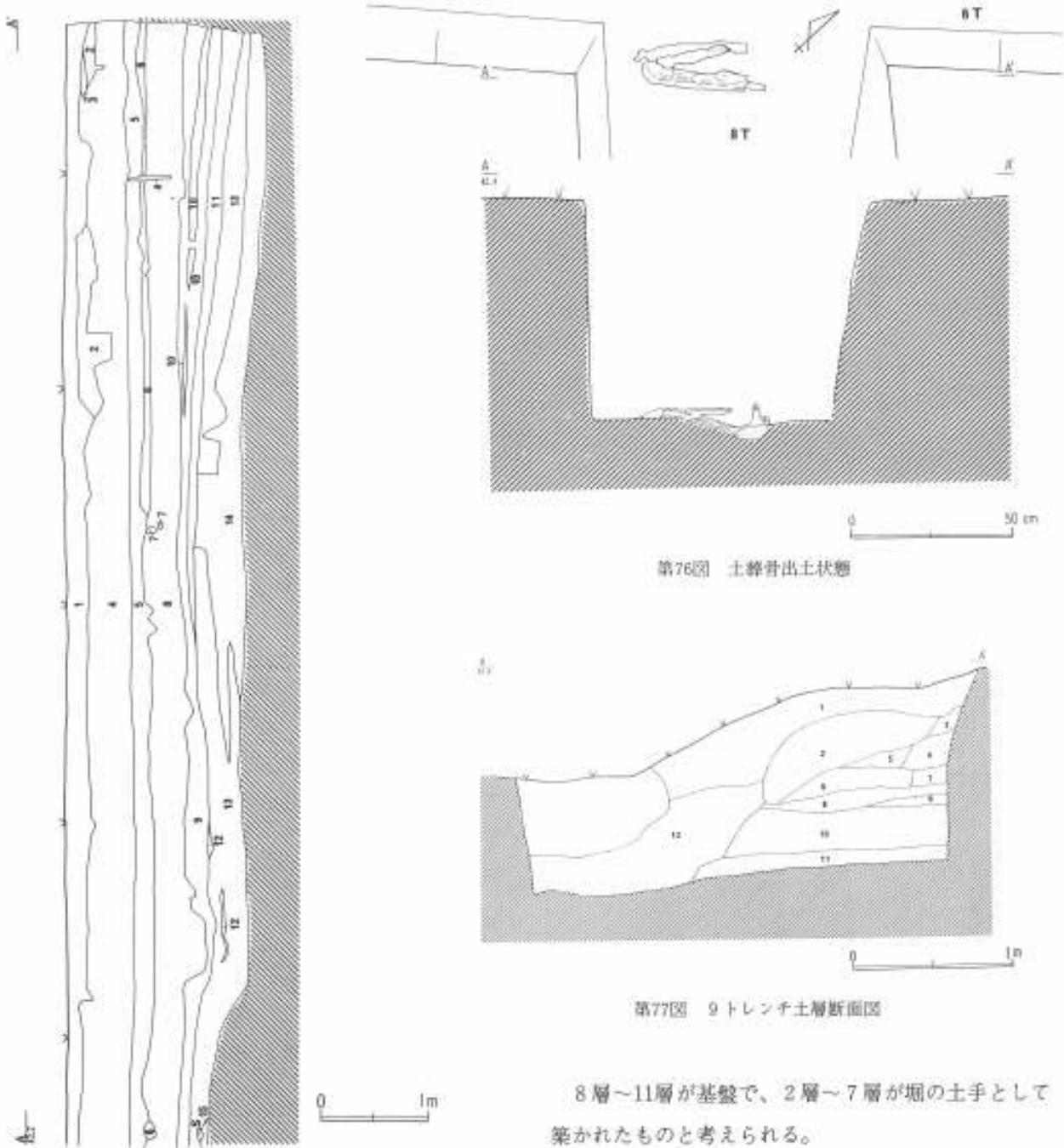
2一かわらけ。口径11.7cm、底径6.5cm、器高2.4

cm。中粒砂を含み、褐色。底部は回転糸切り。口部残存。

### (7) 9トレンチ

9トレンチは、I区の南側75mの位置で、ふるぼりといわれている堀の断面を切るために設定した。

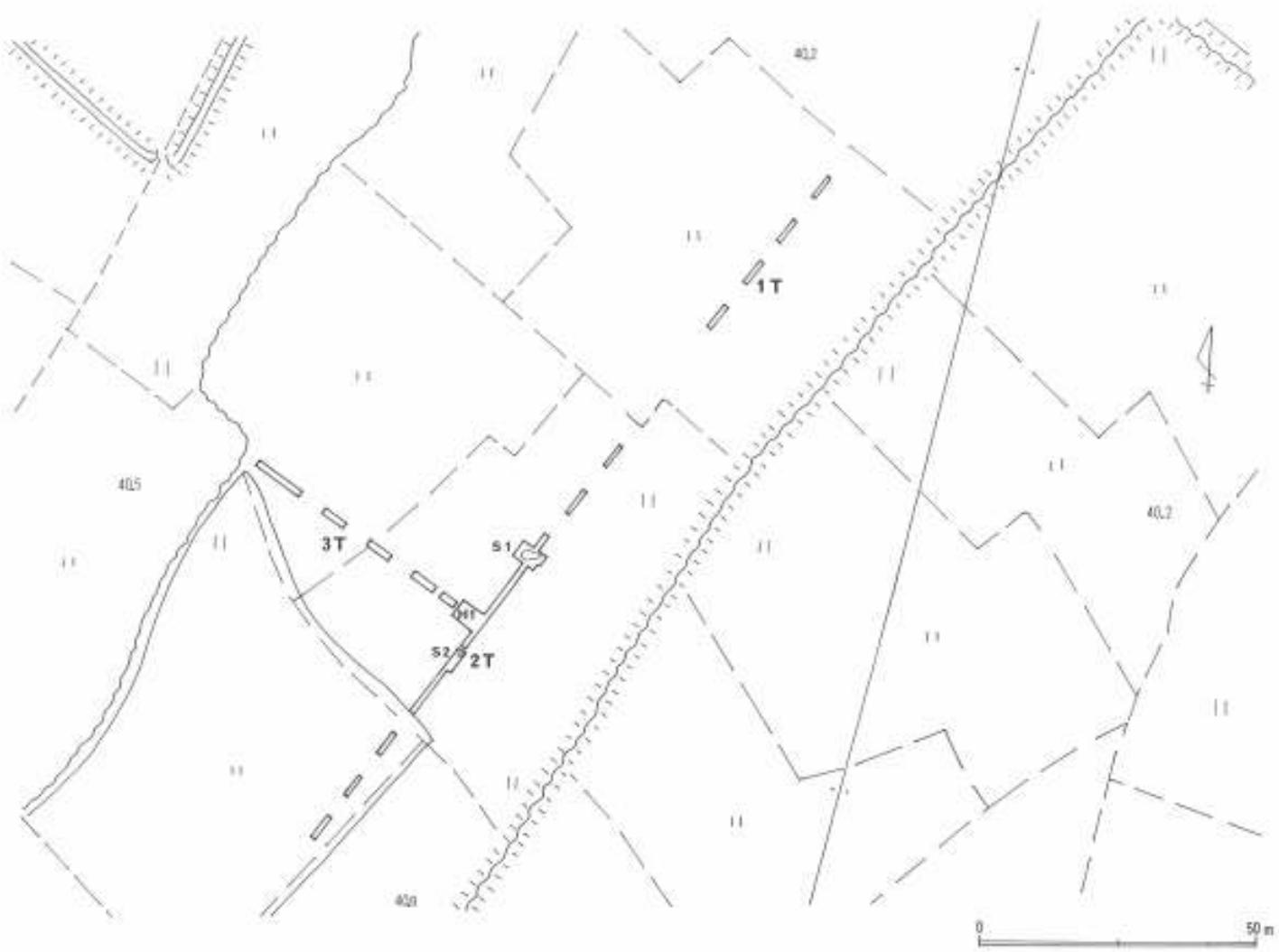
土層は、1層が表土（火山灰を含む褐色土）、2層が褐色土（約2~5cmの礫・火山灰を含む）、3層が褐色土、4層が暗褐色シルト、5層が暗褐色土（細粒砂を含む）であった。



第75図 8トレンチ土層断面図

8層～11層が基盤で、2層～7層が堀の土手として築かれたものと考えられる。

む)、6層が暗褐色土(の0.5～2cmの砂・礫を含む)、7層が灰褐色シルト(4層より細かく、酸化鉄を含む)、8層が灰褐色シルト(細粒砂・酸化鉄を含む)、9層が黒褐色土(焼土・炭化物を含む)、10層が暗褐色土(酸化鉄を少し含む)、11層が灰褐色土(酸化鉄を含む)、12層が灰褐色土(酸化鉄を含み、上部に火山灰が見られる)であった。



第78図 東進跡トレンチ配置図

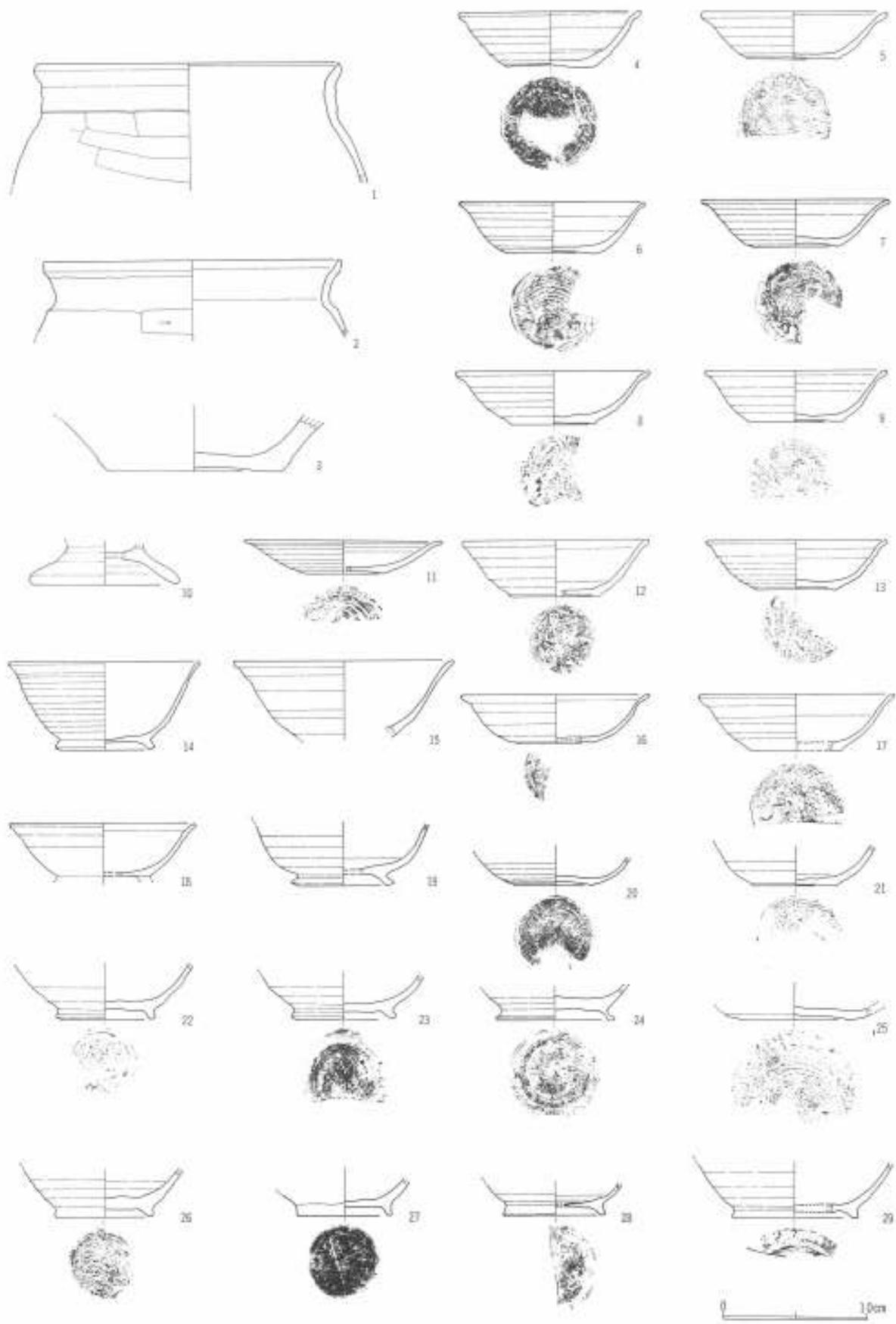
## VI. 東遺跡

## 1. 遺跡の概観

東遺跡は、黒沢遺跡の北東 500 m、58年度調査の樋ノ上遺跡の東 280 m の所に所在し、標高40.2~40.9mを測る。トレーナーを水路部分に 1 T と 2 T の 2 本を入れ、それに直交するように 3 T を入れた。今回の調査によって、集石遺構 2 基、整穴状遺構 1 軒が検出された。



第79図 1号集石遺構



第80图 1号石造構出土遺物

## 2. 遺構と遺物

1号集石遺構（第79・80図、図版8—6・13）

位置 本遺構は、2トレンチの北側に検出された。

概要 平面形は、柄鏡形に近く、長軸はほぼ東西方向を示す。北側と東側に長軸が0.8~1mのピットが3個、西側に直径20cmのピットが2個検出された。

規模 南北方向1.7m、東西方向4.55m。

遺物 土器片192点出土。

1—甕（土師器）。口径21.8cm、残存高8.5cm。粗・中粒砂含み、淡褐色。内面は黒色部が多い。口縁の土残存。

2—甕（土師器）。口径21.2cm、残存5.5cm。中粒砂含み、淡褐色。口縁の土残存。

3—甕（土師器）。底径12.7cm、残存高4cm。粗・中粒砂含み、褐色。底部の土残存。

4—甕（須恵器）。口径12.8cm、底径6.5cm、器高3.8cm。細礫・粗粒砂含み、灰褐色。底部は右の回転糸切り。土残存。

5—甕（須恵器）。口径12.9cm、底径6.5cm、器高3.3cm。粗・中粒砂含み、灰褐色。底部は右の回転糸切り。土残存。

6—甕（須恵器）。口径13.2cm、底径6.2cm、器高3.6cm。細礫・粗粒砂含み、灰褐色。底部は右の回転糸切り。土残存。

7—甕（須恵器）。口径13cm、底径5.8cm、器高3.3cm。細礫・粗・中粒砂含み、灰褐色。底部は右の回転糸切り。土残存。

8—甕（須恵器）。口径13.7cm、底径5.9cm、器高3.8cm。細礫・粗粒砂含み、灰褐色。底部は右の回転糸切り。土残存。

9—甕（須恵器）。口径12.7cm、底径6.5cm、器高3.7cm。粗粒砂含み、暗灰白色。底部は右の回転糸切り。土残存。

10—台付甕（土師器）。台部径10.6cm、残存高2.9cm。中粒砂含み、淡黄褐色。台部の土残存。

11—皿（土師器）。口径14.2cm、底径5.7cm、器

高2.3cm。粗・中粒砂含み、底部は右の回転糸切り。土残存。

12—甕（須恵器）。口径13.2cm、底径6.3cm、器高4cm。細礫・粗粒砂含み、灰褐色。底部は右の回転糸切り。土残存。

13—甕（須恵器）。口径12.6cm、底径5.6cm、器高3.5cm。細礫・粗粒砂含み、灰褐色。底部は右の回転糸切り。土残存。

14—甕（須恵器）。口径13.6cm、高台径7cm、器高6.3cm。粗・中粒砂含み、灰褐色。底部は右の回転糸切り。土残存。

15—甕（須恵器）。口径15.7cm、残存高5.4cm。粗粒砂を含み、黒褐色。体部の土残存。

16—甕（須恵器）。口径13.4cm、底径5.6cm、器高3.4cm。粗粒砂含み、黒灰褐色。底部は回転糸切り。土残存。

17—甕（須恵器）。口径13.8cm、底径6.2cm、器高4cm。粗・中粒砂を含み、暗淡褐色・黒褐色。底部は回転糸切り。土残存。

18—甕（須恵器）。口径13.2cm、底径6.6cm、残存高3.7cm。粗粒砂含み、外面は灰褐色、内面は暗灰白色。底部は右回転糸切り。土残存。

19—甕（須恵器）。高台径7.4cm、残存高4.4cm。中粒砂含み、灰褐色。底部は右の回転糸切り。土残存。

20—甕（須恵器）。底径5.8cm、残存高2cm。粗・中粒砂を含み、灰褐色。底部は右の回転糸切り。底部の土残存。

21—甕（須恵器）。底径5.8cm、残存高2.9cm。粗粒砂含み、黒灰褐色。底部は右の回転糸切り。底部の土残存。

22—甕（須恵器）。高台径7.1cm、残存高4cm。細礫・粗粒砂含み、黒褐色。底部は右回転糸切り。土残存。

23—甕（須恵器）。高台径7.5cm、残存高3.2cm。細礫・粗粒砂含み、黒色・暗淡褐色。底部は右の回転糸切り。底部の土残存。

24—甕（須恵器）。高台径8.4cm、残存高3cm。

細礫・粗粒砂含み、暗灰白色。底部は右の回転糸切り。底部の壺残存。

25—壺（須恵器）。底径7.6cm、残存高1cm。細礫・粗粒砂含み、暗灰白色。底部は右の回転

糸切り。底部のみ完存。

26—壺（須恵器）。高台径7cm、残存高3.4cm。細礫・粗粒砂含み、暗灰褐色。底部は右の回転糸切り。底部のみ完存。

27—壺（須恵器）。高台径6.8

cm、残存高2.7cm。粗・中粒砂含み、暗灰褐色。

底部は回転糸切り、底部のみ完存。

28—壺（須恵器）。高台径7.2cm、残存高2.3cm。粗・中粒砂含み、灰褐色。底部は回転糸切り。底部の壺残存。

29—壺（須恵器）。高台径8.8cm、残存高4cm。粗粒砂含み、褐色。底部は回転糸切り。体部下半の壺残存。

2号集石遺構（第81・83図、図版13）

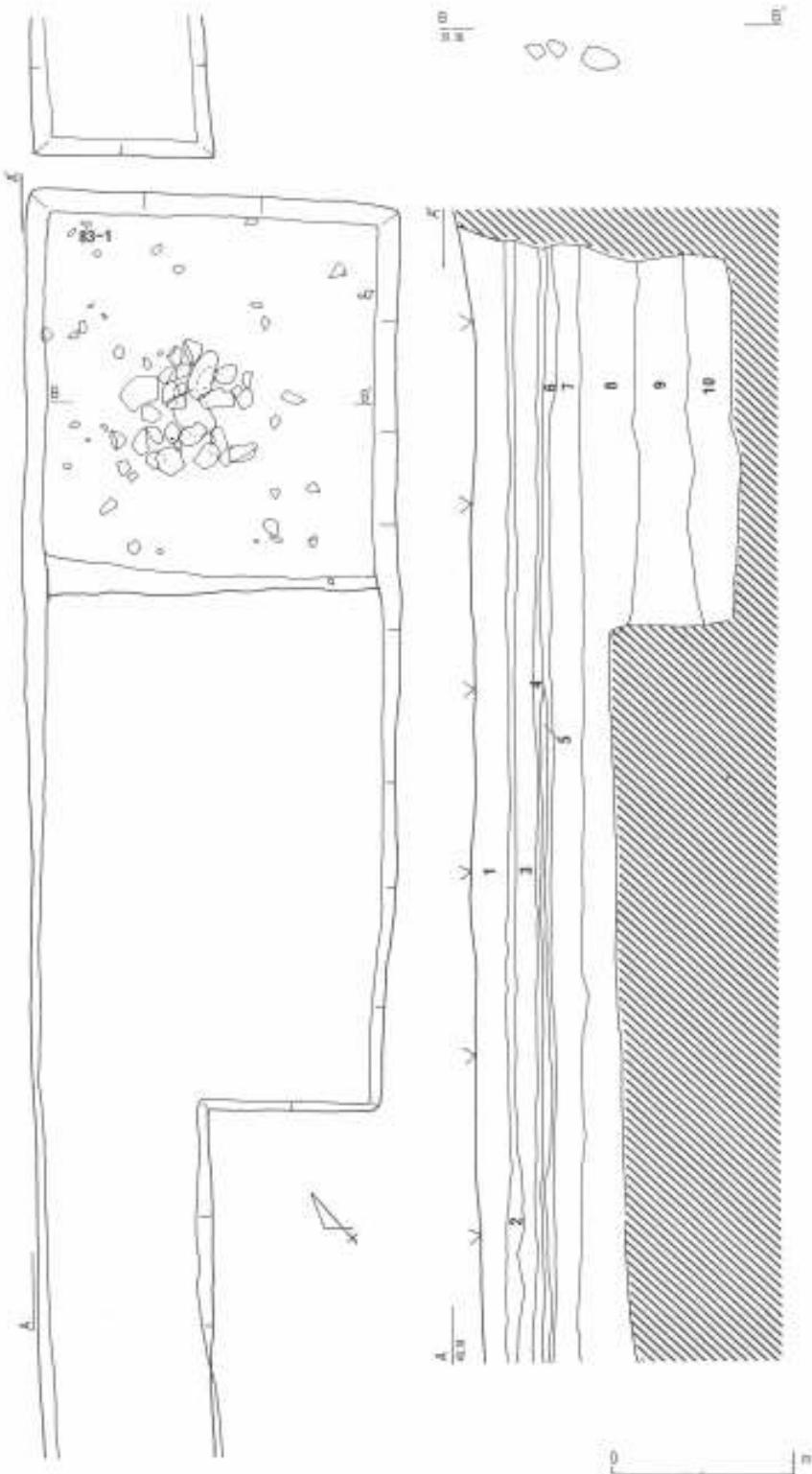
位 置 本遺構は、1号集石遺構の南西20mに検出された。

直 � 径 5~20cmの川原石が集積していた。

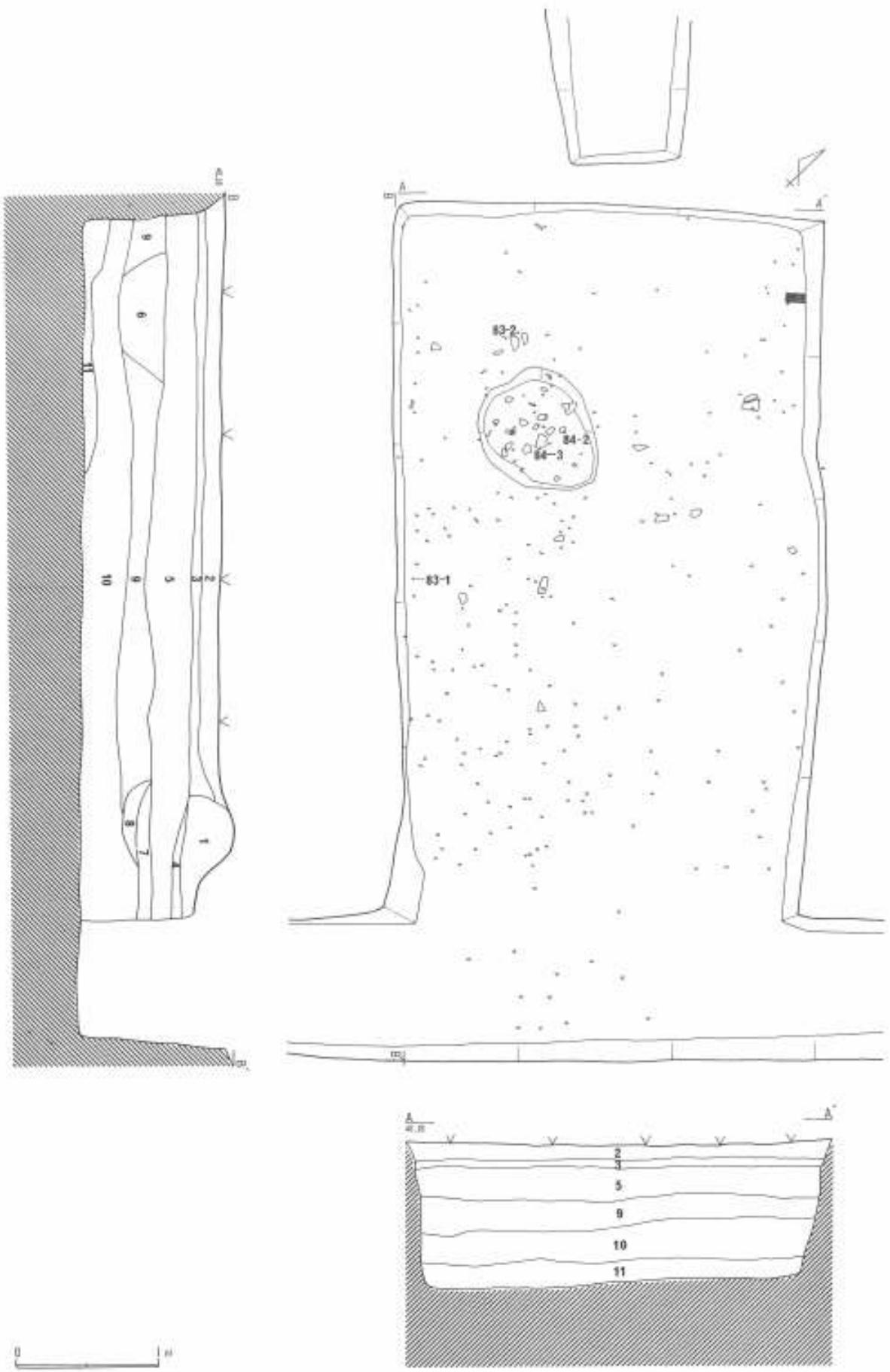
規 模 南北方向0.75m、東西方向1.13m。

遺 物 土器片35点、川原石33点出土。

83-1-壺（土師器）。口径12.8cm、残存高3.5cm。中粒砂含み、暗褐色・黒色・茶褐色。口縁の壺残存。



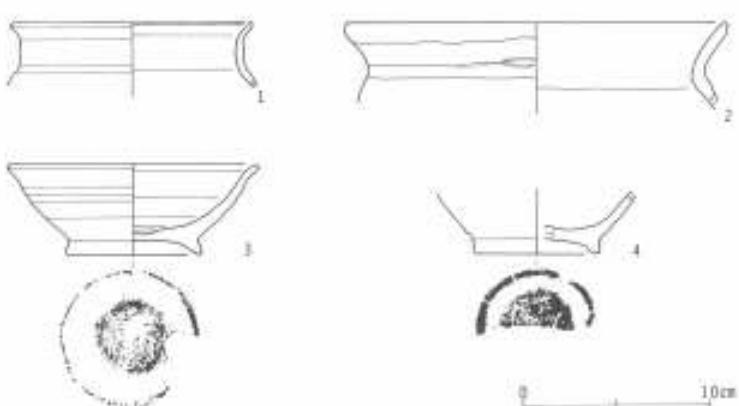
第81図 2号集石遺構



第82圖 1号竪穴状遺構



第83図 1号竖穴状遺構出土遺物



第84図 2号集石遺構・1号竖穴状遺構出土遺物

#### 1号竖穴状遺構 (第82~84図、図版8-2・13)

位 置 本遺構は、2トレンチと3トレンチの交差

概 要 する地区から検出され、土器片が集中して出  
土した。掘り込みが明確に検出されなかった  
が、一応竖穴状遺構という名称にした。

東側には、長軸0.95m、短軸0.79m、深さ  
0.16mを測る橢円形のピットが見られた。

規 模 不明。

遺 物 土器片 243点、古銭 3点、炭化物 2点、川  
原石 22点が出土。

83-1-古銭。元豊通宝。直径2.45cm。真書体。銅  
銭。標高39,597mの位置から出土。

83-2-古銭。元祐通宝。直径2.4cm。真書体。銅  
銭。標高39,323mの位置から出土。

84-2-甕 (土師器)。口径20.3cm、頸部径17.8cm,  
残存高4.7cm。中粒砂含み、淡褐色・暗淡褐  
色。口縁の土残存。ピット内で、標高38,997

mの位置から出土

84-3-甕 (須恵器)。口径13.4cm、  
高台径7.2cm、器高4.8cm。中  
粒砂を含み、淡黄褐色・黒色。  
底部は右の回転糸切り。土  
残存。ピット内で、標高39mの位置か  
ら出土。

84-4-甕 (須恵器)。高台径6.7cm、  
残存高3.3cm。中粒砂を含み、  
淡黄褐色。底部は回転糸切り。  
底部の土残存。南側から検出さ  
れ。標高39,195mの位置から出土

○古銭は、破片であるので図示しなかったが、  
皇宋通宝(真書体・銅銭)も1点出土した。

## VII. 若松遺跡及び黒沢遺跡出土の火葬・土葬の骨について

早稲田大学考古学研究室 金子 浩昌

### 1. 若松遺跡

#### 1号土葬墓

ヒトの臼歯が1個あったのみである。成人歯である。

#### 1号火葬墓

強く火で焼かれる。肋骨が多く、他に頭蓋の一部として鼓室部分がのこる。四肢では上腕骨骨頭部、成人。

#### 3号火葬墓

強く火で焼かれる。上腕骨骨頭部がのこる。その他は肋骨と肢骨の割れた骨片のみである。成人。

#### 4号火葬墓

ごく少ない焼骨であった。肋骨片と四肢骨中である。おそらく成人。

#### 5号火葬墓

強く火を受け骨は小さく裂ける。上腕骨の骨頭、大腿骨の骨頭片、四肢の破片が主である。成人。

#### 6号火葬墓

少量の火葬骨があったのみである。四肢骨の小断片である。

#### 9号火葬墓

火葬骨2片があったのみである。肋骨片。多分成人である。

#### 10号火葬墓

四肢、肋骨の小片で、部位を同定できる程のものはなかった。

#### 11号火葬墓

少量の火葬骨である。肋骨と肢骨の断片で、橈骨、大腿骨その他が小片となっていた。成人。

#### 12号火葬墓

ごく少量がのこされていた。四肢骨の小断片とともに指趾骨1点がはいっていた。成人。

#### 13号火葬墓

土葬された骨であって、保存は良くないが、齒ものこる。上顎の切歯と臼歯、下顎の臼歯があり、エナメル質面の咬耗がみられる。頭蓋の骨も断片的であるが頭頂、前頭、側頭骨片がのこされていた。成人、熟年。

#### 16号火葬墓

骨の総量がもっと多くのこされていたものである。頭蓋では頭頂骨片があり、橈骨片、尺骨片、大腿骨片、脛骨片があった。大腿骨は左右の骨があり、遠位骨が僅かながらのこされていた。肋骨片は、多数のこる。成人。

#### 17号火葬墓

肋骨片と上顎骨の口蓋部分がのこされていた。火葬骨である。歯はすべて脱落していた。成人。

#### 18号火葬墓

肋骨片1個があったのみである。

#### D-15区出土馬歯

ウマの下顎骨が埋められていた。写真の手前に並ぶのが左側の下顎歯で、右上の位置にあるのが右側下顎骨の舌側がみえている。右側の歯列には6つの歯がみえP<sub>1</sub>～M<sub>1</sub>であり、左側のはP<sub>1</sub>M<sub>1</sub>～M<sub>1</sub>までがみえる。左右の下顎

骨の位置がずれているのは、埋まるときにすでに左右が脱れていたのであろう。日本の在来馬である中型馬の大さきであり、歯は全高55~60mm前後であった。多少咬耗のみられた歯である。

## 2. 黒沢遺跡

### I 区20号土塚

土葬された骨であったために著しく保存が悪く、左右の判定等は困難な状態である。平行する二本の骨はそれぞれ大腿骨と脛骨であって、左右の骨が折り曲げられた状態が推定されよう。両脚が広く開いているので、あぐらをかくような姿勢が考えられる。成人の男性と思われることは、骨の大きさからも推定される。

### 4 トレンチ 1号土塚

衡1点と、後肢がのこされていただけである。それも保存は悪く、大きさ、形質をみるとほとんどできない。左右の大腸骨がのこるもので、西北に頭位を向け、伸展に近い姿勢ではなかつたかと思われる。成人。男性。

### 4 トレンチ 1号火葬墓

火葬骨である。ほとんどが土のブロックになっているもので、骨片は5~6点があるだけである。

### 8 トレンチ出土土葬骨

土葬された骨の一部であって、大腿骨らしい骨のブロックである。

## 3. 若松遺跡出土の火葬骨について

若松遺跡出土の火葬骨の中で、骨が比較的多くのこされていたのは16号墓のみであって、その他はごく一部の骨が集められているに過ぎなかった。16号墓については実測図面の詳細をみることができないが、ある程度整った墓壇があったのではなかろうか。その他の墓群は、一部の骨のみが集められて埋納されているようであり、それも散在するような状態であった。これらの人については成人骨であることは確かであるが、男女の性別についてみることは不可能であった。

## 4. 若松遺跡出土の馬歯について

馬歯については、もとは下顎骨があった可能性があり、何か特別の意味があつてもってこられるということは考えられないであろうか。井戸内から出土する馬歯、溝中から出土する馬歯、馬骨については、雨乞信仰にかかる祭的なものという考え方がある。今回の場合も遺跡全体の位置付とともに考えてみる必要があるのであろう。

## VIII. 若松遺跡出土木炭の放射性炭素年代測定結果

学習院大学教授 木 越 邦 彦

若松遺跡出土の試料についての<sup>14</sup>C年代測定の結果を下記の通り御報告致します。

なお年代値の算出には<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5570年を使用しています。また付記した誤差は $\beta$ 線計数値の標準偏差 $\sigma$ にもとづいて算出した年数で、標準偏差 (one sigma) に相当する年代です。試料の $\beta$ 線計数率と自然計数率の差が $2\sigma$ 以下のときは、 $3\sigma$ に相当する年代を下限とする年代値 (B.P.) のみを表示してあります。また試料の $\beta$ 線計数値と現在の標準炭素についての計数値との差が $2\sigma$ 以下のときには、Modernと表示し、 $\delta^{14}\text{C}$ %を付記してあります。

Code No	試 料	B.P. 年代 (1950年よりの年数)
Gak-12616.	Wood charcoal from Wakamatsu Site. 3号火葬墓	1250 ± 90 A.D. 700
Gak-12617.	Wood charcoal from Wakamatsu Site. 4号火葬墓	1680 ± 90 A.D. 270
Gak-12618.	Wood charcoal from Wakamatsu Site. 7号火葬墓	1380 ± 30 A.D. 570

### VIII. まとめ

今回の調査によって、若松遺跡、黒沢遺跡、東遺跡の3遺跡が調査された。

若松遺跡は、配石遺構2基、集石遺構18基、土葬墓1基、火葬墓19基、ピット5個、溝跡1本が検出され、配石遺構から、中国製の自磁・青磁・常滑・瀬戸・かわらけ・内耳土器・板碑片・鉄釘・鉄滓・轍口・石臼片等が出土した。集石遺構は、1号配石遺構の南側に検出され、1号配石と関連のあるものと考えられる。

土葬墓は、常滑の大壺を利用した埋甕であり、人骨は腐食しており、歯だけ残っていたが、大壺は赤羽一郎氏編年のⅣ期の後半(15世紀前半)にあたると考えられる。

火葬墓は、多くの人骨片、木炭が出土したので、人骨鑑定、<sup>14</sup>C年代測定を行った。人骨は、成人が多く、<sup>14</sup>C年代測定結果は、A.D. 270年、570年、700年という年代であった。

火葬墓の遺物は、19号火葬墓からかわらけ、3・4・6・16号火葬墓から鉄釘が出土した。19号火葬墓のかわらけは、13~14世紀と考えられる。<sup>14</sup>C年代測定結果とは、年代がだいぶ異なり、年代測定の難しさを感じた。

配石遺構の遺物は、竪穴式住居跡等の覆土の中の遺物というより、川原石に混在している遺物であり、伴出關係をつかむのがむずかしいが、1号配石遺構は、常滑の鉢・内耳土器・擂鉢・かわらけ等が出土しており、13世紀後半~15世紀と考えられる。2号配石遺構は、常滑の甕・渥美の大壺・瀬戸の碗・かわらけ等が出土しており、渥美の大壺は12世紀後半だが、他は13世紀後半~15世紀と考えられる。

若松遺跡は、調査区の北側に、祠と松の木があり、地元の人達に「一本松」と呼ばれ、「般若寺跡」という言い伝えもある。渡辺山の「訪題録」に、「般若寺跡」の記載があり、「般若寺古跡、横町水田ノ中ニアリ、コレ亦黒澤氏創ムル所、老松アリ、今尚存ス。」と記されている。「頭尾全図」にも「般若寺跡」が記載され、位置的にも、若松遺跡と同じ様に考えられる。

黒沢遺跡は、黒沢館跡の南側にあり、I区から、ピット105個、土塙36基、溝跡3本が検出され、4トレンチから土葬墓1基、火葬墓1基・ピット11個・窓地跡1、5トレンチから集石遺構1基、8トレンチから土葬墓が検出された。

黒沢遺跡の遺物は、出土量が少なかったが、I区のピットから16世紀のかわらけ・磁石、4トレンチの土葬墓から15世紀のかわらけ・古錢・刀子が出土した。

東遺跡は、集石遺構2基、竪穴状遺構1軒が検出された。若松遺跡の集石遺構と異なり、川原石に多数の須恵器・土師器が混在しており、年代も違っていて、遺構の性格も異なるものと考えられる。

三尻遺跡群 若松遺跡・黒沢遺跡・東遺跡  
写 真 図 版

図版 1



若松遺跡航空写真

図版 2



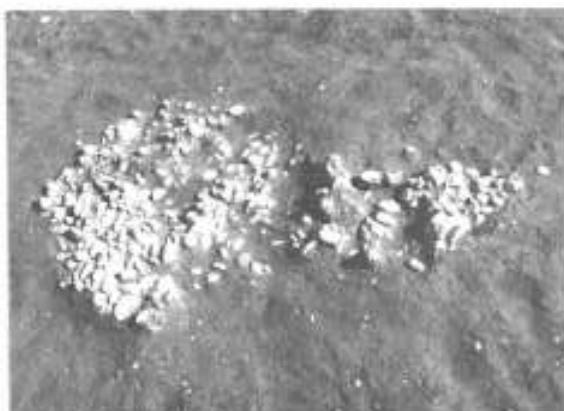
1. 道路遺景（発掘調査前）



2. 2号配石遺構



3. 集石遺構群遠景



4. 5号集石遺構



5. 8号集石遺構



6. 14号集石遺構



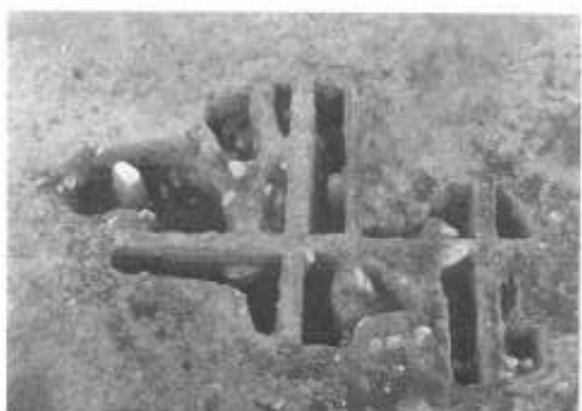
1. 18号集石堆構



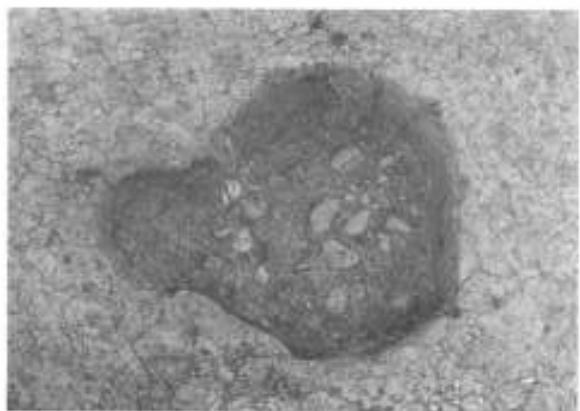
2. 1号火葬墓



3. 3・4号火葬墓



4. 5・6号火葬墓



5. 8号火葬墓



6. 9号火葬墓

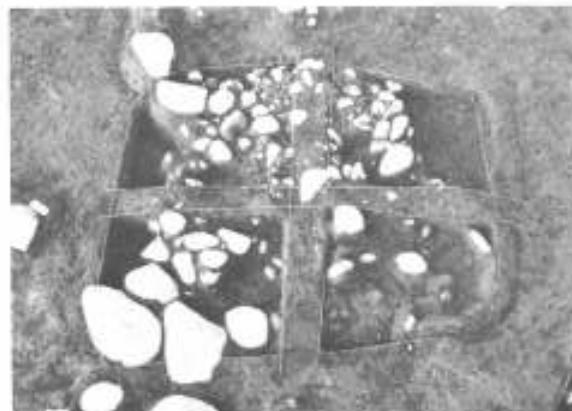
図版4



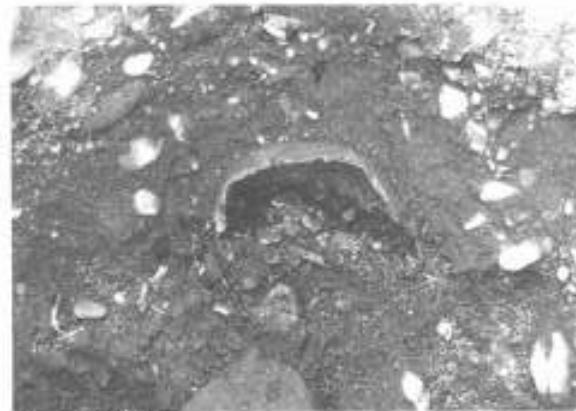
1. 10号火葬墓



2. 12・13・14号火葬墓



3. 13号火葬墓



4. 13号火葬墓



5. 15号火葬墓



6. 16号火葬墓



1. 19号火葬墓



2. 1号土葬墓



3. 2号配石遺構板碑出土状態



4. 2号配石遺構出土土器 47-5



5. 2号配石遺構出土土器 47-6



6. D-15区出土馬齒

図版 6



黒沢遺跡航空写真

図版 7



1. 黒沢遺跡土塙・ピット群



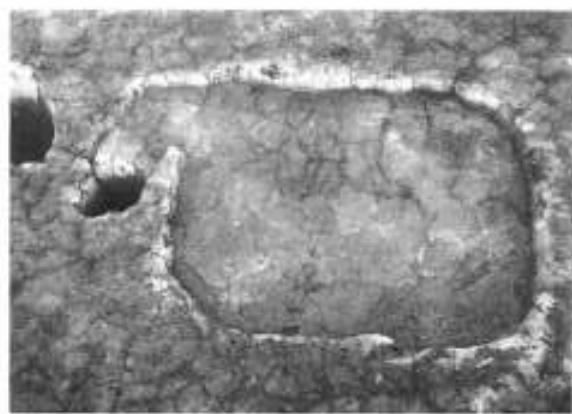
2. 1区4号土塙



3. 1区20号土塙



4. 1区20号土塙

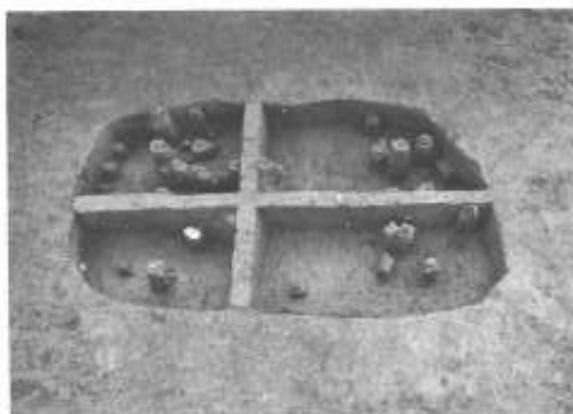


5. 1区18号土塙、65号ピット



6. 28・29号土塙、93号ピット

図版 8



1. 1区30号土坑



2. 1号堅穴、7号土坑、12・13号ピット



3. 4トレンチ1号土坑



4. 4トレンチ1号土坑 遺物出土状態

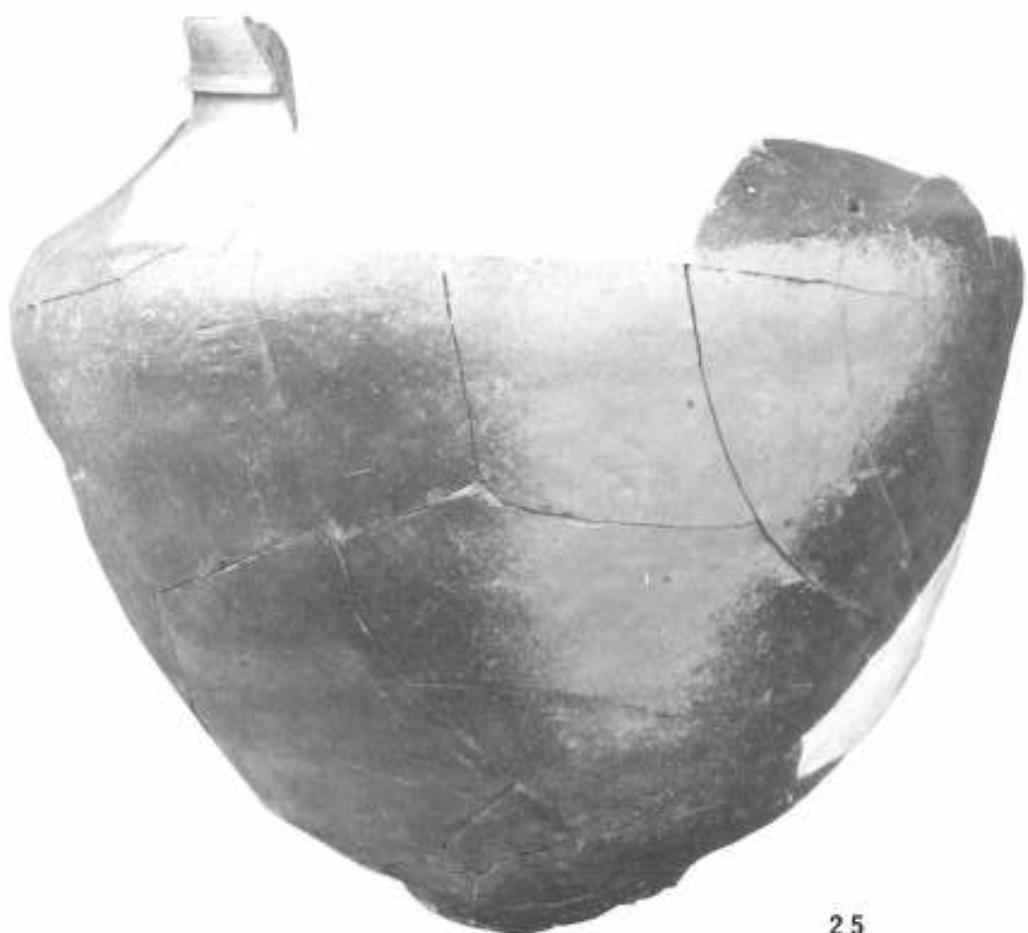


5. 8トレンチ土葬骨出土状態



6. 東遺跡1号集石遺構

図版 9

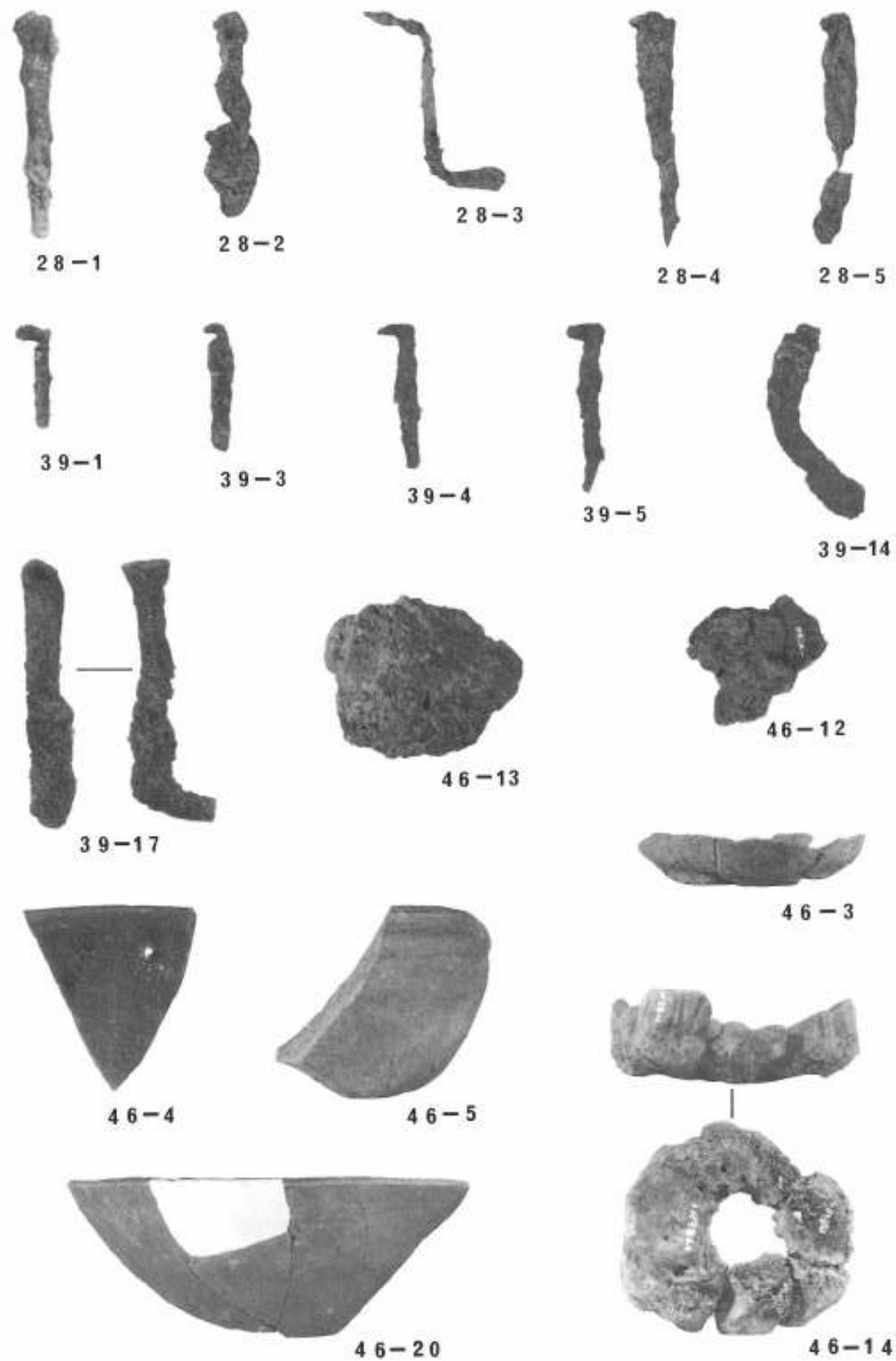


25

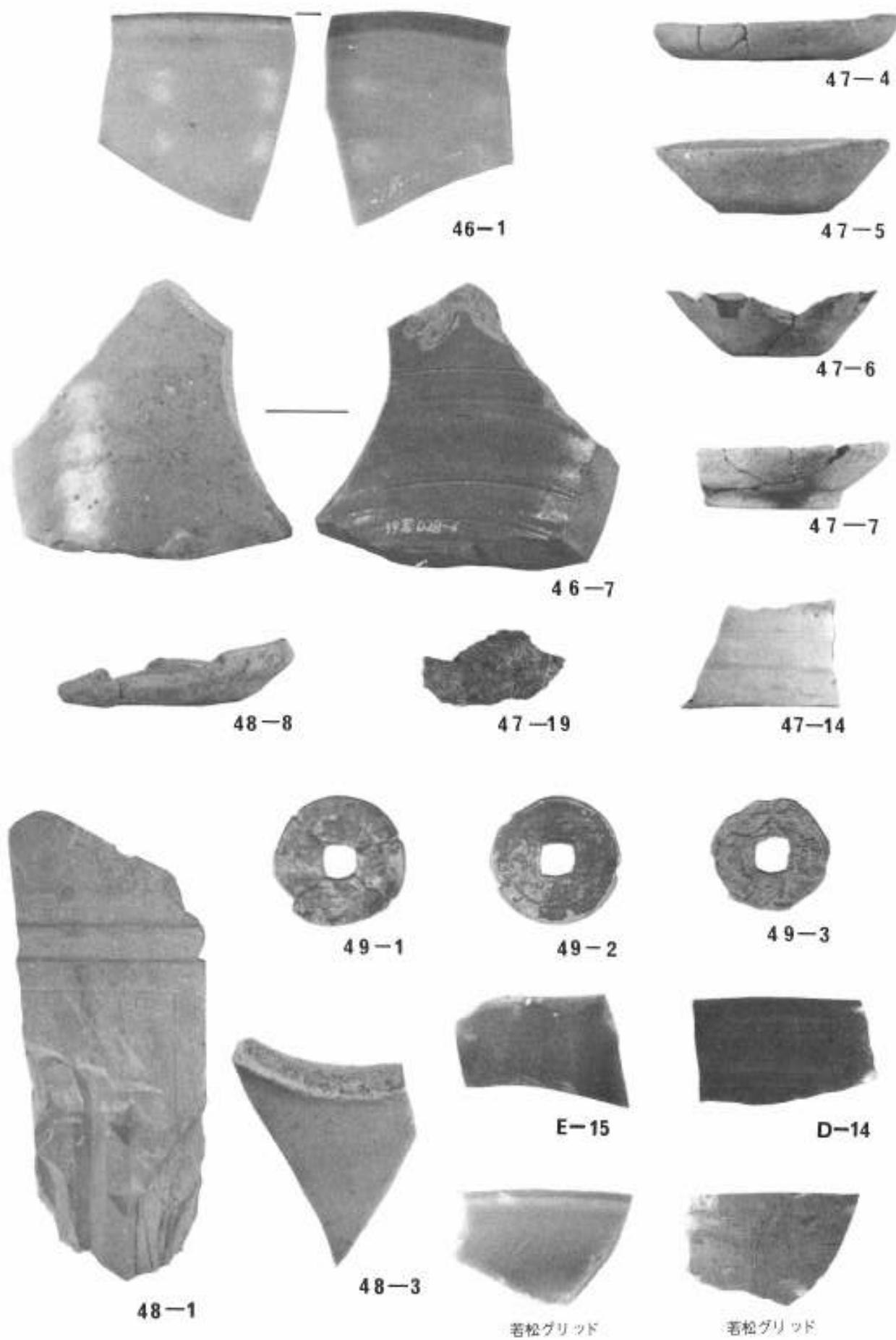


47-20

図版10



図版11



図版12



若松グリッド



D-17 区



E-4 区



I-13 区



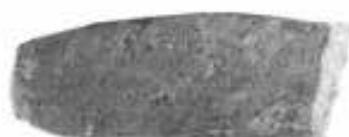
47-15



64-2



64-3



64-5



64-4



三沢4トレンチ



68-1



68-2



68-3



68-5



68-6



68-7



68-8



68-9



68-10



68-11



68-12



68-13



68-16

図版13



69-3



69-2



69-5



69-6



80-1



80-4



80-7



80-17



80-19



83-3



84-1



84-2

---

昭和61年3月発行  
昭和60年度 熊谷市埋蔵文化財調査報告書

三尻遺跡群 若松遺跡、黒沢遺跡、東遺跡  
編集発行 埼玉県熊谷市教育委員会  
印 刷 株式会社 博 文 社

---